OKITEN 2017
沖展 69th
EXHIBITION

絵　画　Fine Art
版　画　Print
彫　刻　Sculpture
グラフィックデザイン　Graphic Design
書　芸　Calligraphy
写　真　Photograph
工　芸〔陶芸〕　Pottery
工　芸〔漆芸〕　Lacquer Ware
工　芸〔染色〕　Dyeing
工　芸〔織物〕　Weaving
工　芸〔ガラス〕Glass Ware
工　芸〔木工芸〕Woodwork

●会期 /2017 年 3 月 18 日 (土) ～ 4 月 2 日 (日)　●会場 / 浦添市民体育館

OKITEN 2017

沖展 69th

EXHIBITION

第６９回「沖展」

うららかな春の訪れとともに、今年も“春を彩る美の祭典”「第69回沖展」が浦添市民体育館で開幕しました。

一般応募作966点の中から入賞・入選した563点と、沖展会員・準会員の作品を合わせた合計810点が会場に展示されています。どれも意欲と熱意のあふれる作品で主催者として大変嬉しく思います。

沖展は、沖縄戦で荒廃した郷土の復興のために1949年7月に創設され、以来、芸術文化の力を借りて人々へ生きる力を与えてきました。今年で69回を数えますが、県内最大規模の公募美術展として県民に愛されております。

その中では美術・工芸に親しむ方々の裾野を広げるとともに、入賞を契機に県内外で活躍する芸術家を数多く輩出しております。沖縄から世界へ飛び立つ人材の発掘・育成に貢献することは、沖縄タイムス社にとって大きな誇りです。

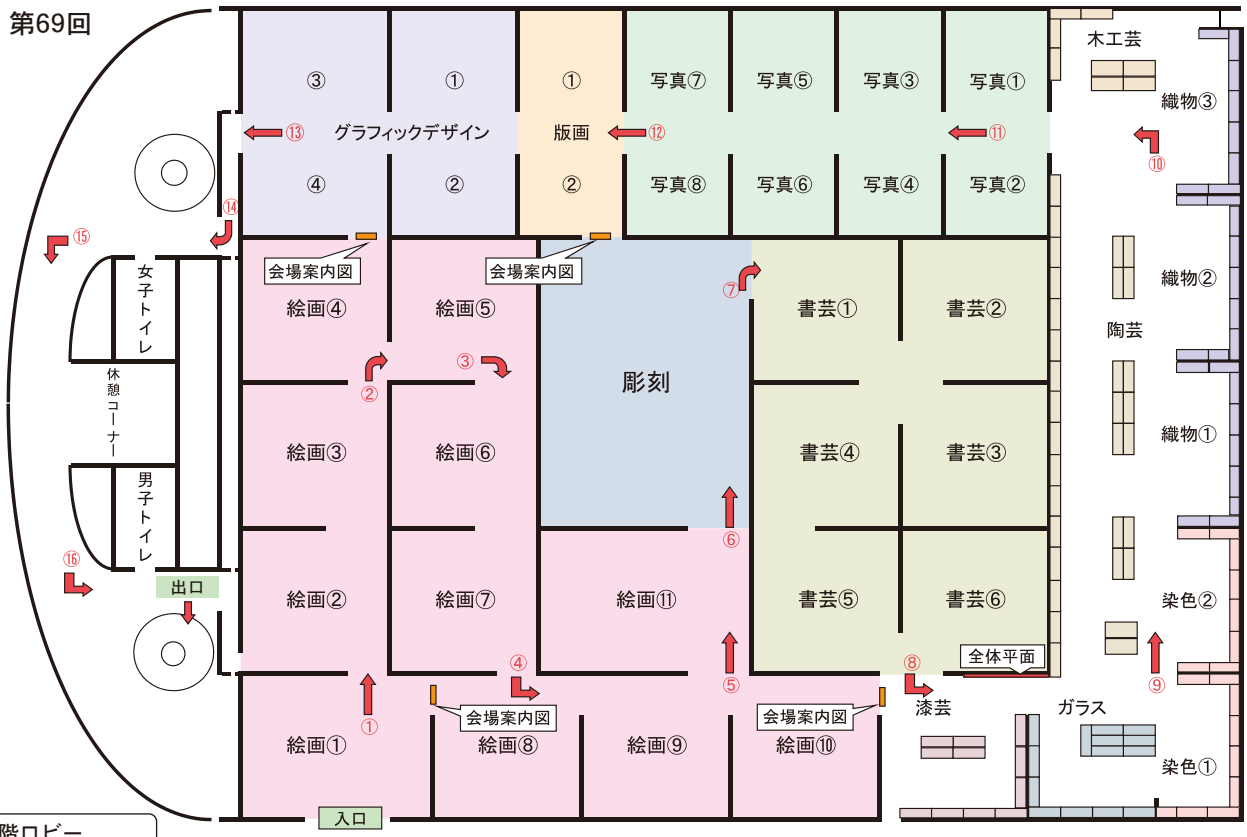
今回も絵画や版画、彫刻、写真、陶芸にガラス、書芸など12部門で厳正に審査され、素晴らしい作品が入選しました。作家のみなさんが技を磨き、豊かな感性を自由な発想で表現した作品ばかりで、多くの人を魅了することでしょう。ぜひ、ゆっくりとご鑑賞いただき、作家たちの思いを感じ取っていただければ幸いです。

今後も、豊かな感性と創造性に満ちた作家たちが、引き続き沖展に挑戦されるとともに、美術ファンのみならず多くの県民が沖展を通して沖縄をフィールドにした表現活動に触れ、それが地域文化の活力につながるよう願っています。

最後に、沖展の運営に尽力された各部門の会員・準会員のみなさま、会場の提供など多大なご協力をいただきました浦添市をはじめ、浦添市教育委員会、浦添市民体育館、浦添市てだこホールの皆さま、「沖展」の趣旨に賛同いただき、ご支援を賜りました協賛企業、後援団体の関係各位に心より御礼申し上げます。

沖縄タイムス社

沖展会場案内図



体育館 1 階ロビー
・会員作品販売コーナー
・沖縄タイムス社
　書籍販売コーナー

第69回「沖展」審査結果

部門		一般応募								準会員					会員			総合計	
		応募点数(人数)	沖展賞	奨励賞	浦添市長賞	うるま市長賞	沖縄教育出版賞	入選	計	応募点数(人数)	準会員賞	他展示数	計		会員点数(人数)	特別展示	計	(総展示数)	(総人数)
絵画		150点	(150人)	1	3	1	1	1	88	95点	(95人)	17点	(17人)	2	15	17点	34点	(34人)	0	34点	146点	(146人)
版画		22点	(17人)	1	1	1	1	1	9	14点	(12人)	5点	(3人)	1	4	5点	9点	(9人)	0	9点	28点	(24人)
彫刻		27点	(23人)	1	2	1	1	1	15	21点	(19人)	4点	(4人)	1	3	4点	15点	(15人)	0	15点	40点	(38人)
グラフィックデザイン		46点	(38人)	1	3	1	1	1	28	35点	(30人)	1点	(1人)	0	1	1点	15点	(11人)	0	15点	51点	(42人)
書芸		262点	(262人)	1	4	1	1	1	183	191点	(191人)	32点	(32人)	2	30	32点	38点	(38人)	0	38点	261点	(261人)
写真		318点	(180人)	1	3	1	1	1	85	92点	(79人)	9点	(9人)	2	7	9点	9点	(9人)	1	10点	111点	(98人)
工芸	陶芸	67点	(54人)	1	2	1	1	1	38	44点	(43人)	4点	(4人)	1	3	4点	13点	(13人)	1	14点	62点	(61人)
	漆芸	10点	(7人)	1	1	1	1	0	6	10点	(7人)	0点	(0人)	0	0	0点	8点	(8人)	0	8点	18点	(15人)
	染色	13点	(11人)	0	1	1	1	0	9	12点	(11人)	1点	(1人)	1	0	1点	6点	(6人)	0	6点	19点	(18人)
	織物	20点	(20人)	0	3	1	1	0	14	19点	(19人)	2点	(2人)	1	1	2点	12点	(12人)	0	12点	33点	(33人)
	ガラス	20点	(19人)	0	3	1	1	0	14	19点	(19人)	1点	(1人)	0	1	1点	5点	(4人)	0	5点	25点	(24人)
	木工芸	11点	(7人)	1	2	1	1	0	6	11点	(7人)	3点	(2人)	2	1	3点	2点	(1人)	0	2点	16点	(10人)
合計		966点	(788人)	9	28	12	12	7	495	563点	(532人)	79点	(76人)	13	66	79点	166点	(160人)	2	168点	810点	(770人)

第 69 回「沖展」の日程

■会　期：2017年3月18日（土）～4月2日（日）午前10時～午後6時（入館は午後5時30分、最終日は午後4時30分まで。）
■会　場：浦添市民体育館
●開会式　　3月18日（土）午前9時30分　浦添市民体育館入り口
●表彰式　　3月19日（日）午後4時30分　浦添市てだこホール大ホール
●合同祝賀会　3月19日（日）午後6時　　浦添市てだこホール市民交流室

第 41 回「沖展」うるま市選抜展

■会　期：2017年4月6日（木）～12日（水）午前10時～午後6時
■会　場：うるま市生涯学習・文化振興センター（入場無料）

第69回「沖展」併催イベント

日　程		作品解説会 場所：浦添市民体育館展示会場内	併催事業 場所：体育館下の１階ロビー・屋外イベント会場・浦添市てだこホール	
3月18日	（土）	【絵　画】14時～ 【書　芸（前期）】15時30分～		『沖縄タイムス出版物販売』 『沖展会員作品チャリティー販売』 ■ 期間：3/18（土）～4/2（日） ■ 会場：体育館下の1階ロビー 『沖展みんなの1点賞』 ■ 投票期間：3/18（土）～3/29（水）
3月19日	（日）	【木工芸】11時～ 【織　物】14時～	■第69回「沖展」表彰式・合同祝賀会　16時30分～ 浦添市てだこホール（大ホール・市民交流室）	
3月20日	（月）	【グラフィックデザイン】11時～ 【漆　芸】14時～ 【写　真】15時30分～	■オリジナル缶バッジ制作 14時～16時　体育館1階ロビー	
3月21日	（火）			
3月22日	（水）			
3月23日	（木）			
3月24日	（金）			
3月25日	（土）	【染　色】11時～ 【版　画】14時～ 【彫　刻】15時30分～	■シルクスクリーンで作るTシャツ・エコバック 11時～13時　体育館1階ロビー ■カナクリ（かんなくず）で遊ぼう 13時～15時　体育館1階ロビー	
3月26日	（日）	【陶　芸】11時～ 【ガラス】14時～ 【書　芸（後期）】15時30分～	■沖展モデル撮影会 10時～12時　体育館周辺（屋外） ■陶芸教室（ろくろ体験・面シーサーづくり） 14時～16時　体育館屋外広場 ■沖展プリント教室 13時～18時　体育館1階ロビー	
3月27日	（月）			
3月28日	（火）			
3月29日	（水）			
3月30日	（木）			
3月31日	（金）			
4月 1日	（土）			
4月 2日	（日）			

（注）上記日程は都合により変更の場合があります。「屋外イベント」は荒天時には中止する場合があります。

CONTENTS

絵画部門	Fine Art	4
版画部門	Print	24
彫刻部門	Sculpture	32
グラフィックデザイン	Graphic Design	41
書芸部門	Calligraphy	50
写真部門	Photograph	79
工芸部門［陶　芸］	Pottery	92
工芸部門［漆　芸］	Lacquer Ware	104
工芸部門［染　色］	Dyeing	109
工芸部門［織　物］	Weaving	114
工芸部門［ガラス］	Glass Ware	120
工芸部門［木工芸］	Woodwork	126
物故会員・略歴		133
沖展のあゆみ		134
会員・準会員名簿		153
沖展会則		158
広告		

※会員、準会員、入賞、入選氏名は 50 音順

絵画部門

総評ーウエチ　ヒロ（会員）

第69回沖展・絵画部門の応募点数は150点だった。作品の傾向は具象や抽象、半具象がほとんどで、コンセプトアートの類は少なく応募者数の減少とともに平均年齢が高いのが少し気になった。

挙手による最初の審査では77点が入選し、保留が31点、選外が42点であった。保留作品は再審査するのだが、その際には審査員同志で真剣な意見が交わされる。その結果18点が入賞圏内に入った。審査は投票も含めて5次にわたり、沖展賞には鈴木金助さんの作品「シリーズ・海への誘（いざな）い白の景色」、奨励賞には仲程悦子さんの「記憶の向こう」と北山千雅子さんの「2017」が決定した。

近年、めざましい活躍で注目を浴びている上記3人の方々は全会一致で準会員に推挙された。新たなステージでこれまで以上に熱の入った創作活動に励んでもらいたいと思う。また、独自の世界観を見せる鶴見伸さんの作品「LACANS」も奨励賞を手中にした。ベテラン作家の表現は味わい深いものがある。

今回、特に喜ばしいのは若手の台頭である。「沖縄教育出版賞」は学生の創作活動を奨励する目的のために第64回展に新設された。絵画部門ではこれまで該当者がなかったが、初の受賞者は18歳の新垣なつみさん「Contrast」。初々しい表現に好感が持てる。将来が楽しみだ！他にも2人の若い学生が入選している。これを機に若い作家たちの応募が増えることを期待している。

ほかに一般からの受賞では赤嶺美代子さんの作品「あじさい苑」が2度目の浦添市長賞に、サンリー・ヨンツォーさんの作品「弧島のうむい」はうるま市長賞に輝いた。準会員賞には新崎多恵子さんの「刻」と山川さやかさんの「カタブイ」が選ばれた。お二人とも自分の作品への自信が伺えるような傑作である。なお、各受賞者の作品内容については、審査員によるそれぞれの作品評があるので展示会場の他の作品と合わせて楽しんでいただきたい。

会員作品

うたたね――赤嶺正則
空――池原優子
ゲルニカより（8）――稲嶺成祚
時空を越えて――ウエチヒロ
ノスタルジー――上間彩花
鼓――浦添健
「生の剣（せいのつるぎ）」――大城譲
風景の中で――大浜英治
地球温暖化・頭脳温暖化――奥本静江
赤い地平線 17・C・――喜久村徳男
造形探求の扉――喜友名朝紀
月明かり――金城進
愚者（おろかもの）――金城幸也
俯瞰 2――具志恒勇
浸食――具志堅誓謹
K 氏像Ⅱ――久場とよ
潮流のラビリンス――佐久本伸光
相――佐久本米子
碧と白の時空――城間喜宏
追憶「井戸端の二人」――新垣正一
線のいろいろ 17-A――砂川喜代
Wind scape――知念秀幸
望郷――鎮西公子
漂着――当山進
「自画像」――中島イソ子
時間の人（ときのひと）――治谷文夫
景（17）――比嘉武史
悲――比嘉良二
パテ ローマ ムシャーマ（波照間）――宮里昌信
銀色の街――安元賢治
視泉――山内盛博
「戻り道」――屋良朝春
不条理 17――与久田健一
点と位置と――與那嶺芳恵

準会員賞

刻――新崎多恵子
カタブイ――山川さやか

準会員作品

季節の移ろい――赤嶺広和
娘たちの輝き――伊川はるよし
憧憬――伊波則雄
風のある街 ゲルニカの衝撃より 沖縄へ、色彩と線――岸本ノブヨ
想――金城恵美子
大王椰子（小禄）――新城弘市郎

ゆがふ世がやゆら――砂川恵光
ンカシバナシー――知念盛一
あがたぬくがた――仲松清隆
点の理――並里幸太
みち――橋本弘徳
そよぐ――平川宗信
土人――松田盛吉
こく――山城政子
簾――山田　武

沖展賞

“シリーズ 海への
誘（いざな）い”白の景色　鈴木金助

奨励賞

2017――北山千雅子
LACANS――鶴見　伸
記憶の向こう――仲程悦子

浦添市長賞

あじさい苑――赤嶺美代子

うるま市長賞

弧島のうむい――サンリー・ヨンツォー

沖縄教育出版賞

Contrast――新垣なつみ

一般入選作品

登り窯――赤嶺慎次
「シダの生ける杜・比地川」―東　光二
希求 - 悠悠閑閑――新垣龍子
水槽の中のファンタジー―伊芸匠志
侵蝕――池原菊江
いにしえ――石川哲子
松韻――石川豊子
記憶のスペース――石原美智子
樹――伊志嶺和子
石の顔――伊是名教子
雨のプロムナード――伊是名吉明
木村家――稲冨民子
黄昏――今村紀子
オヤケアカハチ x 尚真王の乱-伊禮青勝
Elements Composition―上田達大
礁――上原成美
花の形象――上原はま子
IDOL（DOUBLE）――浦田健二
ゴーヤーチャンプルー―運天　肇
パッション――大城勝美
陸に上った鰹船――大城信利
階段のある風景――大城春信
プラハの夏（プラハ城・チェコ）大城喜満
夏の終わり――奥浦光子
「喚鐘」平和の使者はあなた！-親川　浩
木麻黄のある風景――我那覇絹子
2017 幸福に導く――我部よしみ
森のプレリュード 2017―喜屋武信子
美童（みやらび）――金城ありさ
BLooming――金城治子
昼さがりの再開発工事現場―金城英男
風渡る――金城美智子
FLOW（流れ）――金城由美子
冬のおとずれ――具志喜三
力――具志堅古秀
竹林――国吉文子
MIRAI WA KOKOKARA―久場兼一郎
大海へ――小谷明美
魂・破壊と再生――小橋川邦子
アルバイシン――小波津　健
埋蔵物甦生――座覇政秀
メッセージ――島袋孝勇
内なる声――城間幸子
海鳴り――平良江美子
靜――高江洲陽子
ファンタジー――嵩原武子
消えない記憶――玉木義勝
メモリアル――玉寄貞子
長命泉――知念清哲
せせらぎ――知花末子
うららか――知花竜也
広場（葉影の印象）――津波信久
母の戸棚――津波古政廣
Slowly――當間よしの
蒼然――當山武弘
深淵の光景――渡久地美智子
つながる - 宙へ -――仲座包子
烈――仲宗根市子
雲わく久場島――仲宗根勇吉
秋のシンフォニー――名嘉地タカエ
早春の押川――名嘉原盛吉
故郷――長嶺勝磨
刻――長嶺末子
心根の風景――仲本潤一郎
いのちの還る場所――仁添まりな
魚紋壷のある光景――根路銘恵二
飛翔――比嘉　孝
樹 Ⅶ――比嘉　博
ロンド――辺土名リュ子
アダンの群生（初冬の）-真榮城　孝
暁に立つ――前田初枝
「樹」――真志喜幸子
廻り生くⅢ――又吉園子
旅立ちの時――松島朝重
投影――松田利男
地層の中から――港川浩秀
対決する目Ⅰ――宮城郁代
花たち――宮城貴子
ゴーヤー畑――宮城良眞
土と水と――宮里　香
私のメルヘンから・・・
PART　75――宮里ユキ子
サンセバスティアン街―宮良　修
芭蕉布の里――盛根正昭
慟哭――諸見志津子
輪と絆――山城辰彦
無気味――与那覇　俊
国籍不明の塔――與那覇　勉

2012 年 8 月 5 日

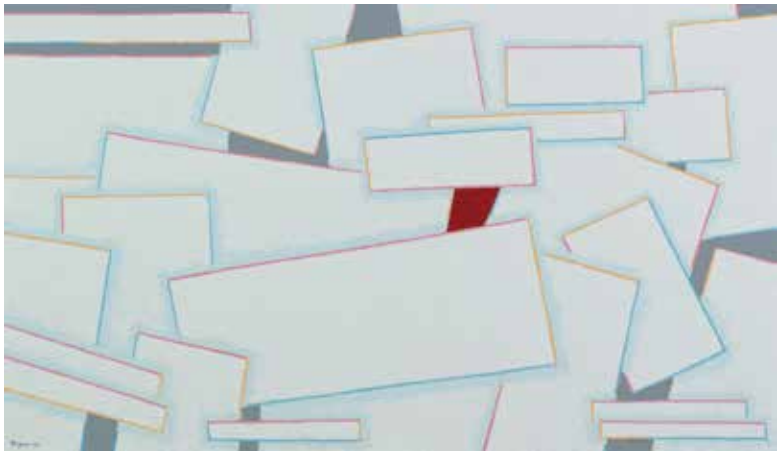
暴風の日のスージ（祝い）―饒平名知健

視泉　(201×188) **山内　盛博**（会員）

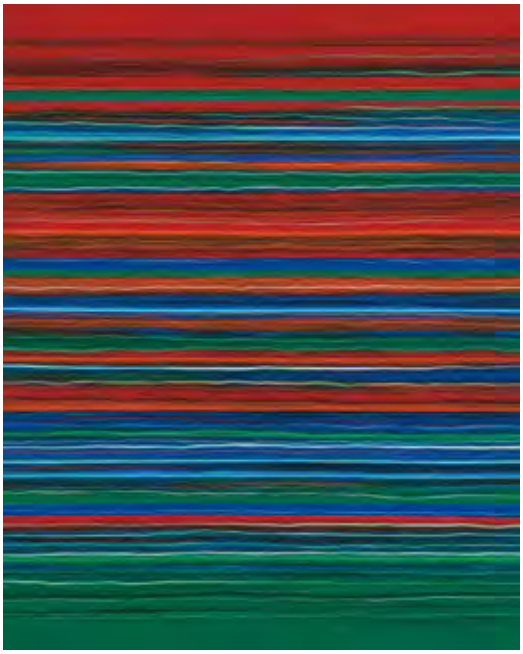
「生の剣（せいのつるぎ）」(200×62)
大城　譲（会員）

相　(162×130) **佐久本　米子**（会員）

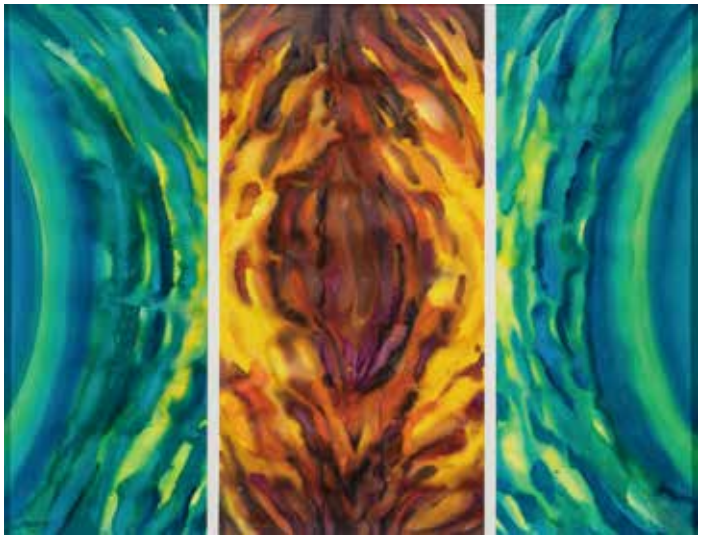
漂着　(135×200) **当山　進**（会員）



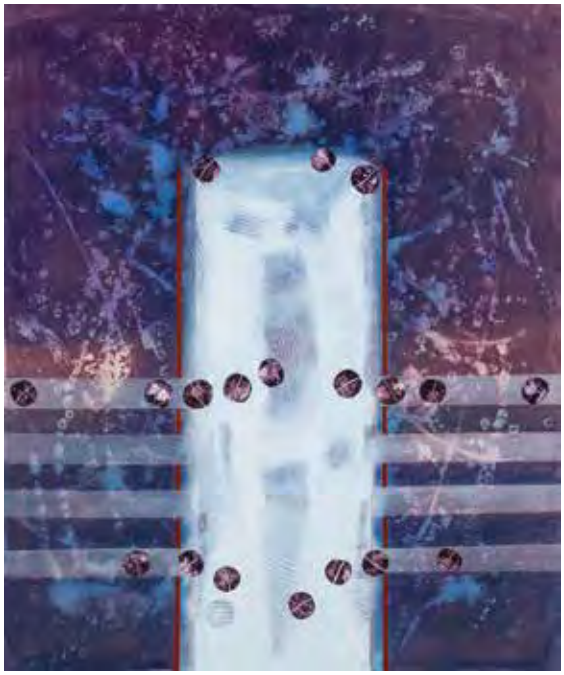
悲　（120×210）**比嘉　良二**（会員）



線のいろいろ 17-A　（162×130）
砂川　喜代（会員）



浸食　（115×149）**具志堅　誓謹**（会員）



点と位置と　（198×166）**與那嶺　芳恵**（会員）

パテ　ローマ　ムシャーマ　（162×162）
（波照間）　**宮里　昌信**（会員）

風景の中で　（90×150）**大浜　英治**（会員）

望郷　（110×163）**鎮西　公子**（会員）

造形探求の扉　（90×130）**喜友名　朝紀**（会員）

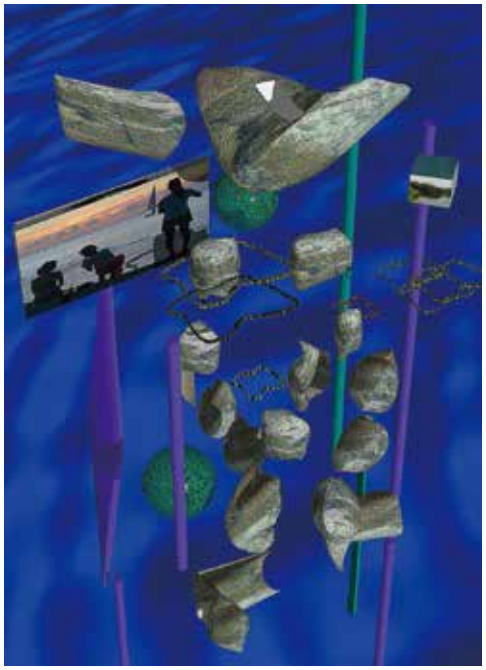
空　（112×162）**池原　優子**（会員）

時空を越えて　（162×162）**ウエチ　ヒロ**（会員）

景（17）（133×165）**比嘉　武史**（会員）

ゲルニカより（8）（148×209）**稲嶺　成祚**（会員）

愚者（おろかもの）（180×180）
金城　幸也（会員）



潮流のラビリンス　（91×73）
佐久本　伸光（会員）

赤い地平線 17・C・　(97×157) **喜久村　徳男**（会員）

不条理 17　(161×131)
与久田　健一（会員）

地球温暖化・頭脳温暖化　(108×78)
奥本　静江（会員）

時間の人（ときのひと）　(130×194)
治谷　文夫（会員）

俯瞰２　（133×164）**具志　恒勇**（会員）

Ｋ氏像Ⅱ　（136×102）
久場　とよ（会員）

鼓　（164×132）**浦添　健**（会員）

月明かり　（145×200）**金城　進**（会員）

追憶「井戸端の二人」（200×150）
新垣　正一（会員）

「戻り道」（91×117）**屋良　朝春**（会員）

うたたね　（148×178）**赤嶺　正則**（会員）

「自画像」（162×130）
中島　イソ子（会員）

準会員賞

刻　（130×210）**新崎　多恵子**（準会員）

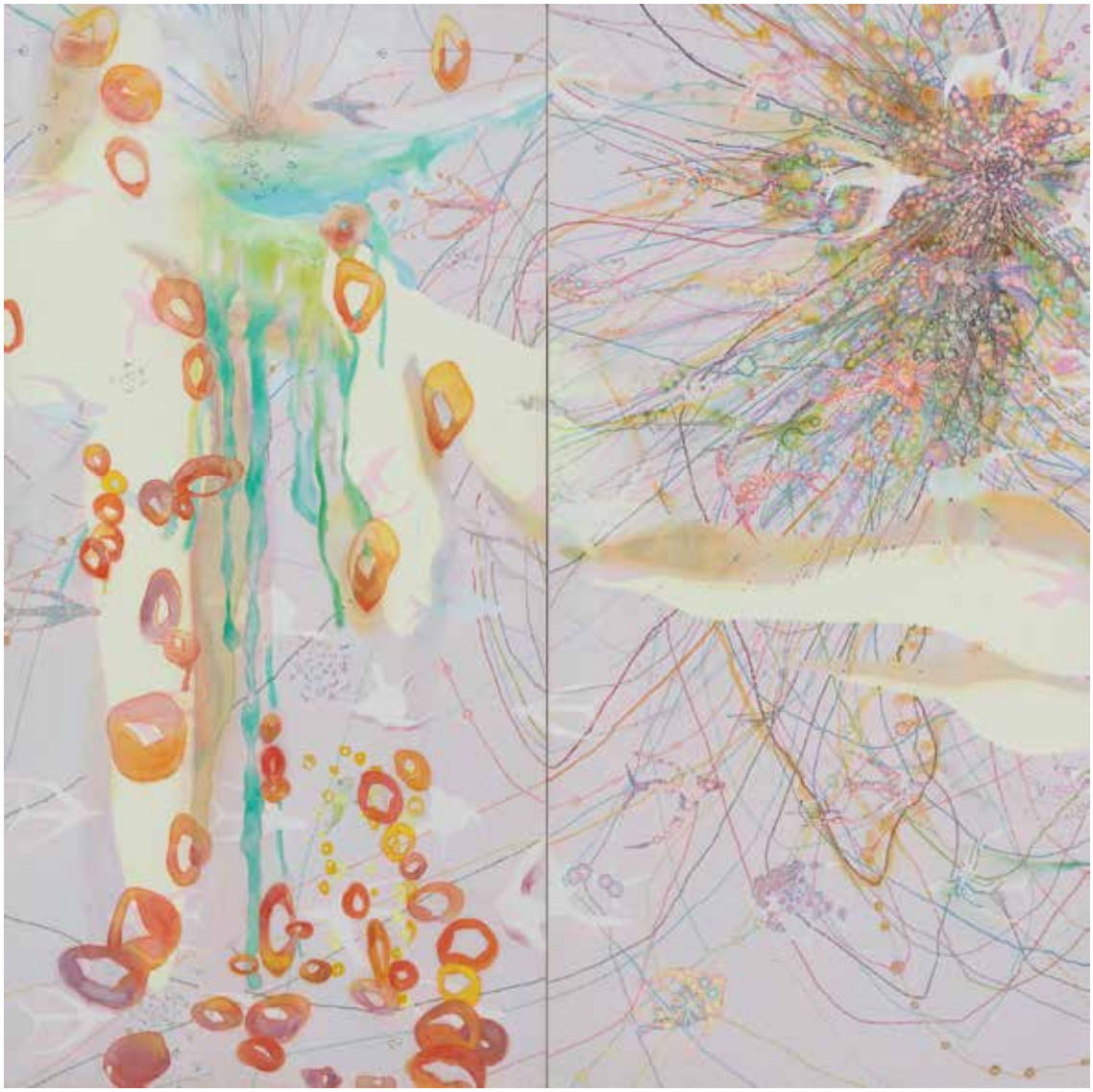
審査小休憩時の出会いだった。横長120号大の大作。赤系統色の流れに民家の絡みと同時に創作の歓悦感も伝わり圧倒された。良くぞこの域まで達したものだと共鳴の響きだった。瞬時に作品との出会いに圧倒された体感は鑑賞などの余裕はない。素直に理屈抜きの共感の瞬間でしかない。その事は作品に生命感が在ることである。絵画においての生命感は画面の一部に潜んでいようと全面に出ようと重要な存在である。独特のマチエール（画肌）に軽快な赤瓦に白壁面の流れ。民家なのか小森なのか不明な塊も悠々と存在する。一方で線描の軽快な流れは控えめながら切れ味のいい生きた線の動き。一種の軽快感に浸る。

今回の作品（刻）は、よくある対象の説明的風景画の意識を完全に撤廃した。対象の風景をではなく、対象の風景から独自の風景を創るに革新進化した。ここに自信と創作の自由が光る。

評－喜久村　徳男（会員）

準会員賞

カタブイ　（196×196）**山川　さやか**（準会員）



デリケートに変化しながら広がるパステル調の色彩空間。目をこらせば、様々な象徴物が見えてくる。空間を飛ぶ鳥、それは大海原を泳ぐ魚に変化するようにも見え、海ガメ、そしてジュゴン。それら自然界の者達が伸びやかに飛翔し、佇む画面の中に、より小さく描画刻印されたオスプレイの影。

それをふまえ再確認すれば、左画面のブルーグリーンの滴りは空が壊れ落ちるようにも見え、人の繋がりを象徴するかのような無数の鎖状のラインが、右上から声を発するかのようにほとばしる。

祈るような描画で表出された沖縄の現況か。

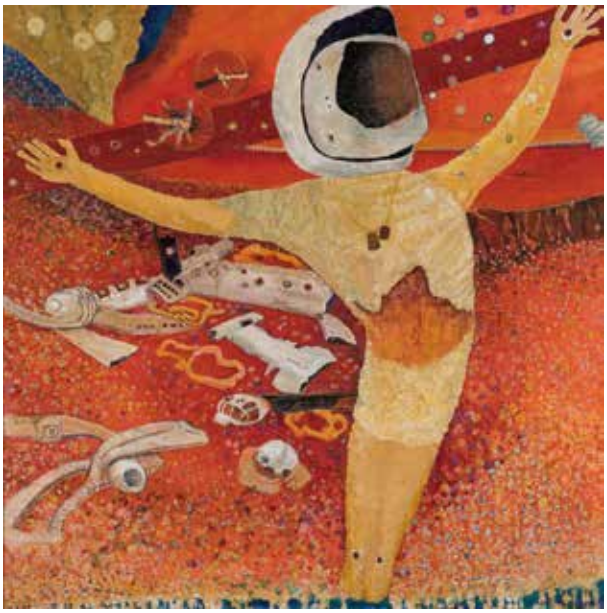
薄布へのにじみの効果、裏彩色、そして無数の細やかな線描。様々な技法を駆使し、穏やかでソフトな作家独自の絵画世界を追求しながら、奥に秘めさせた象徴的コンセプトの存在、力強い造型構築への到達が、受賞評価への要因であろう。賛辞とともに、なおさらの探求継続に期待を寄せたい。

評－大城　譲（会員）

あがたぬくがた　（165×197）**仲松　清隆**（準会員）

想　（187×187）**金城　恵美子**（準会員）

風のある街　ゲルニカの衝撃より　沖縄へ、色彩と線
（90×180）**岸本　ノブヨ**（準会員）



ゆがふ世がやゆら　（180×180）
砂川　恵光（準会員）

そよぐ　(190×191) **平川　宗信**（準会員）

こく　(195×163) **山城　政子**（準会員）

土人　(207×173) **松田　盛吉**（準会員）

みち　(130×162) **橋本　弘徳**（準会員）

娘たちの輝き　(162×130)
伊川　はるよし（準会員）

季節の移ろい　(165×197)
赤嶺　広和（準会員）

点の理　(60×135) **並里　幸太**（準会員）

大王椰子（小禄）（178×128）
新城　弘市郎（準会員）

簾　（164×210）**山田　武**（準会員）

憧憬　（171×183）
伊波　則雄（準会員）

ンカシバナシー　（208×208）
知念　盛一（準会員）

沖展賞

“シリーズ　海への誘(いざな)い”白の景色　(150×210) **鈴木　金助**

白と青をベースに全体の色調を寒色でまとめ、極めて上品な作品に仕上げてある。板による二点一組、一点縦150cm 横100cm。質感にこだわったコラージュの重ね、着彩による深み、ストローやタッチの表情等々・・・この作品の最大の特徴である意識的な10cm のゾーンは、空間を更に広げ他の表現を引き立てたり、考えさせたり、また交差する多くの残像から瞬時に造形していく。ゆとりの空間が常にバランスを保ち、立体構成として活きている。斜めに大きく切り込まれた矩形の様々な形象がとても洗練され、印象的である。画面左下の寡黙なダークグリーンや、垂直線の微細な光が神々しく、全体をひきしめ、境界のピンクやグリーンの捕色面も味わい深い。ルームでささやく者、フワフワの綿糸に包まれ変化を続ける有機的なモノは、思い出や歴史の足跡なのか？作者のやさしい気持ちが浮かぶ。作品に向きあう密度が高く、丁寧に創造、フォルムも安定したこの作品に大変感銘を受けました。2年連続の賞に輝き、準会員推挙です。活躍を期待します。

評－奥本　静江（会員）

奨励賞

2017　(195×164)
北山　千雅子

今回、奨励賞に輝いた「2017」。縦横無尽に広がりを見せるその画面上では、大小様々な面が鮮やかな色のグラデーションで彩られ、何かしらの多面体状の形態が、ゆっくりと蠢いているかのようで、観る側の視覚にはそれが有機的に見えます。

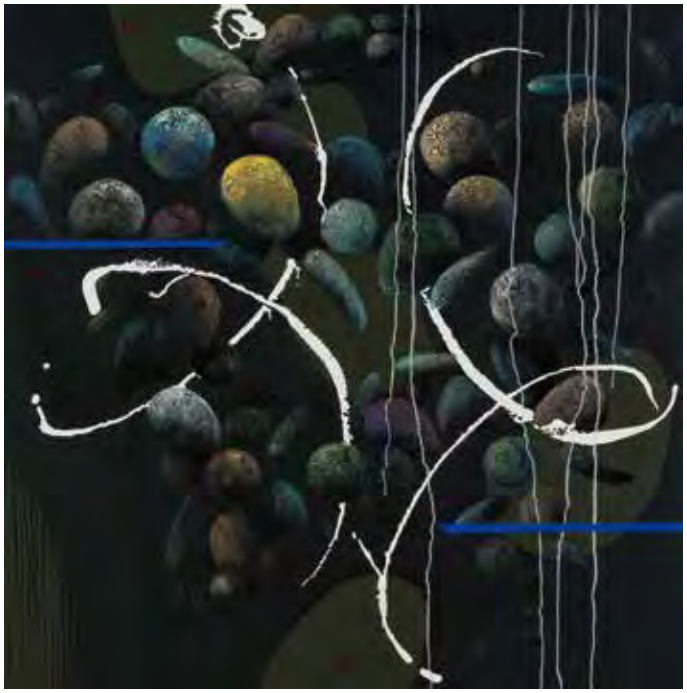
通常、平面構成的な表現は、面白味に欠ける場合もありますが、この作品には補色関係の色彩の妙味と、豊かなコントラストの明快さが、大胆で迫力のある作品となり、ひと際存在感を感じました。それは、長年培われた土台の上に、作品と真摯に向き合いながら、自身の心象を基に選別した色と形なのでしょう。ダイナミックで整然とした印象の、魅力ある画風を造り上げました。

近年、色々な展示会で受賞されている北山さん。今回準会員推挙となりました。おめでとうございます。これからも新世界への飽くなき追求、更なる自己世界の深部が表出された作品を期待します。

評－池原　優子（会員）

奨励賞

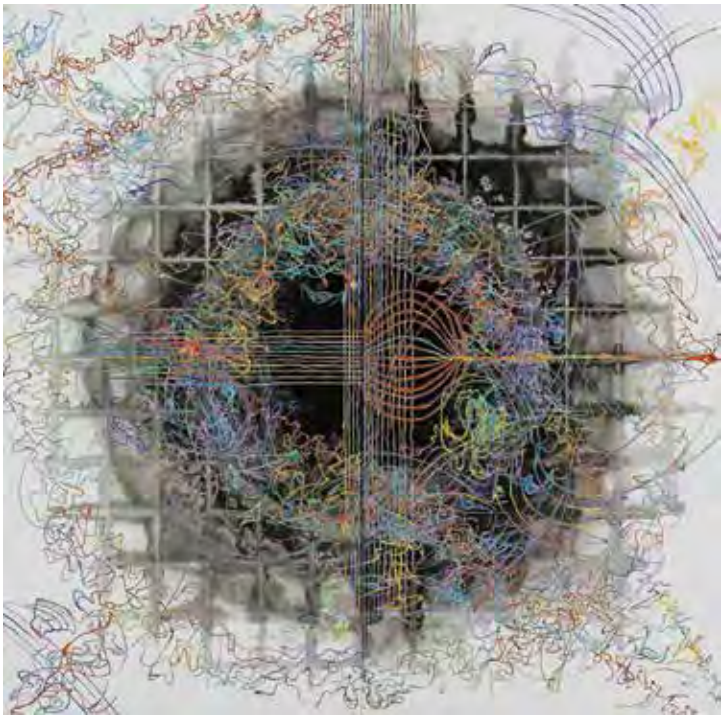
LACANS　(196×196)
鶴見　伸



力強い大きな画面に対峙すると見る側の魂を揺さぶる何かを感じる。マクロ的に視ると宇宙空間に浮遊する様々な球体で構成され、ミクロ的には細胞のような形態にも見える。重厚なマチエルが生命の根源的なものとして表現されていると感じる。個々の内的なエネルギーがそれぞれの磁場に引き寄せられ、磁場に反発し軌道のない空間を自由に動き回る解き放たれた動きが面白い。以前の眩しく白い背景から静謐な黒い空間に変わってきている。黒の空間に輝く何かを希求するかのような白い線が激しいメッセージ性を感じる。

県内外の公募展に入賞した実力のある作家である。初の受賞おめでとう。今後に期待できる作家である。

評－佐久本　伸光（会員）



奨励賞

記憶の向こう　(189×189)
仲程　悦子

画面中央部の漆黒がグラデーションをなして四方に広がり、前面の彩色された曲線を受け止め、色とフォルムの美しさを際立たせている。水墨は格子に依って和的なイメージを抱かせるが、縦横に複雑に重なる線によって新たなイメージに変化する。水彩紙に広がる世界は一見どこまでも軽やかで、リズミカルで美しい。しかしそれだけでは終わらないものがこの作品には潜んでいる。

幾重にも絡んだ線は微妙に震え、同じ場所で澱んでは蠢めく、そして又進むと言う連鎖が、我々の心象の世界にフィットし、深い迷路に誘う。浮揚感は多くの抽象作品に見られるものだが、質のいい浮揚感は確実な「喘ぎ」が見える。着地点は一体どこなのかと。辿り着くことのない「道」、明確にならない「完成形」が生身の我々に纏わりつく。そして作品は次の展開へと向かって行く。

仲程さんの「記憶の向こう」は確実に我々に感性を刺激する情報を提示してくれた。

評－與那嶺　芳恵（会員）

浦添市長賞

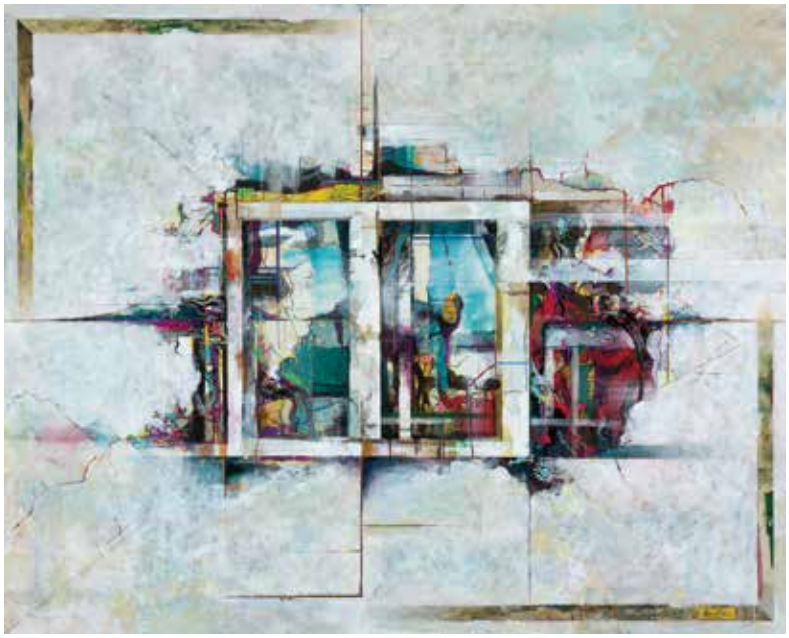
あじさい苑　(164×131)
赤嶺　美代子

清涼感のあるみずみずしい作品である。縦構図に描かれた風景は、前景のあじさいが勢いのあるタッチで描かれている。花びらは白く輝き、微妙に混色された紫が味わい深い。さらに中央から続く小道が蛇行しながら山頂へと誘い奥行き感を出している。上部にある古民家はやや強すぎる気もするが、画面全体を包み込む柔らかな空気が心地よく安らぎを与えてくれる。シンプルな構成ながら見る者を魅了するのは、本人の感性の豊かさであろうか。

ややもすると写真を拡大したような描写力だけに頼る作品のある中、戸外にイーゼルを立て、対象物を視ながら描く中で培った観察力や表現力が功を奏し、今回の作品に結びついている。

赤嶺さんは早期より沖展に出品し入選歴26回、2004年浦添市長賞を受賞、今回で2度目の受賞となる。数少ない女性の具象作家でもある。これからもさらに感性を磨き、意欲を持って創作活動に取り組んでほしい。今後の活躍を大いに期待したい。

評－金城　進（会員）



うるま市長賞

弧島のうむい　(133×165)
サンリー・ヨンツォー

消えていく哀感の軌跡、空間の曖昧さと明解さの間で、形態の埋没と発掘をくり返していく絵画空間解体と、色彩の秩序を求める作品と言える。

構成要素は、描き出される形の配置や方向性が画面を分割した線に基づいて決められている。画面全体に動勢と均衡を生む要素が密接に絡み、色面と線が織り成すリズムが心地良く緊張感を生み出している。

線と色面の中に見られる作者自身の造形性と精神性、それは描き出す伸びやかな軌跡をつくり造形の詩情を醸し出している。優れたコンポジションである。

色や形、線で描こうにも複雑な儚さや虚しさが作品名の「弧島のうむい」と成り、スクリーンを重ねていくようで独特な感情世界が存在する。

塗り重ねてもなお白い風景であろうとする壁画のような余白との相互関係から、旋律のように繰り返しイメージを喚起する作者の息づかいを感じる作品である。

第65回展では奨励賞に輝いている作者の、これからの作品にも注目したい。

評－知念　秀幸（会員）

沖縄教育出版賞

Contrast　(120×145)
新垣　なつみ

今回の沖展で猫好きな人なら、きっと立ち止まってしまうであろう作品に出会った。

沖縄教育出版賞の新垣なつみさんの「Contrast」である。

よく知られているように猫の体はしなやかな曲線をもち、色や模様も多様で美しい。なめらかな毛皮の下にはどんな猫でも野性を秘め、何ものにも媚びない自由な魂を持っているという。そんな猫に魅了されたと思われる絵だが作者はしっかりと対象を観察しクールに画面構成をしている。水色の背景の中には七匹の猫の様々な姿態が描かれ、それらの特徴もあますことなく映し出している。画面上部の暗緑色も効果的である。

一方、右上の隅には制服っぽいスカートと白のソックスと黒靴の女性が描かれている。自由にポーズをとる猫たちに比べて固まっている女の子の顔がないのは何故？・・・・といろいろ思いつつも、七匹の猫の魅力的な描写には、しばし心を癒やされた

評－砂川　喜代（会員）

版画部門

総評ー新崎　竜哉（会員）

第69回沖展、版画部門への一般応募数は22点、準会員5点の合計27点であった。

版表現による作品として凸版、凹版、平版孔版の他デジタルデザイン等があり、技法も多種多様である。

昨年より出品点数もやや増え、入選作品と保留、落選を挙手で選定し、様々な議論の中で審査が行われ、賞候補となる作品を決めた。

その中で池城安武氏の『カンムリワシ』が挙手多数で沖展賞を射止め、第64回展以来、5年ぶりの快挙となった。過去奨励賞2回、浦添市長賞、うるま市長賞などの実績がある。

今年もスクリーン印刷での大作で、製版技術や刷りでインパクトの高い作品となっている。奨励賞には、大城有紀子氏の『Wall』が選出された。構成力とコンポジションが良くかみ合っており、バックの紗が効果的である。

浦添市長賞には、東亜紀氏の『涼夏』が連続受賞となり、銅板での線密度の高いきめ細かな2版多色刷りで仕上がりも良い。

うるま市長賞、沖縄教育出版賞は学生が受賞した。共に孔版での印刷であり、手描きを製版し、色数や版数も多く力作である。

準会員賞に、仲本和子氏の『伝説の海』に決まった。石膏版画での一版多色でマチエールも良く、線彫りの生きた大作で魅了する作品であり、高く評価された。

一方、応募作品の中には他の部門に出品したほうが望ましい作品もあり、今一度、検討していただきたい。

今後更に版表現の意欲的な作品も期待する。

会員作品

COLOR - 意思の補完―赤　嶺　雅
夢形象―新　崎　竜　哉
砂の景―大久保　彰
心景―神　山　泰　治
サバニ、グルクン、島っ子―座間味　良　吉
resigned―知　念　秀　幸
青の世界―友　利　直
華（はな）―仲　元　清　輝
景象 '17-C-1―比　嘉　良　徳

準会員賞

伝説の海―仲　本　和　子

準会員作品

Summer time Jazz Night-新屋敷　孝　雄
晴れ着―保志門　繁
壁画―保志門　繁
魚群―保志門　繁

沖展賞

カンムリワシ―池　城　安　武

奨励賞

Wall―大　城　有紀子

浦添市長賞

涼夏―東　亜　紀

うるま市長賞

生瞑 - せいめい -―城　間　弘　文

沖縄教育出版賞

舞 -mai-―長　山　明　菜

一般入選作品

にじむ―稲　福　彩
その他の世界―呉　屋　純　子
息子のお気に入りと
スペインタイル―座喜味　盛　亮
不安と絶望
((一筋の光を求めて))―座喜味　盛　亮
棕櫚 - II―下　地　敏　一
モンパの木 - II―下　地　敏　一
舞―仲　村　春　孝
サンゴ礁―丹　羽　あ　や
communicate―平　川　良　栄

夢形象（85×57）**新崎　竜哉**（会員）

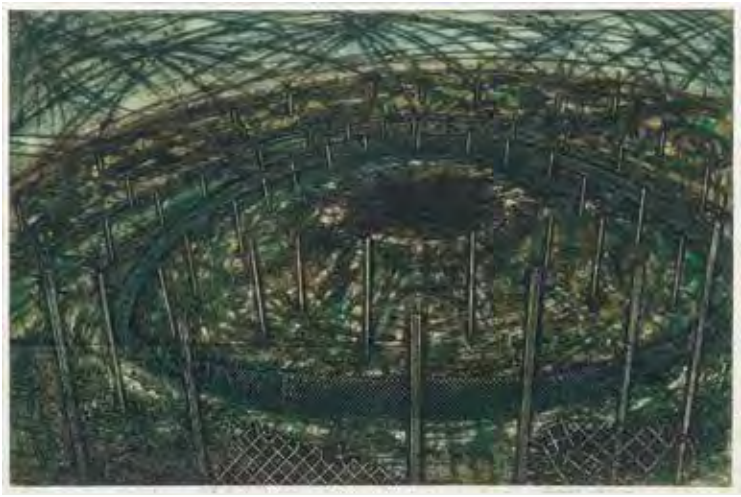
心景（43×64.5）**神山　泰治**（会員）

resigned（31×43）**知念　秀幸**（会員）

青の世界（50×40）**友利　直**（会員）

サバニ、グルクン、島っ子（95×60）
座間味　良吉（会員）

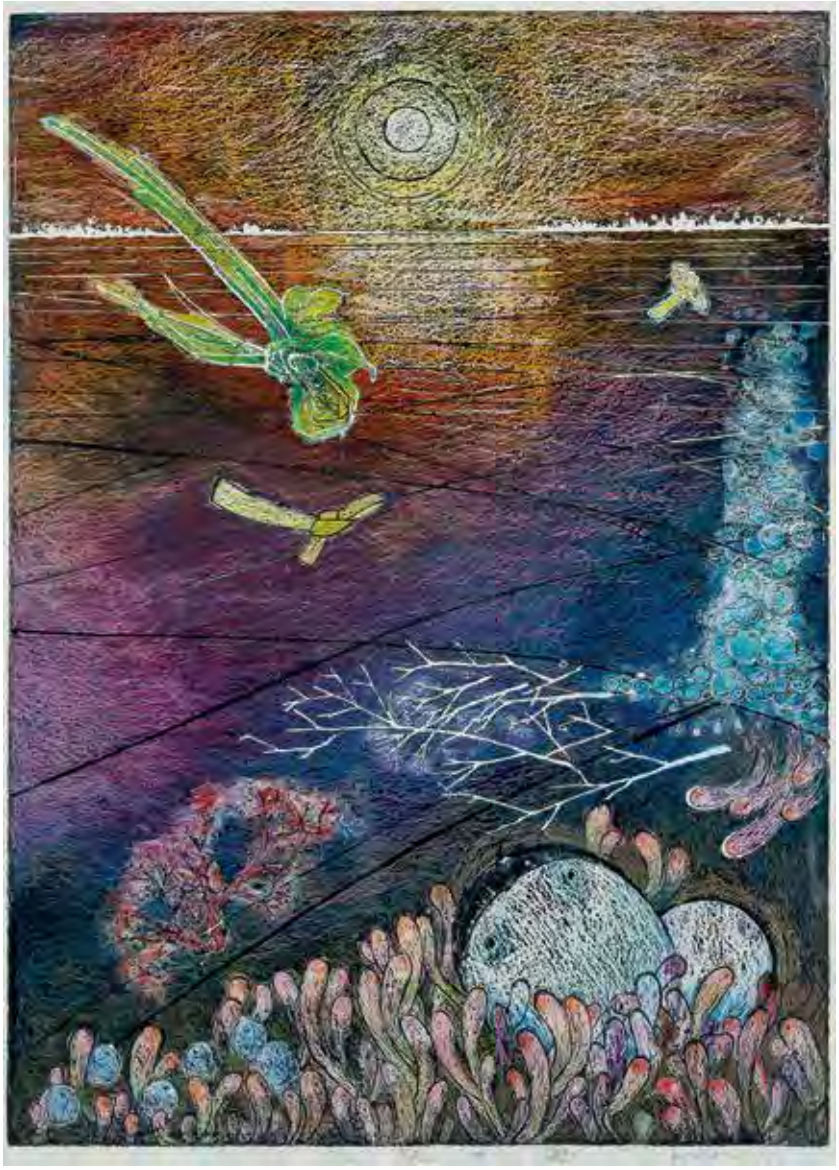
COLOR - 意思の補完（83×55）
赤嶺　雅（会員）



景象 ’17-C-1（68×99）**比嘉　良徳**（会員）

準会員賞

伝説の海　（105×75）**仲本　和子**（準会員）



周知の通り、石膏版画は、石、版上に下絵を、キリ状の刃物で彫る事から始まる。仲本さんも忠実に作業工程をこなしている。しかし仲本さんの流儀なのか、一度彫ったら刷り終わるまで彫部にはタッチしない。結局、彫り部分は版紙の下地白色がむき出しになる。

この生地の白が全体の色調にマッチすれば良いのであるが、毎年、これまでの作品を見ているが、この白地を何とかしなければという所で次点の作品になってしまう。最後の詰めが足りず、生々しい色となっていた。

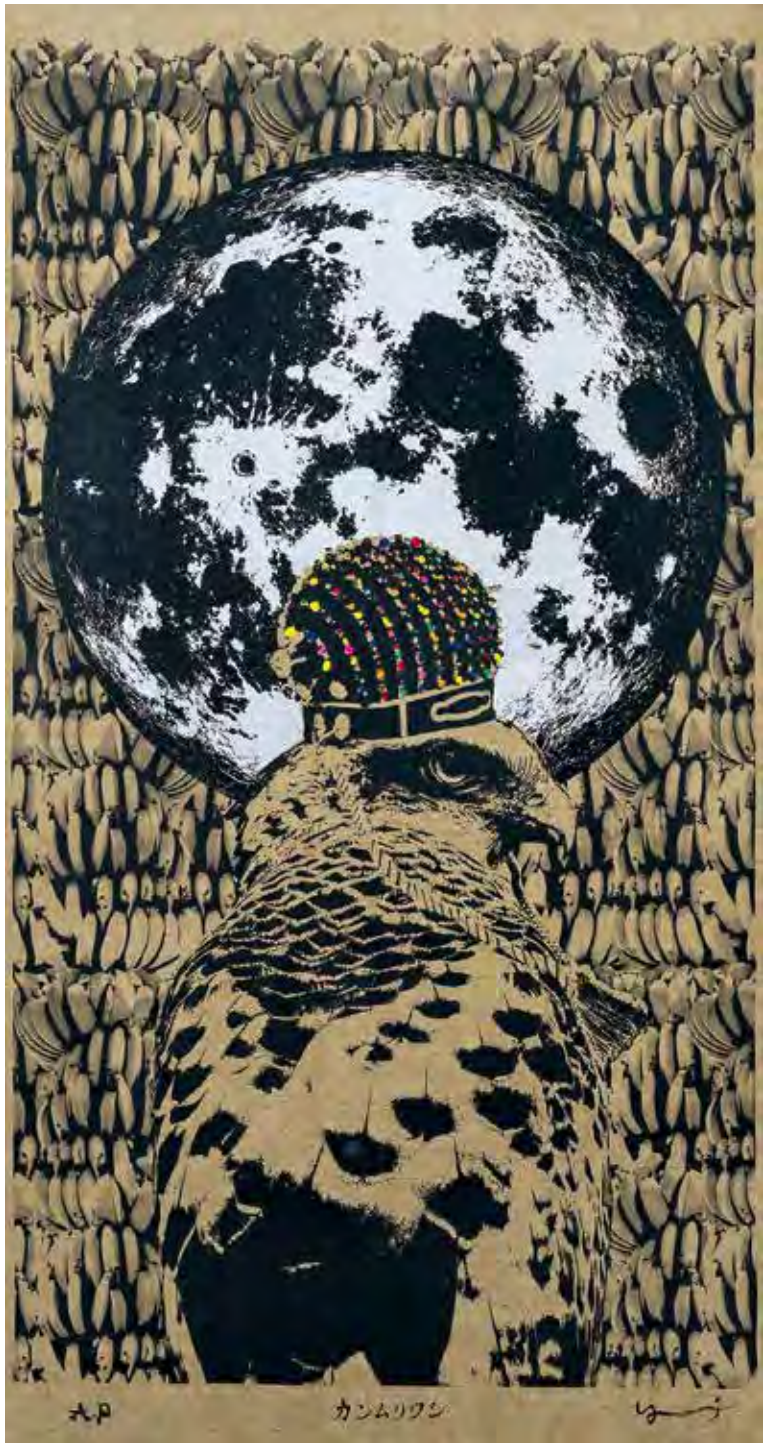
しかし、今回は目を疑う程に、素晴らしい出来ばえである。他の方々が気付くかどうかタブローの完璧さ、いつかは出るかどうかの表面処理である。さすがはベテランの仲本さん、材料の特性を知り尽くし、今後も秀作を生み出す力量を秘めた作家である。

さて、今回の作品に戻るが「伝説の海」みずみずしい海、サンサンと照り輝く太陽、生命が生かされ、さわやかで心が洗われるような自由奔放な作品です。仲本さんのいつもの演出であり、「伝説の海」入賞おめでとうございます。

評－友利　直（会員）

Summer time Jazz Night　(74×85)
新屋敷　孝雄（準会員）

魚群　(80.5×57) **保志門　繁**（準会員）



沖展賞

カンムリワシ　(158×86)
池城　安武

池城安武氏は、第67回、68回に奨励賞を連続受賞し、今回は沖展賞に選出されるという実力派の作家である。その受賞歴により準会員に推挙された。

これまでは、題材の一種をクローズアップさせ、画面いっぱいに構成した作品が多かった。今回は、バナナの房を背景に月と王冠、そしてカンムリワシとのコラボレーションの作である。図柄の内容からストーリー性を感じさせる。八重山の代表的民謡「月ぬかいしゃや　十日三日…」や「鷲の鳥節」を彷彿させる。シルクスクリーンの特性を活かし、黄土色の布地に各種題材を黒色で計画的に刷り、月とカンムリワシを取り囲むバナナの群像がリズミカルに配され、図柄を引き立てている。また写真と手描きによる版作りが上手く融合し、シルクスクリーンの完成度の高い作品である。

版表現で大作は少ない中で、毎回大型の作品に挑んでいる姿勢に脱帽。今後の活躍に期待したい。

評－神山　泰治（会員）

奨励賞

Wall　(66×66)
大城　有紀子

紗のかかったイメージの空間を中心に、抽象的なラインが交差している。
画面の中に矩形をいくつも取る。そこに独特のリズムが生まれる。平面性を追求しながら矩形のフォルムによって画面を分割する。
それぞれのフォルムが、お互いにハーモナイズするところから空間が生まれる。
構成要素を巧みに紡ぎ、シャープで切れ味の良い作品に刷り上がった。
作品は、孔版印刷による写真製版によるスクリーンプリント。
寒色と暖色による対比色のコントラストも、構成要素に取り込み、洗練された作品と成っている。
大城有紀子さんは、2015年（第67回展）にも受賞している。その時の有機的な植物は紗の奥にある。次回の作品が楽しみである。

評－知念　秀幸（会員）

浦添市長賞

涼夏　(50.5×38.5)**東　亜紀**

前回の作品は、メゾチント技法を駆使したモノクロの作品で高く評価され、今回は多色版画での受賞になった。
版画は刷りを通して初めて画が現れる。製版を終えてインクを盛り、ローラーを通った紙をめくる時の期待や不安感を何度も繰り返し、納得のいく作品にやっと巡り会う。そうした魅力が銅版画には秘められている。その魔力に取り付かれ、作品作りに奮闘する姿が見えるようだ。
今回の作品「涼夏」ではエッチングとアクアチント、メゾチント技法を使用した2版多色刷りに挑戦している。モチーフのサガリバナの背景をメゾチント技法で表現し、青やグレーの濃淡の変化で空間を拡げ、全体的に淡い色調で温もりのある作品に仕上げている。
ただ、ぼやけた感も受けるので部分的にアクセントの工夫をすれば、キリッと引き締まった作品になったと思うが、そこに多版多色刷りの難しさがある。それでもこの作品からは手作りの技が、見る人の心に伝わってくる。
東亜紀さんの今後の研鑽と躍進に期待する。
「浦添市長賞」おめでとう。

評－比嘉　良徳（会員）

うるま市長賞

生瞑 - せいめい -　(85×60)
城間　弘文

城間氏の作品は、シルクスクリーンの技法で制作された版画である。具現化された人体の一部をモチーフに、人生の道程で派生する女性の悲哀その心象風景を表出した佳作である。
しなやかな指先から腕へ、瞼、そして涙と繊細な描線が生きている。丁寧な作業工程がうかがえる。又、腕に巻きつく文様も軽やかで良い。それがタトゥにも見えてきて、昨今の若者文化の一面が出ているようでおもしろい。
さらに技巧的な工夫を見ると、同じ版を少しずらし二重にプリントしたり、上下にバランスよく配置したりと、全体の構図にも心配りができている。背景の色面も作品をまとめる役割を果している。
重くなりそうなテーマを、明るく品のあるものにした力量に感心する。

評－座間味　良吉（会員）

沖縄教育出版賞

舞 -mai-　(60×85)
長山　明菜

この作品は、鮮やかな色面に浮かぶハイビスカスに群がる蝶を孔版印刷であるシルクスクリーンプリントで仕上げた作品である。作品タイトルにあるように「舞」は、蝶ではあるが作者の内面を軽やかに表現しているのか。背景をブロック状に構成し静かな中に、手書きの花や蝶は動きとしての表現。意図的で効果的に感じる。更に、蝶はモノトーンで表現されており、色面や花の鮮やかさと逆に効果的に浮き出てくる。
評価できるのは、意図する表現で描かれた、抽象的な手書きの模様を具象的な造形へと落とし込んでおり、作品への熱意が感じ取れる。ただ、今回の作品は、枠の中だけに表現されており圧迫感は否めない。空間の活用と枠にとらわれない表現も良いかもしれない。今後の若い表現力や技術力に期待したい。

評－赤嶺　雅（会員）

彫刻部門

総評ー仲里　安広（会員）

彫刻部門において、今年は一般応募27点と昨年より出品点数が多く、盛り上がりをみせた。6点が入賞、15点が入選した。とりわけ、学生の出品者が増え、一般応募の受賞者6人のうち5人が学生と、これまで以上に若い方々の秀作が光り、活気づいた。

準会員部門においては、大城清久さんが昨年に続き連続受賞となった。《サワグナ サワガニ 土俵入り》は素材感の強さと細かい観察にあわせ、ユニークなアイデアで、昨年にも増して工夫された力作であった。

沖展賞を受賞した趙英鍵さんの《輪廻》は立方体にレリーフを施したテラコッタ作品で、人体の複雑な形に挑み、これまでに見られなかった表現法で沖展賞に輝いた。平敷傑さんと津波夏希さんは昨年に続き、その力量がうかがわれ、奨励賞を受賞。吉田香世さんの《GRAVITY》は丸パイプを構成した斬新な抽象表現で浦添市長賞、山本恭平さんは石彫による首像が魅力的でうるま市長賞。鈴木一平さんの作品は独特な視点と造形が評価され沖縄教育出版賞となった。

彫刻部門が創設され、石膏から様々な素材へと表現の幅が広がる中で、革を素材に制作されたレリーフ作品に審査員の評価が分かれた。工芸作品としては良いが、彫刻としてどうかといった意見であった。このような作品を沖展でどのように受け入れるか今後議論が必要であろう。

また、ペットボトルによる「いかだ」があった。どのようなコンセプトなのか理解できる解説パネル、又は制作の意図が分かる資料が必要であると思われた。

総体的に、様々な素材による力作があり活気に満ちていた。更に飛躍できるよう次年度に期待したい。

会員作品

2017年　作品Ⅰ――上原隆昭
トルソー――上原博紀
未来へ――上原よし
Lanna Buddhism -Meditation-――河原圭佑
散歩道――喜名盛勝
頭像69――具志堅宏清
陶工――玉栄広芳
Nameless――玉那覇英人
1966 Born in Okinawa-2017――知念良智
R 5+1――津波古稔
重層――富元明雄
私は私――友知雪江
カオス――仲里安広
跡――西村貞雄
かなくりのさざなみ――與儀清孝

準会員賞

サワグナ サワガニ 土俵入り――大城清久

準会員作品

神殿の寓話シリーズ――新垣盛秀
CORE――崎枝静子
郷愁の響き――髙嶺善昇

沖展賞

「輪廻」――趙英鍵

奨励賞

みつめる――津波夏希
立像――平敷傑

浦添市長賞

GRAVITY――吉田香世

うるま市長賞

石田君――山本恭平

沖縄教育出版賞

尻のあわれ――鈴木一平

一般入選作品

理不尽な構造――池原芳昭
旅のはじまり――石原紀子
証言・愛楽園史より――伊志嶺達雄
タマニワ　タマコロガシ――勝連盛正
黒の集合物ーある暗示――神村吉次
繋――小橋川剛右
前へ「うちなる風」――小橋川共三
授かり――豊里友一
キジムナーの贈り物
ー死と再生の卵ー――仲宗根浩
花通り――丹羽正淳
swing――前原優香
龍――松田聡
大地の記憶――安田淳夫
私――山本恭平
ラフ――山本恭平

跡（H175×W40×D38）
西村　貞雄（会員）

R 5+1（H170×W45×D45）
津波古　稔（会員）

未来へ（H108×W32×D30）
上原　よし（会員）

かなくりのさざなみ（H200×W80×D50）
與儀　清孝（会員）

陶工（H60×W58×D37）**玉栄　広芳**（会員）

重層　（H130×W35×D35）
富元　明雄（会員）

Lanna Buddhism　-Meditation-（H82×W60×D58）
河原　圭佑（会員）

カオス（H230×W70×D70）
仲里　安広（会員）

準会員賞

サワグナ　サワガニ　土俵入り　（H116×W193×D200）**大城　清久**（準会員）

サワガニは自然豊かな場所に生息する純淡水性の固有種であり、淡水のみで暮らす身近な甲殻類の持つイメージを金属素材と結び付けることで、甲羅の質感が効果的に表現された作品である。金属彫刻の鍛造技法を用いて、熱した鉄板をハンマーで叩くことで生まれる鉄の表面からは、作家が素材と対話した時間や労力を垣間見ることができる。また、作品の腕が上下に可動することから大城氏の彫刻表現に対する情熱と工夫が見受けられ、一方で作品名からは作家のユーモアな《遊び》が作品と同じ空間に醸し出された秀逸な作品である。

金属と29年間向き合いながら、金属造形の魅力と表現を追求する熟練の技巧に驚かされるとともに、作品を作り続ける強い意志と努力に敬意を表したい。

評－河原　圭佑（会員）

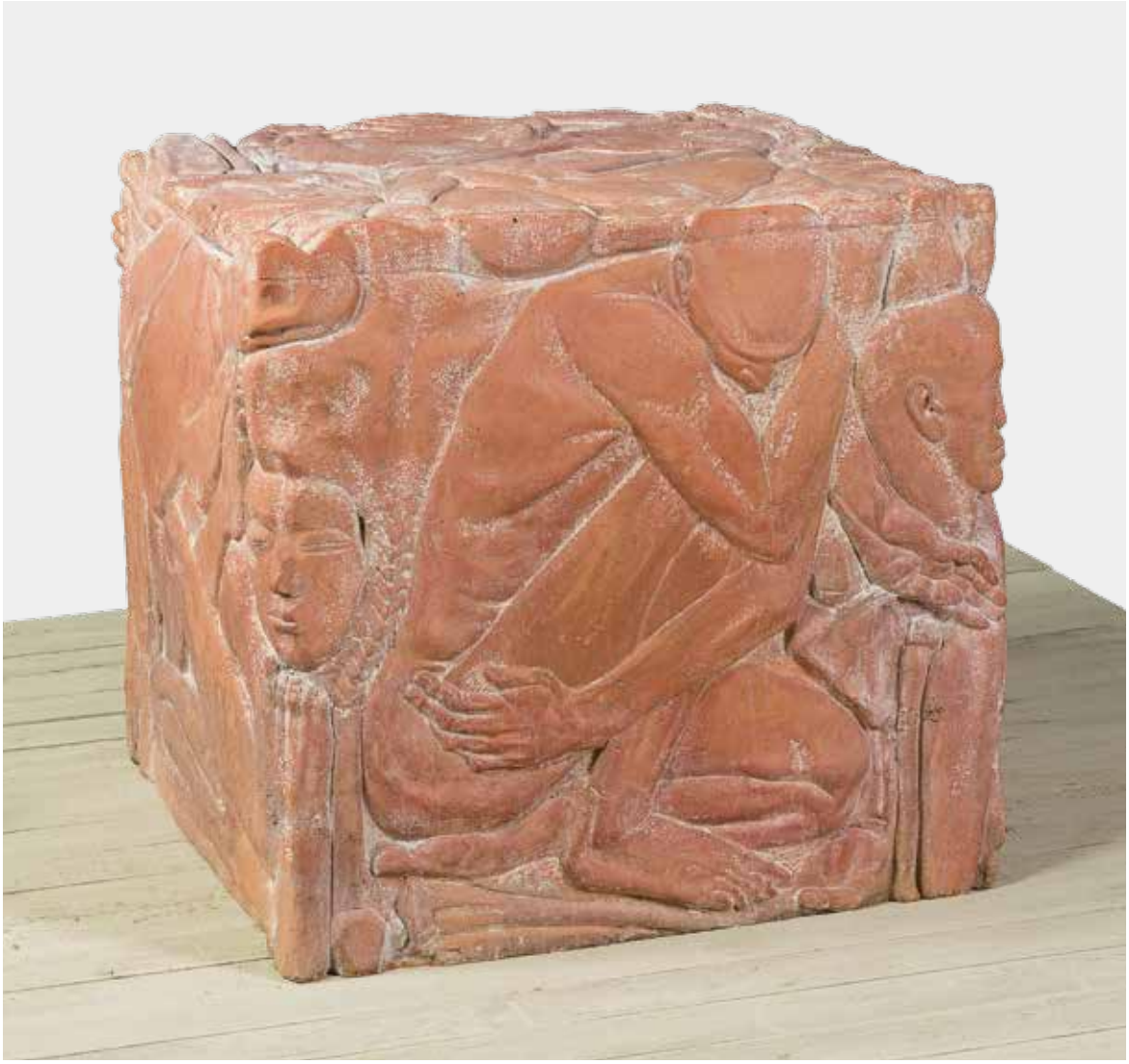
CORE　(H118×W40×D36.5)
﨑枝　靜子（準会員）

神殿の寓話シリーズ　(H70×W30×D30)
新垣　盛秀（準会員）

郷愁の響き　(H95×W56×D80)
髙嶺　善昇（準会員）

沖展賞

「輪廻」（H90×W200×D200）趙　英鍵



立方体のテラコッタである。前後・左右・上面に人体、その部位が浮彫りされている。まさに輪廻の世界が展開され、生と死を連想させているが、それぞれの面には男女の形が繰り返され浮彫りの効果を上げている。沖展の彫刻部では、素材も多様化しているがテラコッタという技法で、その発想・技術も確かであり、存在感のある作品である。初出品で沖展賞という快挙であり、今後に期待される。

評－西村　貞雄（会員）

奨励賞

みつめる　（H170×W47×D32）**津波　夏希**

2013年から今回まで、沖展賞（2014年）を含め5年連続受賞は、しっかりとした基礎の上に培った努力と忍耐の証である。

今回の受賞作「みつめる」は、自然体で立つ裸婦像で女性特有のありのままの感性が伝わってくるいい作品。しかし全体を観るとやはりおとなしく無難に収めているのが惜しまれる。

これだけの力量があれば自信を持って仕事の上で確かめながら更に発展をさせて頂きたい。近年は敢て地山を造らないコンセプトで望んでいますが、あらゆる事象を想定して展示する上で安定度が不充分だと、折角の力作も展示を許否（中央の公募展）される事もあるので全体の構築の中で考えて下さい。

尚、今回の受賞で準会員に推挙されました。おめでとうございます。願わくば沖展を足場に中央まで研鑽の場を広げて欲しいと思います。

評－玉栄　広芳（会員）

奨励賞

立像　（H186×W47×D45）
平敷　傑

沖展での受賞歴は、沖縄教育出版賞1回、浦添市長賞2回で今回の奨励賞である。

前回までの鉄を素材にした作品から塑像へと彫刻表現を変えてきた。塑像は造形の試行錯誤を容易にさせ、彫刻芸術を深く追求できる魅力的な素材である。

作品は男性の立像で、180cm を超える力作である。両腕を垂らしたシンプルなポーズですが、卓越した写実力と造形力は他のものを圧倒する存在感がある。また、髭を蓄え遠方を見つめる表情に、時の流れ、黄昏を感じる詩的作品に仕上がっている。今後とも研鑽して進化し続ける作品を期待します。

評－上原　博紀（会員）

浦添市長賞

GRAVITY　(H195×W20×D20)
吉田　香世

市販されている鉄パイプの鋼材を素材にした作品である。鉄パイプの径の大小を溶接することで作品化に成功している。鉄パイプの径の種類は10種程度で、これだけの創作ができた、その発想の展開がすばらしい。

作業の進展をみると確かな溶接技術を習得されていると確認される。作品は中心部から上下に枝分かれして伸びてゆく無限の表現であろうか。

確かな溶接技術の展開は上下に進展する無限感と、これからの創作意欲の展開を意味しているようだ。作品から受ける印象は清涼感があり時間の経緯も感じさせる。このような創作の想いがタイトルの意味合いの動力、引力、重大さに繋がったと、今後に期待します。

評－富元　明雄（会員）

うるま市長賞

石田君　(H32×W22×D26)
山本　恭平

石による具象作品の出品が少ない中で、山本さんの首像は、とても新鮮な印象を受けた。

素材の白御影石と青年のさわやかな表情が、うまくマッチし、好感のもてる作品になっている。しかし細部の表現等、いくつか気になるところもある。

石を扱う場合、ある意味、一発勝負的な厳しさがある。故に失敗が許されない。特に具象作品となると、確かなデッサン力が要求される。

これからも研鑽を積み、そしていろいろな素材にチャレンジし、頑張ってほしい。期待しています。

評－友知　雪江（会員）

沖縄教育出版賞

尻のあわれ　(H17×W100×D100)
鈴木　一平

塊（かたまり）が三つ、正三角形の上に三方向に配置されている。尻のような塊は、人体のフォルムが抽象化され、瑞々しい植物のフォルムを彷彿させる。島尻マージに化粧掛けした肌合いが美しく、柔らかな量感をもつ。作者の鋭い観察眼とともに素材感が活かされた作品で、フォルムや素材への探求心を窺い知ることができる。また、その有機的な塊と無機的な幾何形体の対比が面白く、均整のとれたフォルムや配置には作者の強い意図が感じられる。

題名の《尻のあわれ》とは、「もののあわれ」という言葉を捩っているのだろう。その題名のごとく、作者が人体や自然から受けた感動と、それに触発されて生じた、しみじみとした情趣や哀感が漂う作品。

豊かな感受性と資質を持つ作者は、昨年、高校3年生で初出品し、奨励賞を受賞した。今後の可能性を感じずにはいられない作家である。

評－玉那覇　英人（会員）

グラフィックデザイン部門

総評ー本庄　正巳（会員）

今回の一般応募作品は46点、うち7点が学生となり昨年より学生は減少している。

審査は新たに2人の会員が参加。初の女性会員も加わり、新鮮な雰囲気で厳正な審査が11名の会員で進行された。入選の当落を過半数の挙手で1点ずつ丁寧に審査、入選のラインには保留作品も挙げて再審査する事で慎重に当落を決め35点の作品が入選。その中から正賞（沖展賞・奨励賞）に各審査員が推薦する作品数点を賞に値するかどうか挙手にて確認、結果8点の作品が残された。さらに無記名投票にてポイントの多い上位4点が賞候補に挙げられ最終審査に臨んだ。各賞は審査員1票の投票で決められ、ポイントの高い作品から沖展賞1点、奨励賞3点が選ばれた。その他、浦添市長賞・うるま市長賞・沖縄教育出版賞各1点が選ばれた。

応募された作品は多彩な技法が見られ、自由な自己表現で多様化する魅力を感じた。その反面、制作する上で自分の明確な意図をどう伝えるか、オリジナリティーを出して共感性をもたせるか、グラフィックデザインをする上で大切な役割、コミュニケーションの弱い作品が多く見受けられた。

準会員から1点だけの出品には落胆と厳しい現状を突きつけられた。創作活動の情熱を再び復活させて欲しい。

新たに4名の準会員が推挙された、おめでとうございます。

今後も意欲的に未来を予感させるグラフィックデザインの創作を期待している。

会員作品

第６回世界の
ウチナーンチュ大会 2016― ウチマ ヤスヒコ
CORAL REEF
OKINAWA サンゴ礁 沖縄― 岸　本　一　夫
HEART to HEART
connecting life――― キムラ ロメオ
HEART to HEART
ツ・ナ・ゴ・ウ・い・の・ち― キムラ ロメオ
イラストレーション①― 金　城　正　司
イラストレーション②― 金　城　正　司
Challenge――― 幸　地　のぞみ
十二支のお話――― 小　浜　　晋
POSTER「蘇力へ」― 玉　城　徳　正
Original Work――― 知　念　秀　幸
YADOKARI――― 知　念　仁　志
YASHIGANI――― 知　念　仁　志
IMAGINE(イマジン)― 本　庄　正　巳
Paradise――― 宮　城　保　武
Dusk――― 宮　城　保　武

準会員作品

とりの冒険――― 大　村　郁　乃

沖展賞

舞魂 PART－2――― 川　平　勝　也

奨励賞

世界は愛で満ちあふれている― 島　尻　一　成
CHAOS ～カオス～― 仲　里　都貴江
うちなー花蝶図――― 山　里　永　作

浦添市長賞

Okinawan Patchwork― 和　田　瑞　希

うるま市長賞

「music gives color to live」― 城間アルベルト

沖縄教育出版賞

絵本「ダンデライオン」
発売告知――― 仲　座　萌　香

一般入選作品

眼差しの恋――― 新　垣　咲　乃
文字屋――― 伊　波　秀　樹
なおも、ぐんぐんと！― 内　間　　愛
ごはんの時間――― 大　江　ゆ　い
きらきらの海――― 大　江　ゆ　い
のだいぬ 2017――― がなは はるお
山原の森が世界自然遺産に
登録されることを願って！- 神　野　俊　一
百鬼夜行――― 小　浜　晋　也
腐れ縁――― 志堅原 聡　美
エバデザイン 2017
年賀ポスター――― 島　尻　郁　美
パッションの宙(そら)II― 玉　城　久美子
Are you OK ？――― 知　念　信　雄
Märchen――― 豊　原　　倫
STARTING　FOR
ZERO - ゼロへの出発 -― 仲　里　都貴江
人魚の日記
- マングローブの黄色い葉 -― 仲宗根 さつき
木ジムナーと
セーファー御嶽物語――― 野　原　正　浩
サンゴとともに生きる島、沖縄― 花　城　達　紀
Ensemble6.5
広報物連作《ポスター》― 真喜志 康　一
Ensemble6.5
広報物連作《プログラム等》真喜志 康　一
NAILEXHIBITION――― 宮　城　由　菜
彩り――― 宮　國　由佳子
SPECTOR OF LEGEND ①
"PARNTOE" パーントゥ― 宮　里　　裕
SPECTOR OF LEGEND ②
"1LEG PINNZA" ピンザ― 宮　里　　裕
小さな音楽家――― 屋　部　憲　光
笑いは気から！――― 与　儀　　一
Life is――― 吉　田　コマキ
おっきいシーサー――― 饒平名 飛　鳥
資料室と仲間たち――― 饒平名 飛　鳥

第６回世界のウチナーンチュ大会 2016(B1)
ウチマ　ヤスヒコ（会員）

CORAL REEF OKINAWA サンゴ礁 沖縄（B0）
岸本　一夫（会員）

Original Work（B1）**知念　秀幸**（会員）

Challenge（B1）**幸地　のぞみ**（会員）

YADOKARI（B1）**知念　仁志**（会員）

十二支のお話（B0）**小浜　晋**（会員）

HEART to HEART connecting life
（107×77）**キムラ　ロメオ**（会員）

POSTER「蘇力へ」(B1)
玉城　徳正（会員）

IMAGINE（イマジン）　(B1)
本庄　正巳（会員）

とりの冒険　(B0) **大村　郁乃**（準会員）

沖展賞

舞魂 PART－2　（B0）川平　勝也

デザイン部門の沖展賞は川平勝也氏の「舞魂」に決定した。昨年、一昨年の奨励賞受賞に次ぐ、三年連続の受賞である。

作品は、前衛舞踏をモチーフにしたCG作品。とはいえこの作品は、舞踏家の舞い姿を表現したものではなく、その内面世界を鋭く抉り出し、作者なりの方法で昇華しデザインに定着させた、ある意味抽象表現となっている。

ダイナミックに飛び跳ねるフォルム、幾重にも重なる色彩の壁は、時に力強く、時に儚く、舞踏家の心の奥底の琴線を描いているようにも見える。

布地にインクジェットプリンターで着彩されたこの色合いは遠くイギリスで出された色で、舞踏家の艶やかさ、しなやかさを、遠く異国の色彩で表現しているともいえよう。

プリズムから発せられたようなその色調、その鮮やかさは、バックの黒地との対比が効いて、作品全体を際立たせている。そして、その向こう側には、すべてを解き放つ白い地平が広がる。

好奇心旺盛で、さまざまな素材を掘り起こし、貪欲に新しい表現を突き詰めていく同氏の今後のさらなる創作活動の飛躍に期待したい。

評－ウチマヤスヒコ（会員）

奨励賞

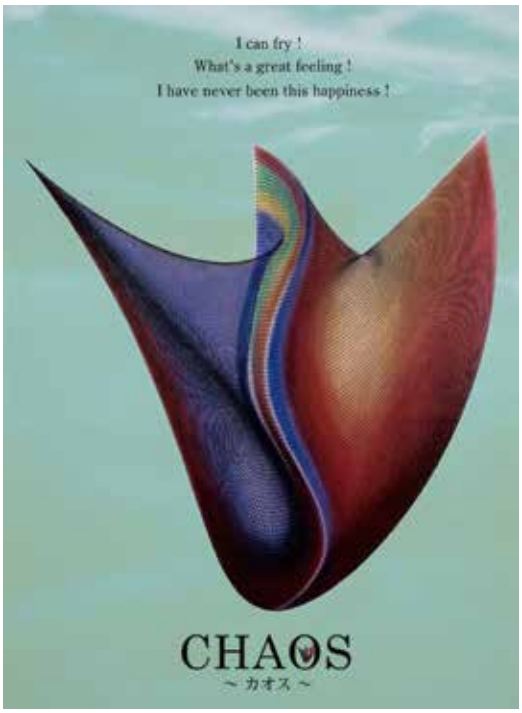
世界は愛で満ちあふれている　(B0)
島尻　一成

画面全体が白色系で、白っぽく、英文の黒色のみでシンプルな画面構成である。
画面は、空気が非常に透明で、やわらかく、やさしく吸い込まれていく感じに表現されている。文字を見ると一番大きな文字は英語の LOVE「愛」である。
その下には世界60ヶ国以上、各国の文字で「愛」が表現されている。画面中央には、白色のハート形が周囲の空間と溶け合い、英語のLとVや地球などの文字にかすかにかかっているのがわかる。
水平線のかなたには、光が輝き、ニライ、カナイのイメージを感じさせる。
つまり、世界が、テロや戦争のない平和で豊かな世界になるように「愛」に強いメッセージがこめられた作品である。画面全体の表現を抑制することで、逆に視覚的効果として「LOVE」の文字を明確にし、心に響くユニークな表現になっている。
受賞おめでとう。次回の作品に期待します。

評－岸本　一夫（会員）

奨励賞

CHAOS ～カオス～　(97.4×131.5)
仲里　都貴江



第69回奨励賞を加えて奨励賞を3度受賞し、準会員に推挙された。
今回も自然界をモチーフにした作品です。
CHAOS（カオス）の作品は、大胆な構図で、カンムリワシに見えたり、又人の心臓にも見える。仲里都貴江さんに話を聞くと、このアートは、コンピューターで描いたカオスのデータに感じた色彩を選択し「試行錯誤」を繰り返し仕上げているようだ。又9枚の型抜き技法を使い、それぞれのカラーが混ざらない様、工夫をこらし丁寧に仕上げている。画材はパステルで、淡い色のパステルをディープな色合いにまでもってくるまでは幾度も幾度もパステルを塗りこんでいるようです。
ディープな色合いのバックはディープなアートをより馴染ませる様、微妙な色彩の濃淡を何度も調整しながら作品を仕上げている。
作品は大胆で、自然の生き物を観察しなければ作品は生まれない。斬新で全体の構図も良くデザインしている。…受賞おめでとう。

評－宮城　保武（会員）

奨励賞

うちなー花蝶図　(B1)
山里　永作

沖縄で咲いている草花をモチーフにした作品で、穏やかな日々を感じさせます。
作品は、イラストレーションというカテゴリーで、ボタニカルアートのジャンルになります。ボタニカルアートとは古代エジプトや中国などで、薬草を見分ける為に描かれた絵であり、植物画の始まりだと言われています。現代では植物図鑑の絵がこれにあたります。
作品には文字は入っていませんが、デザイン展開を考えると、園芸の雑誌の表紙やイベントのポスターに転用できるイラストで、クオリティーの高い作品に仕上がっています。
植物の周りを飛ぶ沖縄の蝶を良く観察して描写していますが、欲を言うと真ん中の蝶を斜めに描くと、もっと生きいきした空間表現になると思います。
近年はパソコンを使ってのイラストを描く事が増えており、手描きでリアルイラストを描く人が少なくなっている中で、手描きの良さを知り出品し続けている山里氏の信念を感じます。

評－知念　仁志（会員）

浦添市長賞

Okinawan Patchwork　(B0)
和田　瑞希

タイトル通りパッチワークのように、沖縄を様々な形と色で可愛らしく表現した作品になっている。
切って張り付けてみたり、描いてみたり。手作りの楽しさや温もりが伝わってくる。また、白とカラフルな背景色や生い茂る自然を敢えて筆の質感だけを使うことで、家の中と外の世界が明確に表されている。これに遊びのアクセントを加えるとより楽しさに深みが出てくると思います。
去年に引き続き2度目の受賞。来年も更に上を目指し頑張ってください。

評－幸地　のぞみ（会員）

うるま市長賞

「music gives color to live」（130×92×20）
城間　アルベルト

アルベルト氏は2014年うるま市長賞、2015年に浦添市長賞を受賞。今回で3度目の受賞。

昨年、音楽家である彼はバンド（ディアマンテス）が結成25周年の節目を迎え音楽への感謝の気持ちを形にしたくなり中古屋でガラクタ状態のギターを購入し、ペイントをしていた。当初から沖展に出品する計画は無かったが時間が迫るにつれて創作意欲が出てボードを作りギターを張りつけ色彩を施し完成させた。努力をして挑戦を続ける人に"勝利の歌"はやってくる。作品をよく見るとボードに描かれたグレーの風景とギターに描かれたカラフルな風景が重なっています。同じ風景で色を対比させる事で音楽への感謝の気持ちを表現している。作品名を訳すると、音楽は生きるための色を与える、となり（色＝希望）と思います。音楽は人が困難に立ち向かう時、そっと寄り添い、明日への希望を与える。生きている喜び・希望を伝える秀作です。受賞おめでとう。今後の活躍に期待します。

評－キムラ　ロメオ（会員）

沖縄教育出版賞

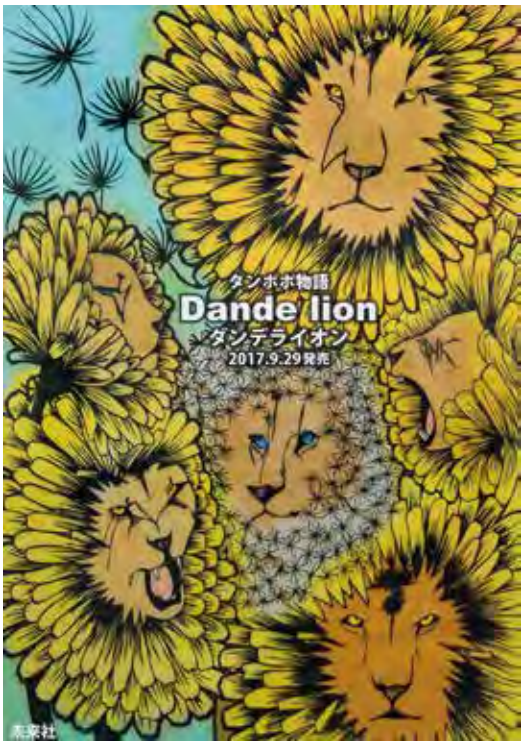
絵本「ダンデライオン」発売告知　(B1)
仲座　萌香

受賞作は、絵本のキービジュアルのライオンイラストが全面に力強くレイアウトされて、絵本タイトルの扱いも整理されており、まとまりのあるシンプルな絵本の発売告知ポスターである。

独創的なイラストは、表情豊かでダイナミックさも感じる仕上げで、若々しいエネルギーを感じるが、表現的にフラット気味で、もう少しメリハリのある見せ方や、迫力、ストーリー性を感じられる工夫も欲しかった。自主制作ポスターだが、絵本の内容を想像し強調するキャッチフレーズやリードコピーなどを加える事で、この絵本がよりメッセージを伝えるポスターになったかと思う。伝えるべき要素の整理が必要と感じた。

これからも幅広く若い感性を研き社会と向き合いながら作品づくりにチャレンジして、楽しくクリエイティブしていくことを期待する。

評－玉城　徳正（会員）



書芸部門

総評ー我喜屋　明正（会員）

毎年わくわくさせるような作品に出会えるかと期待しながら審査に臨んでいます。

今年は、漢字、かな、篆刻等の作品は全体として良くまとめられ制作意欲が感じられました。一部作品には惰性なのか、工夫のない作品が散見され残念にも感じました。かな作品は料紙の取り扱いが巧みになり、個人的にはこれ以上料紙に頼らないことを望みます。

作品は師風に染まりそこから脱却するところから個性有る作品に昇華すると信じています。特別異彩のある、作品を求めてはいませんが、自分らしい個性溢れる作品制作に期待しています。惜しくも落選をした作品の中には、個人的に良く工夫をした物もありましたが、書き込み不足が目立ったと感じており、残念な結果になりました。

若手の生気溢れる出品作が欲しい処です。落選を恐れることなく意欲作を出して下さい。

今回の受賞作は、よく工夫と試行錯誤の跡が見え、努力したことが結果に繋がりました。今後も、ますますの努力をされるよう多いに期待します。

準会員の作品は落ち着きのある作が多く、今年こそはとの思いがヒシヒシと伝わりました。32点の中から賞を射止めた2人は長年の刻苦のたまものだと思います。今年は厳しい審査になりましたが、出品作品の質が向上したあらわれでしょう。来年を楽しみにしています。

＜前期･後期＞

会員作品

主の御告げ
「平安」「計画」「将来」「希望」― 東　江　順　子
萬法歸一―― 安　里　牧　子
牧水のうた―― 阿　部　田鶴子
鳥歌花舞―― 新　城　弘　志
久かたの・・・―― 上　原　幸　子
鳳圖―― 運　天　雅　代
詩経大雅文王　於緝熙― 大　城　武　雄
望海楼晩景―― 大　城　　稔
七言律詩　四首―― 大　山　美代子
春夜宴桃李園序―― 我喜屋　明　正
岑参詩―― 我　部　幸　枝
雛―― 神　山　律　子
黄華夕露深　得魚忘筌
絜矩之道　游魚出聴―― 金　城　多美子
花と月　四季の情景―― 小　杉　紘　子
なんた濱より―― 砂　川　米　市
亢龍有悔―― 砂　川　　榮
李嶠詩―― 髙　良　房　子
只管―― 田　名　洋　子
鋳人―― 茅　原　善　元
語句―― 渡名喜　　清
平和―― 豊　平　信　則
桂離宮・・・―― 名　嘉　喜　美
李白詩「春夜洛城聞笛」― 長　浜　和　子
道無双―― 仲　村　信　男
菜根譚―― 中　村　裕　美
山越えて―― 仲　本　清　子
獨立自尊―― 仲　本　朝　信
周述詩―― 西蔵盛　英　雄
野曠鳥聲楽―― 比　嘉　千鶴子
鼓腹撃壤―― 比　嘉　安　子
陶然自樂　歳月不待人― 比　嘉　良　勝
荘子逍遙遊篇―― 東恩納　安　弘
壽安　四種―― 前　田　賢　二
椰子の実―― 眞喜屋　美　佐
無心帰大道―― 宮　里　朝　尊
開花―― 盛　島　高　行
寒山詩―― 山　城　篤　男
天地の―― 山　城　美智子

準会員賞

春のうた―― 村　山　典　子
龔自珍詩「夜坐」他三首― 与那嶺　典　子

準会員作品

李白詩―― 天　久　武　和
古今和歌集のうた　六首― 石　津　陽　子
春陰　他二首―― 伊野前　喜美子
蔡大鼎詩―― 上　門　かおり
春夜洛城聞笛―― 上　地　　徹
送孫良玉還同安―― 上　原　貴　子
李白詩　六首―― 上　原　孝　之
李白詩―― 上　間　志　乃
杜甫詩―― 我喜屋　ヤス子
漢詩―― 漢　那　治　子
暁至湖上―― 幸　喜　石　子
爽邁―― 幸　喜　洋　人
寒山詩―― 島　　尚　美
塞下曲二首　他三首―― 島　崎　サダエ
李白詩　二首―― 城　間　律　子
曹学佺詩　他二首―― 新　垣　敏　子
竹―― 新　里　明　美
陳三島詩　他一首―― 新　里　智　子
春光―― 髙江洲　朝　則
孟冬朔日菊尊小集次韻
答賓谷丈　他二首―― 友　利　通　子
夜坐　金克己詩―― 豊　平　美奈子
秋鴈　早春長安道上―― 仲　里　　徹
朴の花―― 西　澤　恒　子
行書千字文―― 福　原　兼　永
「虹の中で」晶子のうたを― 松　田　征　子
蔡大鼎詩―― 松　堂　康　子
群青の海―― 宮　城　政　夫
山家集より―― 本　村　晴　美
十七帖―― 吉　里　恒　貞
百人一首―― 吉　田　優　子

沖展賞

秋風―― 渡慶次　喜代美

奨励賞

感懐　他一首―― 金　城　めぐみ
船下夔州郭宿雨湿不得上岸
別王十二判官　他一首―― 島　袋　園　子
月下獨酌―― 比　嘉　徳　史
蔡大鼎詩―― 宮　城　みち子

浦添市長賞

杜甫詩　四首―― 仲宗根　　司

うるま市長賞

夕月夜―― 福　原　美　枝

沖縄教育出版賞

白居易詩―― 仲　間　李　子

一般入選作品 ＜前期＞

＜漢字＞

題劉渙中司空隠居圖　他一首―赤　嶺　美智子
蔡大鼎詩―安　里　弘　子
村舎　他二首―安座間　澄　子
李白詩　五首―安谷屋　実　加
北庭に赴むかんとして隴を
度って家を思う　他三首―天　久　美津枝
蔡大鼎詩　七首―新　垣　惠津子
漢詩　二首―新　垣　絹　枝
蘇軾詩―新　垣　貴　子
舟中遣懐、一四日歸舟分韻
雪朝偶成―糸　数　武　子
七言絶句　二首―稲　嶺　法　子
蔡大鼎詩―伊　波　エツ子
杜甫詩―伊　禮　かおる
漢詩　三首―上江田　敏　博
晩泊濟陽　西江貽釣叟騫生―上　原　啓　子
杜甫詩―上　原　妙　子
田家雑興　他二首―上　原　千枝美
登晴川閣小飲―上　原　美奈絵
柳色―上　原　安　子
李白詩―上　原　好　美
唐詩　四首―上　間　智　子
蔡大鼎詩―内　間　カズ子
高青邱詩―浦　崎　康　哉
蔡大鼎詩―栄野川　栄　子
夏日偕東沙赴練塘北園之遊
他一首―近　江　幸　子
施宜生詩　他二首―大　城　加代子
漢詩　二首―大　城　さやか
漢詩　三首―大　城　百合子
七言律詩　三首―太　田　節　子
漢詩―太　田　美枝子
夫に寄す　他二首―大　田　安　子
七言律詩　二首―小　川　和　美
蔡大鼎詩―奥　濱　喜美子
李白詩―垣　花　廣　光
插秧歌―金　村　幸　子
漢詩　六首―神　里　和　子
朱経詩　他二首―神　谷　　希
曹植雑詩―神　山　直　子
蔡大鼎詩―香　村　春　乃
山居月夜　他一首―亀ヶ谷　牧　子
蘇東坡詩―川　上　タケミ
蔡大鼎詩―川　上　秀　子
李白詩―川　中　留　美
送顧啓姫北上　他二首―喜久山　安　子
漢詩　二種―儀　間　美代子
高青邱詩　他二首―金　城　　功
蓮を種える―金　城　翔　太
早發巣縣暮宿金城寺
他一首―金　城　直　子
漢詩―金　城　美　恵
米芾詩漢詩　二首―久　髙　博　典
夜登燕子磯―國　吉　真　吾
新河夜泊―久保田　麻　里
阻雨不得登蟠龍　他一首―桑　江　美恵子
和昌黎秋懐詩　他二首―小橋川　町　子
丹青引贈曹将軍霸（杜甫詩）―米　須　浅　美
湘中送友人―酒　井　　文
漢詩　三首―島　津　和　美
漢詩　二首―島　袋　敬　子
月夜泊虎山橋　他二首―謝名堂　奈緒子
漢詩　二首―諸喜田　サヨ子
漢詩―城　間　敬　子
高青邱詩　他二首―城　間　ハツヱ
秋懐　其一―城　間　美　香
間花―砂　川　恭　子
遊斜川　他二首―玉那覇　すみ子

＜調和体＞

人生に定年はない―謝　花　初　子
海の怪―玉　城　笙　子

＜仮名＞

よひらの数―赤　嶺　弘　子
菊の花―粟　国　美智子
夢桜―安座間　賀　子
百人一首より―上　元　　優
山郭公―大　嶺　加代子
照りもせず…―上運天　春　菜
いつしかと…　他三首―岸　本　弘　子
春くれば―宜寿次　政　代
小倉百人一首より 六首―喜　納　竹　子
夕月夜―儀　間　洋　子
山眠る―喜友名　正　子
いにしへの…―佐　敷　博　美
思里（うみさと）―志慶真　幸　代
花のゆくへ―志　田　美代子
春―下　地　郁　子
秋の野に―城　間　杏　奈

＜巻子＞

蔡大鼎詩―仲　舛　由美子
ひ无可し能―諸見里　史　子

＜篆刻＞

遐寿無極・撥雲尋道
神清智明・楽哉新相知―赤　嶺　悦　子
父恩高於山　佳遇新歡
愛敬盡於事親　福生於無爲―安　里　涼　子
清虚静泰　色即是空
文珠知恵　時節到来―伊　佐　澄　子
帰馬放牛　越鳥南枝
虚静恬淡　幕天席地―上　原　和　子
涵養須用敬　白雲抱幽石―上　原　善　輝
鶴翼之陣・天道無親
臨機応変・以鈍為體以静為用―嘉　納　京　子
福以徳招・景気和暢
傅虎以翼・道法自然―桑　江　慶　子

一般入選作品 ＜後期＞

＜漢字＞

漢詩　二首――平　良　悦　子
雑詩　他一首――平　良　小夜子
漢詩　三首――平　良　久　子
徐葆光詩　琉球八景――髙　良　一　實
蘇東坡詩――田　場　愛　子
李商隠詩　二題――田　場　　博
寄友人　他二首――田　端　喜　代
夜眺　他二首――田　福　宏　美
韓愈詩――玉　元　庄　弘
漢詩　二首――田　港　玲　子
王建詩――知　念　一　正
春日郊外――知　念　栄　子
劉院再到天台不復見仙子（曹唐詩）――知　念　レイ子
和高仲本喜相見　他一首―津嘉山　純　枝
七言律詩　三首――照　屋　敏　子
寒山詩――當　山　菜　月
漢詩――当　山　初　江
秋懐詩――渡　口　葉　子
程德望祠部登月亭　他一首―富　盛　朝　秀
都城雑詠　他二首（漢詩）―友　寄　恵　子
漢詩――豊　平　美榮子
雑詩――長　堂　加代子
漢詩「梅初破蕾行江路…」他―長　浜　まさ子
雷・夏日山中述懐　二首―長　嶺　朝　弘
唐詩――仲　本　一　郎
剣門――仲村渠　良　雄
春日耕者　他一首――名渡山　千恵子
萱草　外二首――根路銘　昭　子
蘇軾詩　二首――濱　川　栄　優
王越詩――浜　元　邦　子
蔡大鼎詩――比　嘉　勝　子
蔡大鼎詩――比　嘉　さつき
漢詩　二首――日　高　俊　彦
漢詩　二首――日　高　米利子
不知香積寺――比屋根　尚　美
漢詩　五首――柊　﨑　ケイ子
日を惜しむ（惜別）――福　地　恭　子
江上送別　他二首――古　堅　直　子
送別　他――古　堅　玲　子
王據――外　間　早　智
桐江　他一首――真栄田　ミネ子
蘇東坡　三首――真栄田　義　之
漢詩　五首――真　壁　恵　子
漢詩　二首――真　謝　幸　代
漢詩――又　吉　澄　枝
夏夜宿流虹寺有感　他二首―松　川　美智子
贈陳都師　他一首――松　田　恵　子
高青邱　他三首――松　本　弘　子
李白詩――嶺　井　律　子
夕照――宮　城　秋　夫
子由の「踏青」に和す―宮　城　圭　子
蔡大鼎詩――宮　城　孝　子
漢詩　二首――宮　城　紀　子
舟中・客堂秋夕――宮　城　政　子
東平道中　外二首――宮　城　洋　子
杜甫詩　四首――宮　城　律　子
漢詩　二首――宮　里　民　子
春の詩　三首――宮　平　妃女花
蘭亭　他一首――森　　さゆり
李白詩――盛　島　洋　子
書懐――山　内　成　子
流水――山　里　昌　輝
雨後　外二首――山　里　美代子
漢詩　二首――山　城　捷　明
蘇東坡詩――屋　良　知絵未
賦得秦淮送宋仲珩他二種――与　儀　政　子
蘭亭　他一首――与　儀　好　子
秋懐――與那城　千恵子
李白詩――與那覇　初　子

＜仮名＞

牧水の歌　三首――瀬　長　由美子
良寛の歌――田　場　啓　子
春の歌　七首――當　間　秀　美
つくば山――渡久地　美佐子
天のかぐ山――仲　　昌　代
春のかぜ――仲　程　一　美
しら川――仲　村　妙　子
茜さす――新　田　千賀子
恋歌（古今和歌集より）―濱　川　綾　子
浜千鳥――比　嘉　栄　子
わが園に――備　瀬　恵　子
山桜花――松　田　春　美
秋ふかみ――宮　城　多佳子
新古今より…――宮　城　マナ子

＜巻子＞

杜子美詩――與那覇　律　子

＜篆刻＞

長鞭馬腹　魚網鴻離
唯我獨尊　雲煙飛動――古　謝　治　子
福聚海無量　寧静到遠
人生桐葉露――小　林　好　生
文摘論語――呉　屋　純　媛
和氏之璧　年豊人楽
美意延年　謂無威武――須　藤　　保
聞鐘為日　風光明媚
動静雲為　万物逆旅――関　口　恵美子
安善養徳性・恵風和暢
学道則愛人・陰徳陽報―田　頭　節　子
喜怒哀楽　有職故實
明哲保身　萬福長者――玉　城　鶴　枝
百川帰海　有脚陽春
先難後獲　師資相承――山　城　千恵子

詩経大雅文王　於緝熙
大城　武雄（会員）
（225×53）

椰子の実
眞喜屋　美佐（会員）
（230×53）

無心帰大道
宮里　朝尊（会員）
（235×53）

周述詩
西蔵盛　英雄（会員）
（240×60）

亢龍有悔
砂川　榮（会員）
（240×60）

野曠鳥聲楽
比嘉　千鶴子（会員）
（226×53）

（40×70）　主の御告げ「平安」「計画」「将来」「希望」
東江　順子（会員）

黄華夕露深　得魚忘筌　絜矩之道　游魚出聴
金城　多美子（会員）
（70×40）

(70×135)　李白詩「春夜洛城聞笛」　**長浜　和子**（会員）

鳳圖　**運天　雅代**（会員）

(135×70)

望海楼晩景　**大城　稔**（会員）

(170×70)

鳥歌花舞
新城　弘志（会員）
(105×52)

(70×135)　　道無双　**仲村　信男**（会員）

陶然自樂　歳月不待人
比嘉　良勝（会員）
(52.5×32.8)

鼓腹撃壌　**比嘉　安子**（会員）
(180×60)

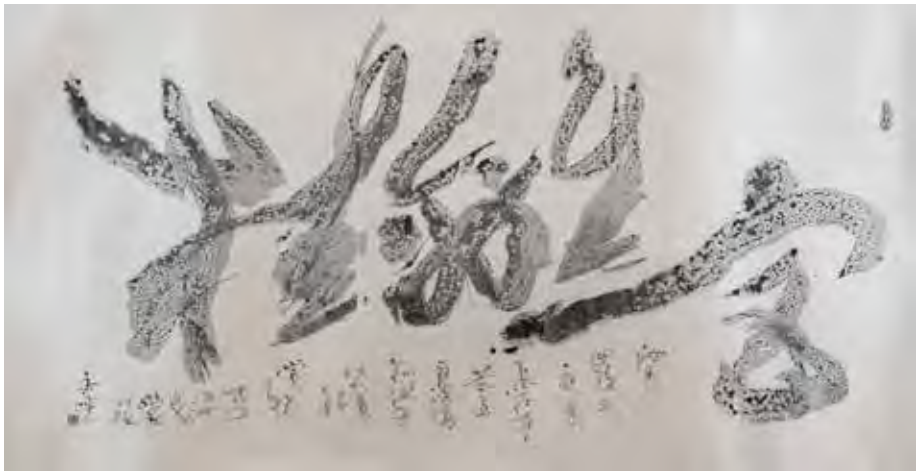
(70×170)　　李嶠詩　**髙良　房子**（会員）

(70×150)　春夜宴桃李園序　**我喜屋　明正**（会員）

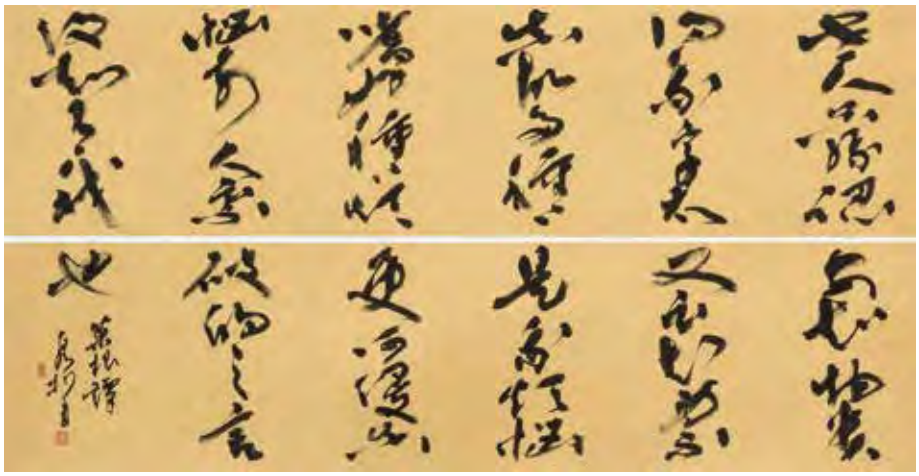
(94×123)　平和　**豊平　信則**（会員）

開花　**盛島　高行**（会員）

(180×65)



(69×139)　桂離宮・・・　**名嘉　喜美**（会員）



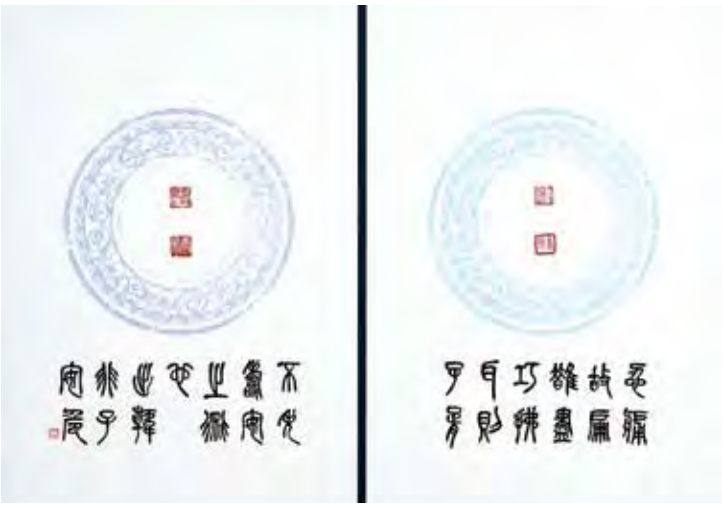
(70×135)　菜根譚　**中村　裕美**（会員）

(70×135)　鋳人　**茅原　善元**（会員）

(137×35)　荘子逍遙遊篇　**東恩納　安弘**（会員）

雛　神山　律子（会員）

（136×56）



（48×68）　　壽安　四種　**前田　賢二**（会員）

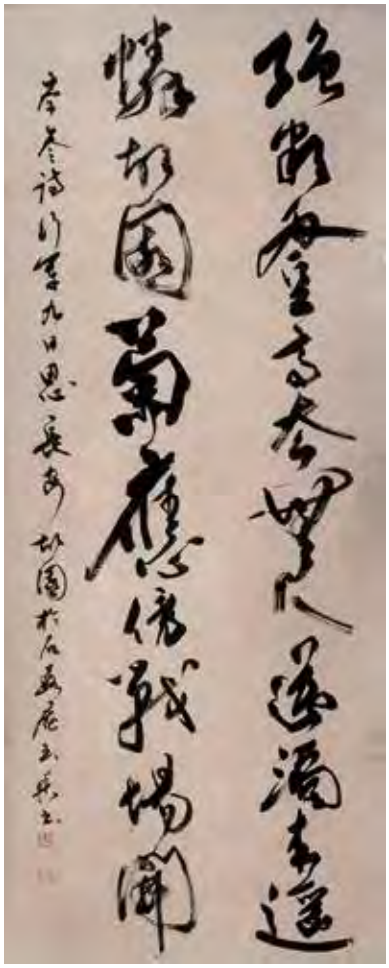
（70×135）　　寒山詩　**山城　篤男**（会員）

只管
田名　洋子（会員）
（135×70）

(70×135)　　語句　**渡名喜　清**（会員）

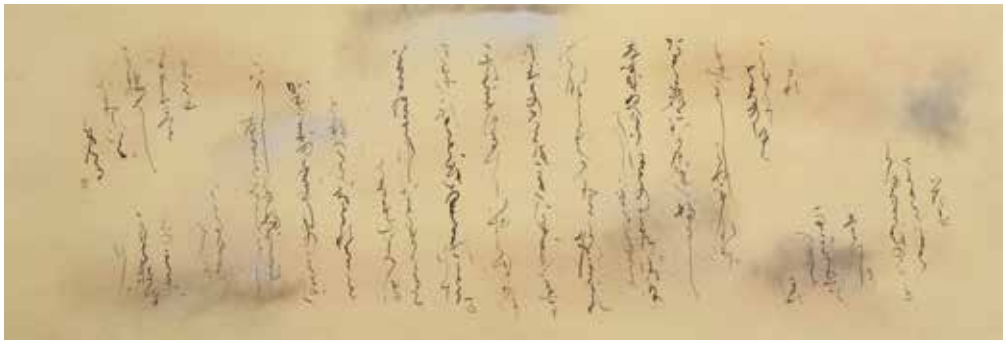
獨立自尊　**仲本　朝信**（会員）

(135×35)



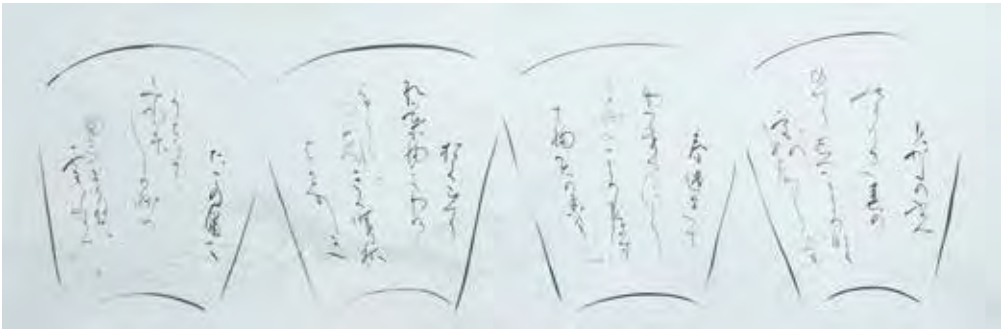
岑參詩
我部　幸枝（会員）
(175×70)

萬法歸一
安里　牧子（会員）
(135×70)



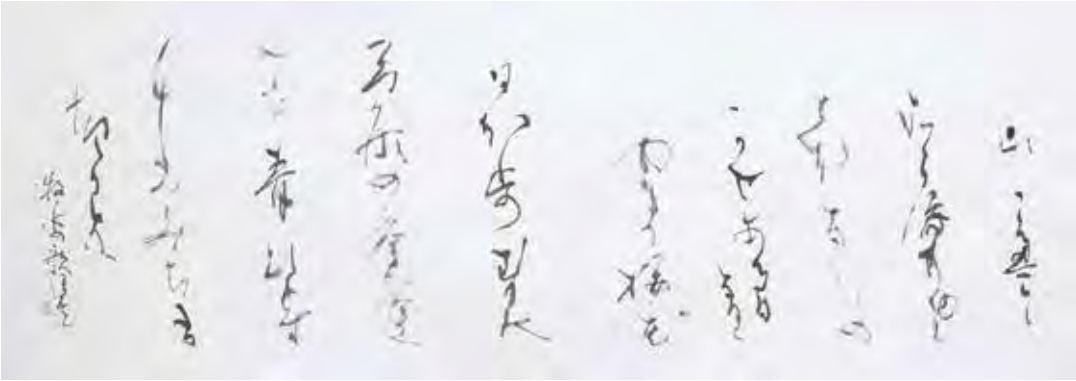
(60×180)　花と月　四季の情景　**小杉　紘子**（会員）

(35×138)　なんた濱より　**砂川　米市**（会員）

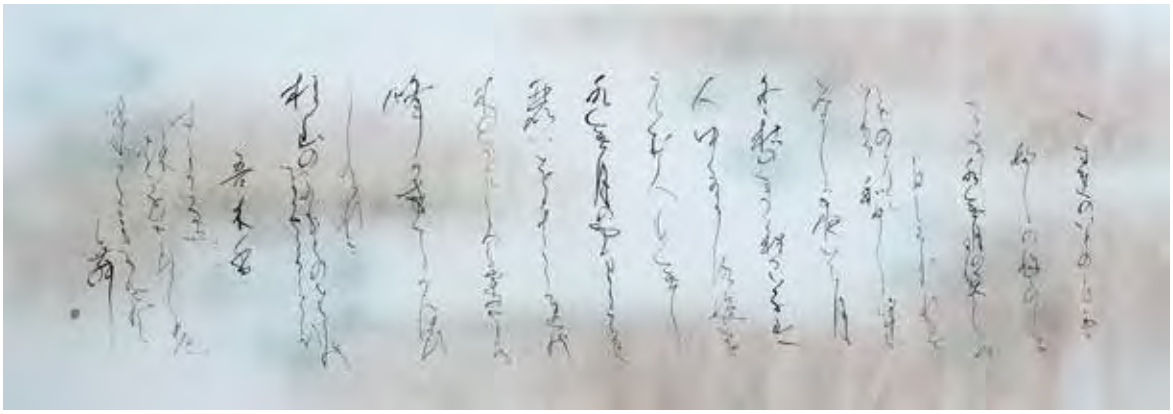


(60×180)　久かたの・・・　**上原　幸子**（会員）

天地の
山城　美智子（会員）
(224×53)



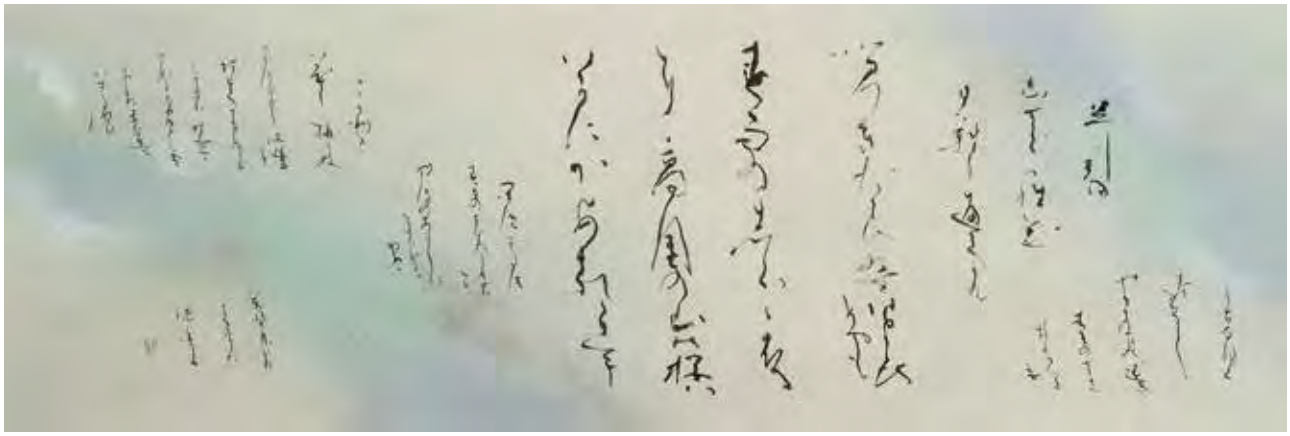
(60×178)　　山越えて　**仲本　清子**（会員）



(60×180)　　牧水のうた　**阿部　田鶴子**（会員）

(30×350)　　七言律詩　四首（部分）　**大山　美代子**（会員）

準会員賞



(60×178)　　春のうた　**村山　典子**（準会員）

かなの本質、その最たるものは「余白・線質・品格」であろう。まず、「余白」とは、単に余った白い空間という意味ではない。文字を組み立てる一筆一筆の力が放つパワーを受けとめ、次なる行へのバネの役目も果たす、寧ろ、「要白」と言っても然り。これは、構成設計の段階において最もこだわる所。この作品の一番の特徴が、この思い切った「余白」のとり方にある。万葉集六首をこうも大胆に分割し、然も細字、中字と変化させ、まるで空間を自由に回遊しているかの如き構成は、長年の探究により培った独自の世界観に依る。

そして、その空間を繋ぎ支えるのは、鋒先の利いた強い線質に他ならない。弾んだ様な運筆は細字部分でもスケールを大きく感じさせる。又、墨量の変化も美しい。細字から静かに始まり上部へ。山場となる中字の初めの渇筆が墨量の利いた“春雨”を鮮明に映す。その右下方向へと伸びた横画の動きはスピード感と広がりと緊張感を醸し出して心地よい。

対するは中字最終行の「安類ら牟」。しなやかさが解放感を与えてくれた。この後の一首群の大きさは一考を要すると思うが、ともあれ、全体的に漂う清廉な空気、品格は、かな本来の高貴なイメージを彷彿とさせ、会員推挙にふさわしい、センスの光る逸品となった。この実力を生かし、更なる研究を共に進もう。

評－仲本　清子（会員）

準会員賞

(30×350)　　龔自珍詩「夜坐」他三首（全体）　**与那嶺　典子**（準会員）

（部分）

準会員に昇格して十年余、長年の努力が今回大きく結実した。真におめでとうございます。張瑞図を研究し書技の向上に努めた、そのたゆまぬ努力に敬意を表したい。

受賞作は、龔自珍詩「夜坐」他三首を巻子に表現した。書き出しから集中力を維持し、心穏やかに最後まで丁寧に筆を運んでいる。何かと煩雑になりかねない日常の中で、落ち着いて書に向かうことは容易ではないが、作者の誠実な姿勢は見習いたいものである。早くから書作に取組み、かなりの枚数を書いたと聞く。作品は、山里の穏やかなたたずまいを想起させ、静寂な空気さえ伝わってくる。文字の造形は自然体で誇張がなくゆったりと流れ、骨力ある線質が作品を安定させ、快い緊張感もあり品格ある作品となった。

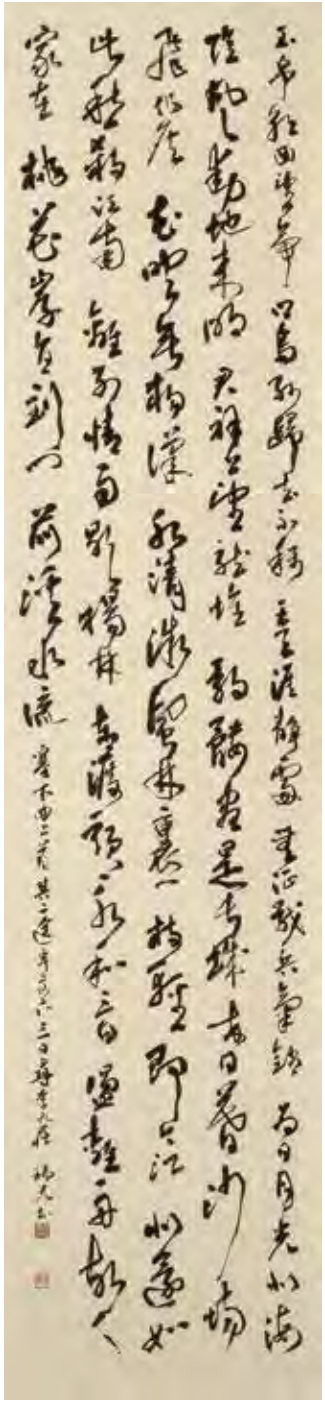
今後の課題としては、行間の広さに対する文字の張りと脚部の文字処理に工夫が欲しい。特に巻子は料紙の質と色が作品の雰囲気に大きく関係すると思われるので、料紙と墨色の調和を大切にし、ますます研鑽を積み詩情豊かな作品になるよう今後も期待する。

評－長浜　和子（会員）

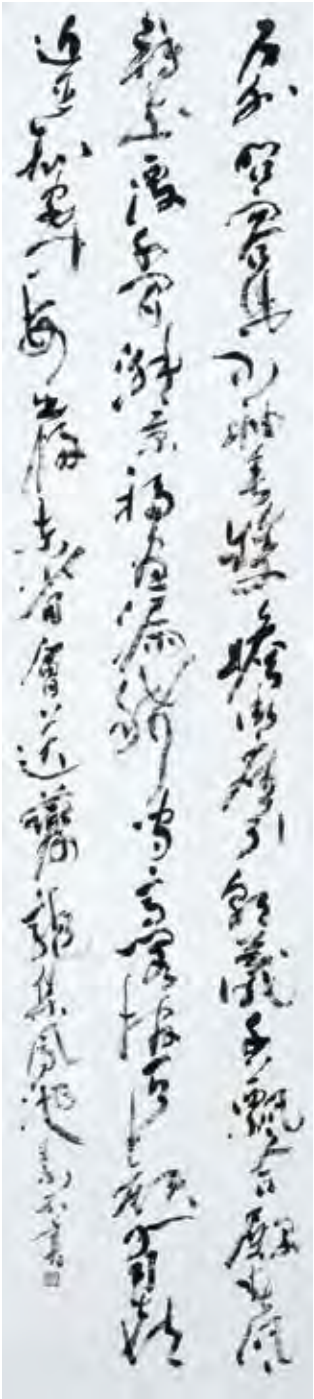
孟冬朔日菊尊小集次韻答
賓谷丈　他二首
友利　通子（準会員）
（227×53）

李白詩
上間　志乃（準会員）
（234×53）

春光
髙江洲　朝則（準会員）
（227×53）

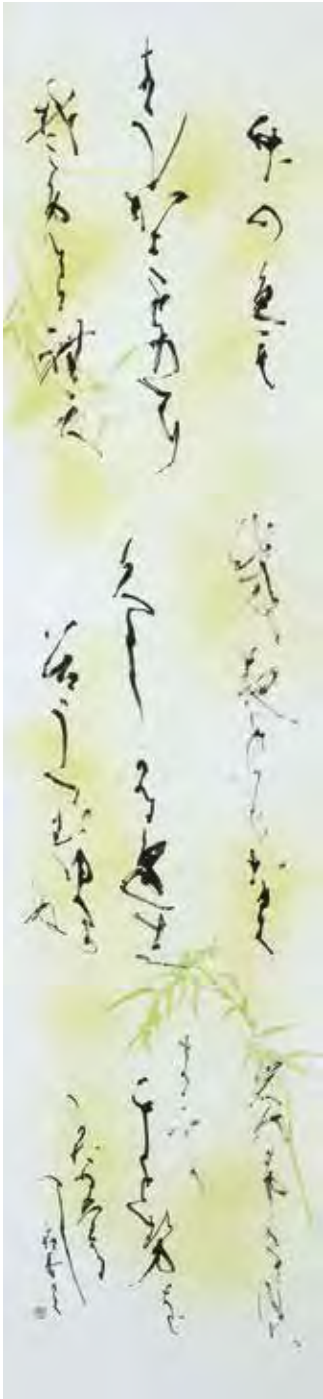


塞下曲二首　他三首
島崎　サダエ（準会員）
（228×53）



杜甫詩
我喜屋　ヤス子（準会員）
(224×53)

夜坐　金克己詩
豊平　美奈子（準会員）
(215×53)



竹
新里　明美（準会員）
(210×53)

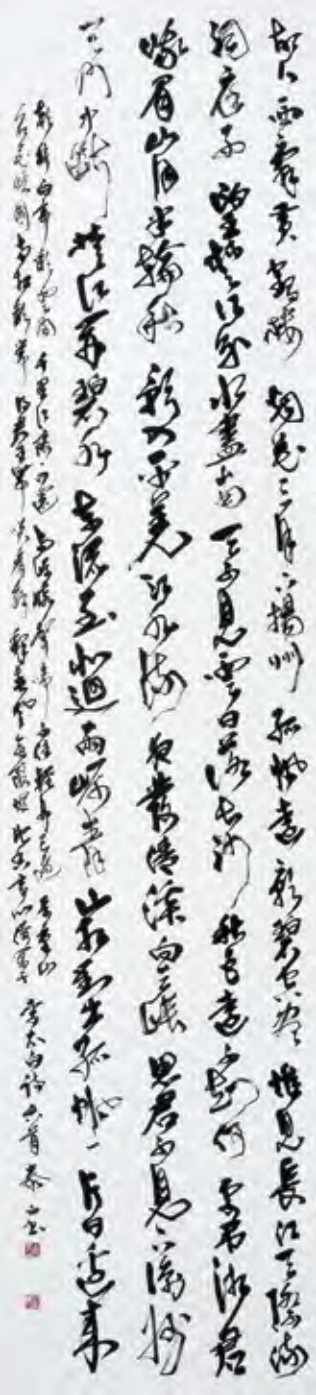
行書千字文
福原　兼永（準会員）
(220×53)

曹学佺詩　他二首
新垣　敏子（準会員）
（227×53）

秋鴈　早春長安道上
仲里　徹（準会員）
（242×61）

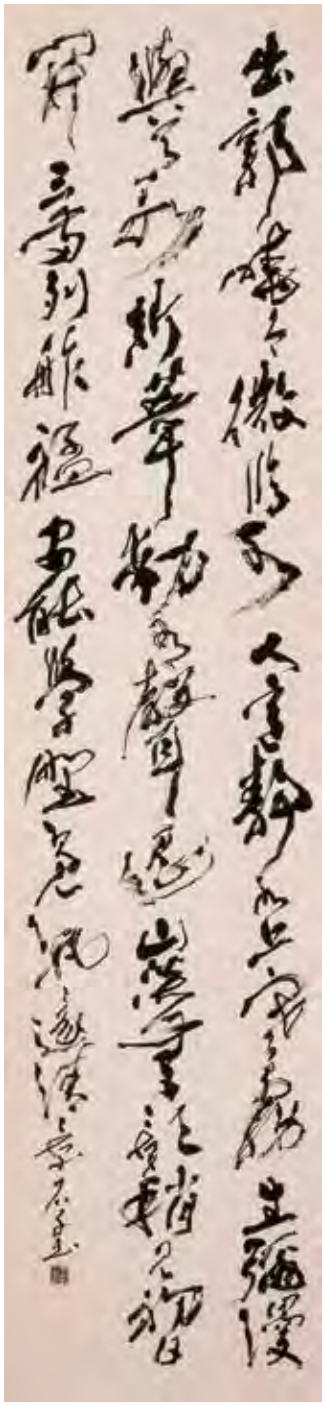
陳三島詩　他一首
新里　智子（準会員）
（226×53）

李白詩　二首
城間　律子（準会員）
（230×53）



李白詩　六首
上原　孝之（準会員）
(227×53)

蔡大鼎詩
松堂　康子（準会員）
(225×53)



暁至湖上
幸喜　石子（準会員）
(227×53)

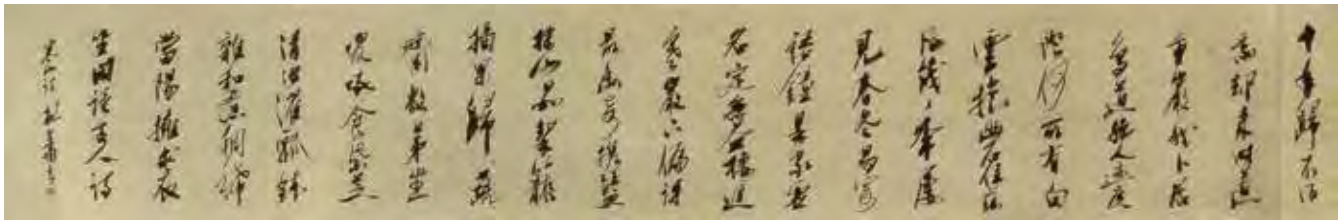
十七帖
吉里　恒貞（準会員）
(220×60)

李白詩
天久　武和（準会員）
（220×55）

春陰　他二首
伊野前　喜美子（準会員）
（227×53）

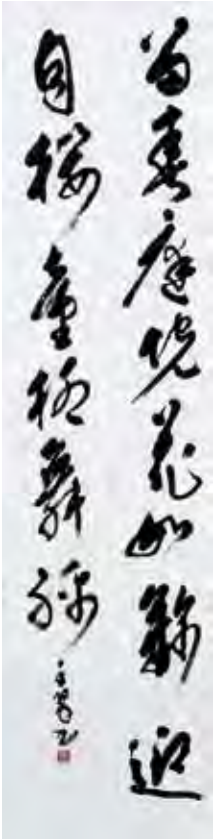
送孫良玉還同安
上原　貴子（準会員）
（240×53）

「虹の中で」晶子のうたを
松田　征子（準会員）
（180×60）



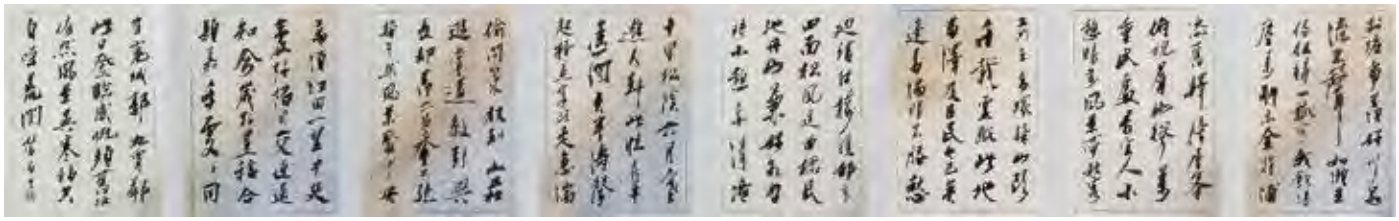
(30×348)　　寒山詩（部分）　**島　尚美**（準会員）

春夜洛城聞笛
上地　徹（準会員）
(170×70)



漢詩
漢那　治子（準会員）
(136×34)

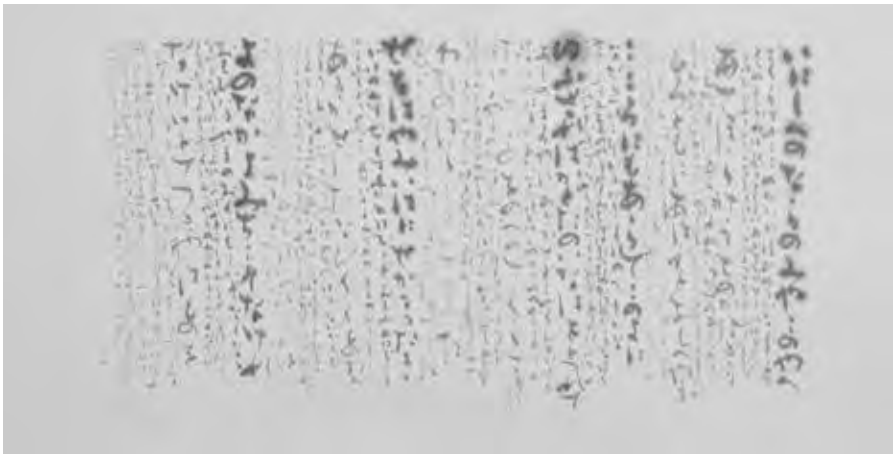
群青の海
宮城　政夫（準会員）
(120×129)



(33.5×288)　　蔡大鼎詩（部分）　**上門　かおり**（準会員）

(60×180)　　山家集より　**本村　晴美**（準会員）

(60×180)　　朴の花　**西澤　恒子**（準会員）



(70×137)　百人一首　**吉田　優子**（準会員）

古今和歌集のうた　六首　**石津　陽子**（準会員）

(180×60)

(78×166)　爽邁　**幸喜　洋人**（準会員）

沖展賞

(60×178)　　秋 風　　渡慶次　喜代美

色も紙質も異なる2枚の紙を、白色1：山吹色3の割合で繋いだ60cm×178cm の紙面に、横展開で、新古今和歌集秋の歌二首が躍動感あふれる筆致で書作されている。

この作品、白地の紙の第一首目は、字粒がやや大きく紙面が窮屈に見えるが、それに続く山吹色の紙の第二首目は、ゆったりとした流れで書き進められ、3行目上部の堂々と伸びた「し（之）」に目が引き寄せられる。まわりの文字群がこの「し」を引き立てて、素敵な空間を演出している。疎密の作り方・それぞれ両隣りの行との間合の取り方もよく考えられ、見ごたえのある作品となった。日々の鍛錬で羊毛筆をよく使いこなし、リズム感良く変化ある運筆も楽しい。

沖展賞、おめでとう。今後、ますますのご活躍を期待します。

評－小杉　紘子（会員）

感懐　他一首
金城　めぐみ
（230×53）

奨励賞

五言古詩を連綿行草体で表現、中国明清代の王鐸・米芾に倣った作は味わい深く、見る人の目を引きつけるであろう。

墨色はこころの色を映す鏡と言われており、その精神性をも写し出す。

この作品は古墨を丹念に磨いたようで深い漆墨の色が紙面を鮮やかにその妙を表現、余白の美しさを生んだ。筆はむじな毛の強靭な線質を存分に生かした筆勢ある優美な仕上がりとなった。

師茅原南龍先生の一声で使い慣れた筆、紙、墨すべて一新して作品に打ち込んだ。師の目指す所を目指す姿勢は正に、己自身の挑戦になったに違いない。その情熱が作品から伝わってくる。古典の渉猟を深めて昇華せんとする書家の命題を背負い、書の楽しさを伝えられる人材としてさらなる高みを目指してほしい。

評－中村　裕美（会員）

月下獨酌
比嘉　徳史
（240×60）

奨励賞

2011年に続く2回目の奨励賞おめでとう。李白の古詩月下独酌70字を三行にまとめた好作品である。濃墨で軟毛筆を駆使している。大胆な筆遣いと造形の妙がこの作品の魅力である。字の大小太細濃淡潤渇を極端なまでおし進めながら次に進む字で転回して破綻なく持続進行しているところにこの作者の確かな伎倆を感ずる。

書き出しはおとなしく、は常識であるが、この作者は三字を一字に構成している。続いてその下の「無相親」は文字を偏平にずらし、斜めに重ねて濃淡で組み合わせ親でかかえて調和をとっている。中央の行の中ほどの「及春」は及を冠の如く春字が抱き込んでいる。横の動きを作りながら終筆で次の我歌へ繋げて、三字と見紛うほどに歌字を広げ懐を広く揺蕩っている。これは詩情の独酌の人恋しさ、気やすさ、そして酔態の進行を思わせる。懐の深い造形、内に込めた力、濃から渇へ移る自然さ、一字の中でも太細潤渇を駆使して随所に創意と工夫があり、楽しい見あきない作品となっている。個性ある作品、活躍を期待します。

評－東恩納　安弘（会員）

船下夔州郭宿雨湿不得上岸別王十二判官　他一首　島袋　園子

(227×53)

奨励賞

2度目の奨励賞おめでとうございます。かつて浦添市長賞2回の受賞も実力の証だと思います。

今回の受賞作品は、王鐸の雰囲気が漂い作品の前に立つと思わず体が動かされるような躍動感を感じます。ここ数年王鐸の臨書に取り組み、その成果の表れでしょう。

普段から“書く、見る、聞く”の姿勢を大切に本土の公募展への挑戦、展覧会の鑑賞を怠らず、師・先輩のアドバイスを真剣に吸収して、書作する姿は尊敬しています。

更に一層の研鑽を積まれ、又素晴しい作品に出会えるように期待しています。

評－我部　幸枝（会員）

蔡大鼎詩
宮城　みち子
(240×53)

奨励賞

書は人なり

蔡大鼎が北京で端午の節句の時節に、故郷琉球を想い詠んだ詩「詩中、端午の翌朝は母の命日、故郷琉球の方を見ると涙がとめどなく流れる。とある」を主として、四面に分けて行草の連綿でまとめた秀作。

清らかな流れる水のように爽やかで、無理のない自然なリズムが印象的。また、淡いグリーンのボカシの加工紙にうまく乗せて美しく映える。

多字数にもかかわらず、力まず大小強弱の気配りよく整然とまとめたこの作には、嫌味がない。生気に満ちた強さの中に優しさや温かさを感じさせ品格がただよう。

書は今の自分を写し出す鏡だと言われている。まさに「書は人なり」

更に芸術に終わりはない。どの高さまで行けるかは、あなた次第、鳥のように一途に飛んでいかれることを期待する。

評－神山　律子（会員）

杜甫詩　四首
仲宗根　司
(234×53)

浦添市長賞

昨年の奨励賞に引き続き、今回は浦添市長賞を受賞した。安定した力を見せている。

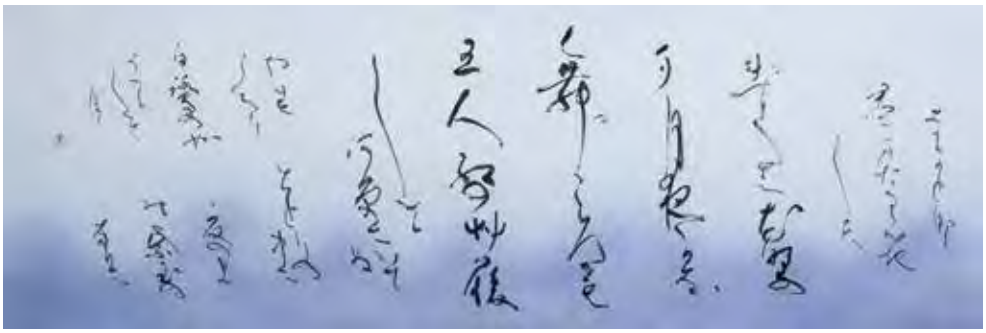
杜甫の詩4首を、5行構成でまとめた作品。大・中・小字をうまく組み合わせ好感の持てる構成にしたのはさすがである。

一行目は中字で静かに始まり、二行目三行目は動きのある大きな文字群字で、筆の開閉、墨の潤滑をリズミカルな力強い線で見せている。

この二行目三行目の線と線の響きが小気味よく、この作品の印象を際立たせている。四・五行を小字群で静かにまとめたのは、見せ場をよく心得た作者の構成力のたまものであろう。顔眞卿の臨書を地道に続けている作者の、今後のますますの精進と開花を期待する。

評－田名　洋子（会員）

うるま市長賞



(60×178)　　夕月夜　　**福原　美枝**

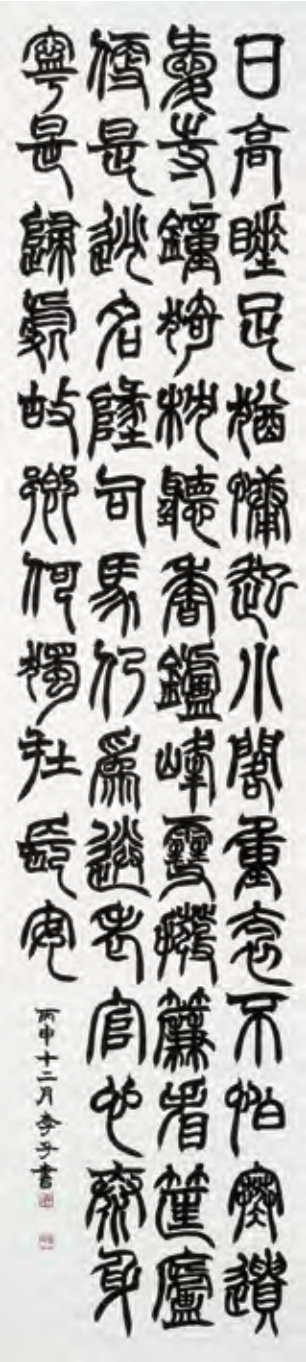
与謝野晶子の歌三首、紫を裾に金の砂子をちりばめた歌意に調和した紙。練度の高い作品群の中から、一際柔軟で整斉として目に映る。

書き出しの墨を抑えた三行から、一転して四行目の筆圧を加えた渇部が生きた。「花野の」から墨を含ませた筆が踊り出す。五行目の「夕」紙にくい込む静、それを受けて「月夜かな」の連綿の動、見事。軸となる六・七行目も張りのある重厚な筆線で全体を支え、後半の下部と上部に分けた空間演出が爽やかな余韻を生み出している。

晶子の歌は、情熱的で奔放な面が取り上げられるが、息子、光の随筆に「優しく謙遜で遠慮深い」面が著わされている。この作品は後者の母性を滲ませ、作者の人柄が重なる。

うるま市生まれ、在住の作者に嬉しい賞となったことでしょう。

評－山城　美智子（会員）



白居易詩　仲間　李子

(227×53)

沖縄教育出版賞

白楽天の七言律詩を篆書四行の構成でまとめた作。線の太細、分間に留意し、書き出しから落款まで緊張感が漲っている。清代趙之謙に範をとり小篆の魅力を十分に表現した。

小篆は篆書の基本。今後もこのスタイルを貫き次回の作品につなげたい。

評－比嘉　良勝（会員）

写真部門

総評ー翁長　盛武（会員）

一般応募180人318点。前年比で、7人11点増。92点が入選・入賞し、入選率は28.9%。

前年より、3.9%低下。一般応募に含まれる学生は、4人5点で、増減なし。2点が入選し、その中から沖縄教育出版賞が選ばれた。久しぶりの賞であり、大変喜ばしい。

今回は、準会員賞2点、沖展賞1点、奨励賞3点、浦添市長賞1点、うるま市長賞1点、沖縄教育出版賞1点と、合計9点になり、より多くの賞を出すことができた。準会員は、16人中9人9点が応募。前年比で、2人2点減。中山良哲氏と真栄田義和氏が準会員賞に選ばれ、会員に推挙された。写真部は会員が少ないので、非常にありがたく、歓迎したい。

ところで、いい写真を撮るには、具体的にはどうすればよいか。思いつくまま、私なりの考えを書いてみた。

1. 被写体を見つける目を持つこと。写真雑誌、コンテスト等の入賞作品の講評、沖展、県展の入賞・入選作品の解説を読んだり、聞いたり等で、いい写真とは何かを研究し、自分なりの考えを持つ。
2. 被写体を見つけたら、状況を把握し、撮る前に、イメージを作る。どんな光で撮るか（逆光か、斜光か、順光か）。主役の背景はどうか。シンプルが良いが、雑然としていないか、目立ちすぎる色とか形がないか（主役を弱くするので、避ける）。レンズの絞りは、開けてボカすか、絞って背景を見せるか。シャッタースピードはいくらにするか（手ブレしないか、主役が動いておればブレないか）。何を表現したいか。主役は何にし、脇役に何を入れ、どれを画面からはずすか。露出はどうするか。画面内に、例えば、白とか黒とかの極端に反射率の高い、又は、低いものの面積が大きければ、プラス又はマイナスに露出補正が必要。
3. ファインダーの中を、スミからスミまで、チェックする。不要なものがないか、画面のバランスは良いか、上記で書いたこともチェックし、構図を整える。
4. シャッターチャンスの良い時、シャッターを切る。表情の良い時、いいしぐさの時。何らかの動きがあり、その場の雰囲気があるとき等にシャッターを切る。

以上、少しでもお役にたてばうれしい。最後に、学生も含め、楽しみながら写真を撮り、気軽に、沖展に応募してほしい。

会員作品

- 異空間――大城信吉
- 海に輝く錨――翁長達夫
- 昼めし前――翁長盛武
- 弾き語り――島元智
- 残響――末吉はじめ
- 小浜島結願祭――渡久地政修
- 悲しきタイヤ――普天間直弘
- 両巨匠（喜如嘉にて）――山川元亮
- 脱出――吉直新一郎

準会員賞

- 平穏を祈る――中山良哲
- ねぶたの館――真栄田義和

準会員作品

- 貌（かお）――東邦定
- 海人の休日――池原徳明
- 修学旅行――仲宗根直
- 祈りを込めて――平井順光
- ケイリンファンタジー――前田貞夫
- 佛――宮城和成
- 残骸に戸惑う――山内昌昭

沖展賞

- ほの明り――儀間生子

奨励賞

- 宮森小・57年目の夏――亀島重男
- 水宝の輝き――中村秀雄
- 穏やかな一日――花城雅孝

浦添市長賞

- 神人祈願（かみんちゅきがん）――國吉健郎

うるま市長賞

- 炎える朝――喜名朝駿

沖縄教育出版賞

- 鉄工――比嘉尚哉

一般入選作品

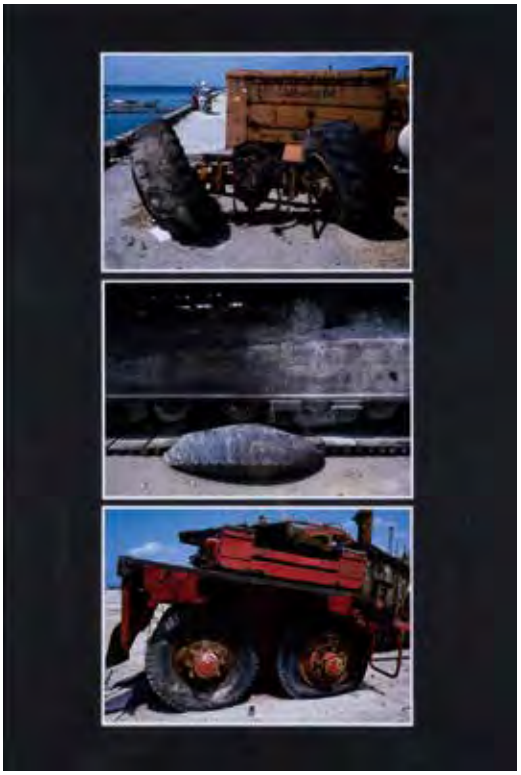
トルネード――安里涼子
花味――天久ゆういち
光の彩り――新垣允啓
森を愁う――新垣允啓
うなり――新城直美
哀愁――新田みゆき
早瀬――伊佐英夫
紡ぐ――石垣末子
静寂――石垣末子
激闘――稲福晃
追悼の日――稲福晃
バカンス――岩城禮子
二十歳、今どき――内間秀太郎
収穫――内間秀太郎
守護神――大川盛安
望郷――大城敏雄
呼吸―みんな生きている―小椋力
烈日――親富祖勝枝
獅子は舞い遊び踊る――我喜屋明正
街角のアートスタジオ―我喜屋功
オジーのマイカー――亀島重男
水面の光景――喜屋武敬子
名もなく毛深く絆深く―喜友名寛
私の大好物――金城文子
まなざし――金城光男
未知の世界へ――金城光男
自然の優美――具志堅明美
タイムスリップ――国吉弘美
降臨――小出由美
夢はプロ――幸喜あかり
シュプール――米須末子
目と鼻の先――潮平寛大
カメさん、またきてねー―島袋進
すれ違い――島袋メリ子
終焉――島袋陽子
銀世界へ――島袋亮
湧き上がるシャワー――城間由美子
ポーズ――新城朝
ムーンライト――瑞慶覧勲
熱い舞台――砂川悦子
アクアの遊星――砂川悦子
空飛ぶライダー――添石艶子
一瞬の速さ――高田和泰
甘蔗（キビ）出し――玉城輝次
神々へ捧ぐ――知念和範
躍動する太鼓――知念和範
匠――知念かねみ
くじらウォッチャー――当真嗣和
農夫婦の実り――栃澤滿郎
眼光――富永由香
playing water――富村盛信
島の熱気――富村盛信
収穫の朝――長堂哲
チャレンジ――仲程梨枝子
田名のハンズナー（神女）―仲間智常
海辺のニンフたち――仲間智常
はじける――永山直樹
はじける瞬間――永山直樹
部活を終えて――西原けんじ
俯瞰――西平守光
天地津梁――長谷川明宏
スージグワー――花城一雄
雨あがりの水鏡――比嘉佐智子
空の狩人――比嘉良正
自然界――福村安政
魚の棲む木――真栄城浩
喝采（かっさい）――真栄城浩
匠――牧志盛吉
母ちゃん大好き――正木スエ子
激走――正木虎夫
かなさんどー――松門重雄
残照――嶺井エリ
白昼夢――宮城隆一
おもてなし――宮義洋史
自然の造形――宮城米子
福島 2016　花は咲く―宮城米子
おばあとの想い出――みやら文
相棒――村田勲
cross over――森江直子
多幸の木・気根――諸見里安吉
狩猟――山内弘子
雨上がりの神秘――山里邦子
収穫――山田恵美子
羽撃つ――山田義憲
炎に託す――与那城純子

特別展示

浜辺の情景――前原基男

脱出(80×110) **吉直　新一郎**(会員)

昼めし前(112×77) **翁長　盛武**(会員)



悲しきタイヤ(75×50.5)
普天間　直弘(会員)

海に輝く錨(97×67) **翁長　達夫**(会員)

残響(62×72) **末吉　はじめ**(会員)

両巨匠(喜如嘉にて) (53×64) **山川　元亮**(会員)

小浜島結願祭（150×75）
渡久地　政修（会員）

異空間（106.7×82）**大城　信吉**（会員）

弾き語り（100×160）**島元　智**（会員）

準会員賞

平穏を祈る　(82×105) **中山　良哲**(準会員)

沖縄県北部の村々のウンジャミを追った作品。海洋遥か彼方、または地底深き所に神のお在します所　ニライ・カナイがあると言います。

ウンジャミはその神をことほぎ、村人の加護を願うところに目的がある、と言われています。作者は数年に渡って撮り続け今回の受賞に至りました。伊平屋村田名の写真は、マジキナノハンタと言う小高い丘での儀式で、もうバックのあの大きな木はありません。作者の腰の据わった撮影スタンスが感じられる写真でもあります。今回会員に推挙となりますが、16年間の作者の努力に賞賛の拍手を送ります。おめでとうございます。要望したいことは、白地に置いた白い紙。それぞれに色があります。そのことから神女の白装束のいわゆる布の質感、その再現の追求をより深めて欲しいと思い今後の活躍を期待致します。

評－島元　智（会員）

準会員賞

ねぶたの館　（81×108）**真栄田　義和**（準会員）

背景の黒バックに武者面のねぶたがライトでオレンジ色に浮び上り、白目の眼光が光に映える渡り廊下の縦縞のブラインドと小さなシルエットの人物との対比、ねぶた以外はモノトーンでシンプルな色の画面構成が成功した。3年前夫婦でツアー参加したねぶた会館、真栄田さんはツアーのコースから少し外れ、渡り廊下を行き交う観光客のタイミングを見計らって撮影した中の一枚。

会員推挙おめでとうございます。

評－大城　信吉（会員）

修学旅行　（54×75）**仲宗根　直**（準会員）

残骸に戸惑う　（81×108）**山内　昌昭**（準会員）

佛　（96×117）**宮城　和成**（準会員）

祈りを込めて　(65×70) **平井　順光**(準会員)

ケイリンファンタジー　(73×103)
前田　貞夫(準会員)

海人の休日　(115×84)
池原　徳明(準会員)

貌(かお)　(80×150) **東　邦定**(準会員)

沖展賞

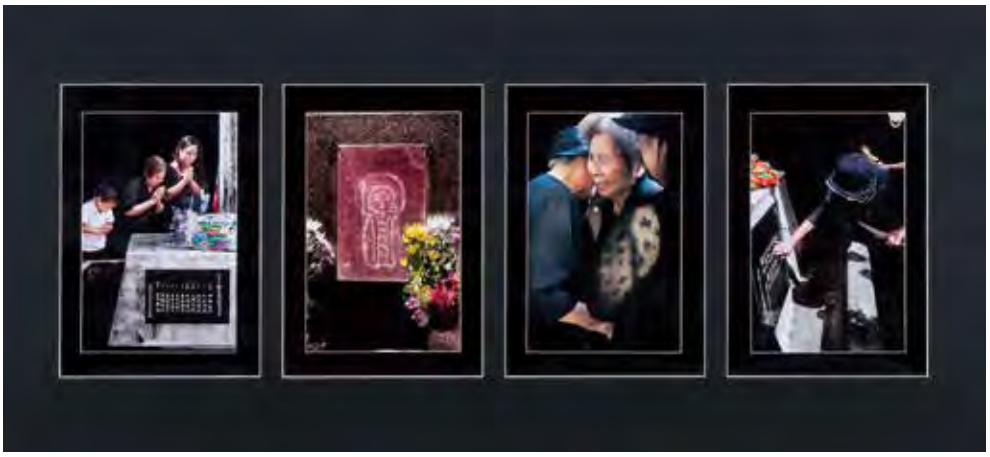
ほの明り　(85×113) **儀間　生子**

儀間さんは、京都、広島、愛媛で取材した写真を三枚の組写真で表現した。
格子窓から入る光の下の赤い和傘、朱塗り衝立の前の赤鼻緒の草履に射す光、少し俯きかげんに微笑む脹よかな京娘、三枚とも黒と赤と光の白でシンプルに構成し、絹目の用紙が光を和らげしっとり感を増幅させた。
違う場所で撮影した写真を探し出して組写真にするのは容易ではないと思いますが、常日頃から光を意識して撮影しプリントで確認していることと思います。また、各種公募展へのチャレンジ精神も今回の沖展賞に繋がったものと思います。

評－大城　信吉（会員）

奨励賞

宮森小・57 年目の夏　(74×158) **亀島　重男**



ミルク給食準備で騒めく教室、突然爆音が轟く、1959年6月30日、宮森小学校にジェット機が墜落。死者17名うち児童11名の大惨事となった事件です。作者は地域の写真クラブの活動の中でこの事件との接点が始まったようです。そして57年目の慰霊祭をおさめています。このようなテーマの作品で決定的に重要なシャドー部分が効果的に仕上がっていて、さらに碑に寄せる遺族の姿は、この上なくメッセージを鑑賞者に届けています。写真の持つ特徴のひとつ“メッセージ性”を捉えた点が最も高く評価できます。受賞おめでとうございます。ところで、写真家森口豁は言います「写真は時代を記録する『歴史の証言者』である。」と。人物の肌の色、写真枚数に一考を要する点はありますが、願わくば「歴史の証言者」的写真へのチャレンジを切に望みます。

評－島元　智（会員）

奨励賞

穏やかな一日　(83×113)
花城　雅孝

花城雅孝さんは昨年浦添市長賞、本年は奨励賞と連続受賞である。作品は路地に着目してスナップ撮影した4枚組写真。左上写真は、一匹の猫が道を横断しているゴキブリを狙い、他の猫は悠々と寝そべる。右上はおかみさんの両手ペット容器からチョロチョロ水の滴り、一方蛇口から勢いよく水が流れ出ているかに見える不思議な物との対比の妙。左下は、バイクでおでかけの若者、左部分の斜線状にあるのは影？ペイント？右部分の積み重ねられた箱は何？良く見ると不思議写真も多い。一見、個々にはどこにでもある光景、特に技巧を凝らすでもない平凡な写真、しかも背景もごちゃごちゃ感でいっぱい。然し、並べて見ると、気だるさ、のどかさが伝わる平和な風景である。作者はそれを「穏やかな一日」とした。作者は言う。「栄町市場には昔ながらのゆったりした時間を味あわせてくれる魅力があり、そこを光と影のバランスで作品とした」と。秀作である。次回も傑作を期待します。

評－渡久地　政修（会員）

奨励賞

水宝の輝き　(62×76)
中村　秀雄

翡翠（ひすい）の様な鮮やかな衣装を纏い、あまりの美しさから「飛ぶ宝石」と異名を持つカワセミが、水中から小魚をくわえて再び空中へ舞い上がった千載一遇の瞬間を望遠レンズで捉えた作品です。

淡いブルーの背景と勢い良く飛び出すカワセミから飛び散った「水宝の輝き」をジャストピントで撮った、作者の長年の経験に基づく技量の高さが感じられる珠玉の作品です。

おそらく、何度もこの場所に通い、失敗を重ねながら腕を磨かれたことでしょう。その努力の結果が作品の中に凝縮されています。願わくば、その体得された技術を鳥写真愛好家の後輩達に伝授して欲しいものです。

作品を間近で拝見すると、アンシャープマスクの掛け過ぎが少し気になります。アンシャープマスクは掛け過ぎないよう、常に確認しながらプリントして下さい。

中村さんの、更なる努力と今後の新しい作品に期待します。

評－吉直　新一郎（会員）

浦添市長賞

神人祈願(かみんちゅきがん)　(97×158)
國吉　健郎

國吉健郎さんは昨年沖展賞、今回は浦添市長賞と連続受賞となった。作品は、古宇利島のウンジャミを撮影した組写真。シラサ崎での神送りの儀式を神人（かみんちゅ）と祭具をいれて活写した。左写真は若い神人がお祓いの酒を撒いており、右は老年の神人が「くば扇」を手にして、穏やかな表情で事に処している様子。中央下写真のう酒、う香、白い紙に包まれたムーチーが神への捧げものである。仰角で撮った写真は、神人たちがニライカナイへ遥拝している様。空には白い雲が流れている。しまんちゅの願いを聞き、ニライカナイの神へしっかり届けます、と言っているのだろうか。ストーリー性も秘めた写真である。作者は「神人達が年々高齢化して少なくなっていく中で、今後とも伝統のウンジャミが続き継承されることを希望します」と言う。数年通い続けて撮った作品の入賞である。これからも沖縄の伝統行事を記録し、作品づくりとしても撮り続けてもらいたい。次回作品も期待します。

評－渡久地　政修（会員）

うるま市長賞

炎える朝　(90×141)
喜名　朝駿

作者は競馬場の朝のトレーニング風景を狙うために、暗い夜明け前から時を待ち氷点下の寒さの中に始まろうとする劇的な様子をとらえ、日の出とともに馬の体から出る湯気が太陽の光と、煌煌と炎んばかりの輝きをフレーミング、逆光のコントラストを活かし、光の陰影の色を一瞬の出会い、構図を決め捕えた良い写真です。
炎えている奥になにが見えてきますか、想像し楽しいです。
馬の口からも息を出し、トレーニングの厳しさがつたわり感動します。
喜名朝駿さんは写真歴の長い方で奨励賞を射止めた方です。
来年は大きな賞を狙って下さい。

評－翁長　達夫（会員）

沖縄教育出版賞

鉄工　(60.5×54.5)
比嘉　尚哉

自宅近くの鉄工所で働く職人さんを3枚の組写真で表現した、実に味深い作品です。
組写真の基本である状況説明のカットがあり、本命の飛び散る溶接の火花を光跡で表現したカットは見る者を惹き付けます。右下の眼光鋭く見つめるカットからは、現場の張り詰めた緊張感がヒシヒシと伝わってきます。
応募票に、周辺を焼き込みしたと記載されています。おそらく、この作品を完成させるために相当数のレタッチ、プリントを繰り返したことでしょう。その努力の結果が作品から感じ取れます。
3枚の作品を合体させず白線で区切り、もっと大きいサイズのパネルに仕上げることにより、個々の作品の存在価値が更に活きて迫力ある作品になったと思います。
比嘉さんは、昨年の写真甲子園に知念高校チームとして出場し、見事準優勝を勝ち得たメンバーです。比嘉さんの写真に対する情熱と、これからの益々の活躍を期待します。

評－吉直　新一郎（会員）

工芸部門（陶芸）

総評ー山田　真萬（会員）

沖縄は今アジアでも注目されている場所かも知れない、私の住む読谷でも最近とみに外国人の姿を多く見かける。沖縄文化の魅力と個性についての海外からの取材も増え、工芸においては多種多様でそれぞれが個性的、しかし外から見るとこの場所で生れるものが大きな一つの個性として受け取られている。表現は様々でも発想の出どころは一つと見えるのか一度足元をしっかり見つめるのも必要な時に来ているのかも知れない。そんなことを考えながら審査会場に入った。

準会員賞の新垣寛さん、刷毛打ち大皿は力強く大らかで刷毛打ちの持つ魅力を引き出している。絵付け時の熱い思いをストレートに伝えることが出来たこと、勢い余って飛び散った細かい化粧等を処理するかしないか課題だが、これからの仕事が楽しみだ。沖展賞の当真裕爾さん、意表を突いた題材を作品化しているが、立体像を焼成という難しい問題を消化して完成までもってこれたのはしっかりとした技術を持った作者だと思う。沖縄は周囲に優れたシーサー等の作り手が多いのも背景にあるのかも知れない。その他の各受賞作品は作者の意図する形とタイトルが伝わって来る内容だった。他にも惜しくも選外になったが最後まで再審査の対象となった作品もあり残念ではあった。しかし無難にまとめるか、選外でも今持てる力を思いっきり出した作品に将来を楽しみに期待することもあるので、次回頑張ってもらいたい。

久々に当落を抜きにして展示会の厚みを感じさせる審査会だった。最後に会員推挙になった新垣寛さん、おめでとう。

会員作品

花生け――新垣　勲
青釉花器――新垣　修
龍巻酒器セット――新垣初子
窓絵花模様壷――大宮育雄
さわふじ文蓋壷――親川唐白
前傾立型獅子――小橋川　昇
黄釉嘉瓶――島　常信
焼締特大面獅子――島袋常栄
赤絵草文皿――島袋常秀
厨子甕――玉城　望
白土点打大皿――松田共司
鉄刷毛目上絵壷――山田真萬
オーエーシーサー――湧田　弘

準会員賞

刷毛打ち大皿――新垣　寛

準会員作品

焼締古酒甕――伊禮クニヲ
木の葉舞う――佐渡山正光
四耳壷――田里　博

沖展賞

風神　雷神――当真裕爾

奨励賞

辺野古――新垣　栄
希望の羽――山内徳光

浦添市長賞

黒彩厨子甕――石倉一人

うるま市長賞

コバルトブルーの海――比嘉正徳

沖縄教育出版賞

うちなんちゅ――山内なつみ

一般入選作品

三彩嘉瓶――赤嶺肇幸
龍巻壺――赤嶺肇幸
スウーヌ華（潮の華）――新垣安隆
傷む「器」――伊志嶺達雄
指描櫛描九寸組皿――井村詩帆
変形花器――伊良波幸繁
鉢――大城千秋
荒焼瓶――大城雅史
夜の海――荻野里志
呉須飴刷毛目大皿――小原高弘
仏具９点セット――我那覇　学
雲海――幸地良丈
追憶のノーマ・ジーン
(M.Monroe no return)――小森秋雄
静観　玉乗り――佐野壽雄
線彫七寸組鉢――下地葉子
氷の海――田附多喜
黒燿彩筒描稜壷――田中淳貴
按瓶――谷口室生
花器「サンゴの記憶」――玉木浩一郎
鉄釉壷――照屋敏雄
柿釉壺――渡嘉敷　勇
平和シーサー５――仲宗根寛昭
うーまくー――仲村渠哲夫
竜巻きランプ――比嘉真一
マンガン対シーサー――比嘉孝雄
シーサー――比嘉武夫
氷列釉壷――比嘉裕之
ターワカサー翔――前原常男
赤絵皿――町田智彦
花形大皿――松尾暢生
ランプシェード――嶺井律子
花三島変花器――宮國健二
黄釉大壺――宮里　賢
クチャ土　花入――安田淳夫
オーグスヤー嘉瓶――山城尚子
細象嵌練上大壺――吉村　明
琉球城焼唐草文甕②――与那嶺大輔
松風――綿　千里

特別展示

飴釉唐草紋壷――金城敏男

オーエーシーサー(H35×W44×D26)
湧田　弘(会員)

さわふじ文蓋壷(H42×W30×D30)
親川　唐白(会員)

窓絵花模様壷(H40×W36×D36)
大宮　育雄(会員)

白土点打大皿(H15×W62×D62)
松田　共司(会員)

赤絵草文皿(H10.8×W53×D53)
島袋　常秀(会員)

青釉花器(H33×W35×D3)
新垣　修(会員)

厨子甕(H34×W22×D22)　**玉城　望**(会員)

前傾立型獅子(H40×W40×D28)　**小橋川　昇**(会員)

龍巻酒器セット　チューカー(H18×W20×D20)　**新垣　初子**(会員)
ぐいのみ(H5×W5×D3)

花生け(H41×W11×D15)　**新垣　勲**(会員)

鉄刷毛目上絵壷(H39×W36.5×D36.5)
山田　真萬(会員)

黄釉嘉瓶(H36×W18×D18) **島　常信**(会員)

焼締特大面獅子(H50×W45×D45) **島袋　常栄**(会員)

準会員賞

刷毛打ち大皿　（H13×W55×D55）**新垣　寛**（準会員）

大皿の鑑賞に際しては、何よりも形状の可否が先決となります。この大皿はロクロ挽きが奔放で力強い、腰まわりがしっかりしているため、見込みから底辺、底辺から縁の返しの造りが確かで、バランスがとれている。格調の高い仕上がりになっています。

素地に掛けた透明釉が、ほんのりと赤茶にこげた土肌に釉色の配置を決め、呉須や飴釉、緑釉の風合いをいかしながら刷毛で激しく連打したタッチが、大皿と同調して躍動的に見えます。全体的に暖かな雰囲気を持った作品になっていると思います。

評－島　常信（会員）

木の葉舞う（H47×W38×D38）**佐渡山　正光**（準会員）

焼締古酒甕　（H85×W33×D33）
伊禮　クニヲ（準会員）

四耳壷　（H42×W38×D38）**田里　博**（準会員）

沖展賞

風神　雷神　　右（H76×W53×D50）
左（H76×W45×D40）**当真　裕爾**

当真裕爾さん沖展賞受賞おめでとうございます。
当真さんは2008年浦添市長賞を受賞しており、今回の沖展賞で二度目の受賞である。
今回の受賞作品「風神雷神」は大きさといい、技術的にも複雑な変化の多い作品で、頭の傾きや、髪の流れ、ヒゲのつけ方、又、手足の動き、胴体の捻りぐあい等、異なった姿の「風神雷神」となっている。風袋や輪形の太鼓を担いでいる背中や、腕、胸、足等の筋肉のつけかたや、張りぐあい、関節の曲げ延ばし、血管や、筋の細い部分まで工夫され、雲は今にも流れだしそうな動きがあり、変化にとんだ仕上がりとなっている。焼き色の陶土の使い方もいろいろ工夫され、複雑な動きをした作品だけあり、高い技術を駆使し、握力のある攻めの姿勢、守りの姿勢が一対になって、全体のバランスのとれた躍動感や存在感のある「風神雷神」の作品と思います。
次回も力強い作品を期待します。

評－湧田　弘（会員）

奨励賞

辺野古　（H60×W56×D10）
新垣　栄

新垣栄さんは長年、オブジェのスタイルで出品を続け、その表現には存在感がある。
今回の作品は逆台形の切り立った形が大きな障壁を感じさせながらも、中央部の円の中に開けた風穴が平和な世界を広げていく突破口をイメージさせ、作者の意図が明確に伝わってくる。
オブジェは主張をいかに明確に表現するかが大切だが、今回の「辺野古」は辺野古の現状と作者の思いが、見る側にひしひしと伝わってくる。伝統の壷屋の中で、オブジェという一環した独自の表現スタイルは、その創作意欲も評価したい。
来年は準会員だが、益々その表現で新風を巻き起こしてほしい。

評－新垣　初子（会員）

奨励賞

希望の羽　（H10.5×W57×D57）
山内　徳光

奨励賞初受賞おめでとう。受賞作品は「希望の羽」とタイトルがついた大皿である。素地は県産の赤土と信楽白土との混合粘土である。57cm の大皿ながらロクロ成形がしっかりしており、技術の高さが伺える。皿の内と外にいわゆるスリップ技法によるデザインが施されている。スリップとは一種の色化粧土による装飾技法で、中国陶磁器におけるその原始的起源はかなり古いが、スリップウェアの呼称はイギリスにおいて定着したものである。県内ではあまり見ない技法である。昨年より山内君の同輩の新垣安隆が盛んにやりだしたことに刺激を受け、競うように研究した結果今回の受賞につながったのであろう。
山内君は陶芸歴20数年になるベテランであるが、今まで受賞の機会に恵まれなかったのにはそれなりの理由があろう。この作品についてもスリップの羽根の使い方やデザインにまだ甘さが散見されるが、今後とも自身に妥協することなく常に高みを目指して精進を重ねて欲しいものである。

評－親川　唐白（会員）

浦添市長賞

黒彩厨子甕　（H65×W35×D31）
石倉　一人

浦添市長賞受賞おめでとうございます。作者はこれまでも受賞歴があり、轆轤（ろくろ）の技術もさることながら今回は沖縄の民間信仰の中に深く根づいた厨子甕を出品、受賞した。全体的に加飾の技術も申し分なく、蓋と身もバランスが良く仕上がっている。更なる向上を期待したい。

評－小橋川　昇（会員）

うるま市長賞

コバルトブルーの海
（H12×W51×D51）
比嘉　正徳

比嘉正徳さんの受賞作品は、ペルシャブルー釉とルリ釉を、縞柄模様に施釉した大皿である。
まず形についてであるが、轆轤（ろくろ）成形は大物になればなる程その技量が必要となる。この作品はその大きさに見合う形をそなえている。
そこにペルシャブルー釉とルリ釉が、ゆったりとした波形に施されている。その二種の釉薬の発色は美しく、縞柄の模様とも調和し合い、さわやかで落ち着いた印象を与える作品となっている。
今後の更なる創作活動への傾注を期待します。

評－大宮　育雄（会員）

沖縄教育出版賞

うちなんちゅ　(H14×W54×D54)
山内　なつみ

沖縄教育出版賞受賞おめでとうございます。
山内なつみさんは現在沖縄県立芸術大学 陶芸コース4年次、卒展に向けて更に邁進中である。
彼女は作品「うちなんちゅ」の作製にあたり、学生の本分を生かし、陶芸に対し情熱を燃やして自分の実力の限界に挑んだことだろう。形や技法、釉薬においても作品としては完璧なものではないが、若さと力強さが伝わって来る作品である。可能性があり期待できる若者である。これを励みにさらに頑張って欲しいと思います。

評－松田　共司（会員）

工芸部門（漆芸）

総評ー前田　貴子（会員）

来年の70回記念展に向けて勢いをつけたい今年の沖展でしたが、漆芸部門は一般公募が7人10点の出品で、さらに準会員の出品が無いという残念な結果でした。作品の方も造形面での見劣りや、技術不足が目立ち、全体を通して力不足が感じられました。

その中で沖展賞に輝いた宇野里依子さんの作品“はなめく”は、創作面や技術面、作品制作の意欲、姿勢が強く感じられ暖かみのある作品で会員一同賞賛の沖展賞でした。特に創作面では、一般の方は大いに参考にしてもらいたいです。

準会員はより厳しい審査になるので、それが出品へのブレーキになっている事もあると思いますが、それを乗り越えて来年はより良い作品を期待しています。

人を魅了する作品には、制作者の考えや創造、想いが込められています。自分は何を作り、何を伝えたいか？どんな技法で表現するか？と考えることが必要です。もちろん沖展にふさわしい作品や大きさというのもあります。作品にきちんと向き合って制作していく事をより大事にしてほしいと思います。

漆芸は多くの難な技術を要する工程を経て完成するものですが、その技法は多彩で、表現方法にも幅があります。その為、より自分の想いを反映できる分野でもあります。制作していても、何度も何とも言えないワクワク感と充実感があります。そういった漆芸の世界へ、より多くの人が関心を持ち、沖展への出品へチャレンジしてくる事を会員一同期待しています。

会員作品

梯梧造髹漆盤――― 糸　数　政　次
箔蒔絵丸盆――― 大見謝　恒　雄
伊集花丸重――― 金　城　唯　喜
東道盆堆錦山水唐草――― 後　間　義　雄
黒呂色螺鈿盛器「せせらぎ」― 前　田　國　男
盛鉢――― 前　田　孝　允
燦然の欠片――― 前　田　貴　子
丸東道盆螺鈿蒔絵（満開桜）― 松　田　　勲

沖展賞

はなめく――― 宇　野　里依子

奨励賞

螺鈿模様飾盆
「ニライカナイから」――― 親　泊　英　利

浦添市長賞

乾漆石目塗り琉球泡盛
古酒入ゆしびん２点セット― 津　波　静　子

うるま市長賞

菓子器――― 與那嶺　勝　正

一般入選作品

欅拭漆木目沈金
コーヒーカップ――― 大　城　清　善
欅木目沈金ぐいのみ――― 大　城　清　善
蒔絵螺鈿万華鏡（３対）― 喜　瀬　リ　サ
鳳凰螺鈿菓子鉢――― 喜　瀬　リ　サ
水たま――― 仲　村　直　美
花器――― 與那嶺　勝　正

伊集花丸重　(H14.5×W18×D18) **金城　唯喜**（会員）

丸東道盆螺鈿蒔絵（満開桜）　(H26×W46×D46)
松田　勲（会員）

沖展賞

はなめく　（H10×W10×D30）宇野　里依子

沖展賞連続おめでとう。今回宇野さんの作品は乾漆技法である。乾漆技法とは漆と麻布を何度も塗り重ねて長い時間をかけて作る技法である。
「はなめく」の外面は、琉球朱塗の特徴を生かした朱漆塗面で、良い仕上げである。合口曲線もていねいに仕事され、好評でありました。フタを閉めた時に内側の螺鈿模様に注目しました。内側は夜光貝、あわび貝、黒蝶貝を切貝にして曲線上に張付けた総模様になっており、研出仕上げで良い仕事と好評でした。連続沖展賞、来年からは準会員になりますので益々の精進を期待しています。

評－松田　勲（会員）

奨励賞

螺鈿模様飾盆「ニライカナイから」
(H5×W40×D40)
親泊　英利

「ニライカナイ」は、王朝時代から続く思想である。五穀豊穣や、幸をもたらすことで、例えば、大宜味村塩屋の行事は、多くの人が知っているはず。この作品は中央に大きく羽撃く、猛鳥が、夜光貝で表現されている。漆芸の技法は、塗りっぱなしの技法と、多くの工程と多くの時間が必要とする呂色研ぎ出しである。この作品は後者の呂色研ぎ出しである。下方の波はモダンなデザインで、左上に小さな島が見えるが、そこにニライカナイの神が下りた島である。彼は、代々サシンの漆塗りの家で育ち、自分も漆に身をおいているようだ。ボディにバガスを使った盆で、バガスとは砂糖黍のしぼりかすを樹脂で固めたもので沖縄にしかない。バガスを使ったのは沖縄人であることを自慢出来る。盆の縁に波文の唐草をまわし、盆をひきしめている。
　優品で次回も楽しみにしている。

評－前田　孝允（会員）

浦添市長賞

乾漆石目塗り琉球泡盛古酒入ゆしびん
２点セット　(大 H41×W18×D12)
(小 H28×W15×D10)
津波　靜子

作品は、素地制作をゆしびん型の原型を作成し、型に麻布、寒冷紗などを糊漆で貼り重ね、下地工程を行い乾燥後、脱乾し素地を制作する乾漆技術で行われている。塗の仕上げは、変り塗り技法による石目塗りとしている。石目塗りは、漆を塗った表面に炭粉や乾漆粉などを蒔き、石の肌目のような凸凹をもたせる技法である。乾漆粉は、色漆をガラス面に塗布し、乾燥後、剥がした塗膜を粒状にして、ふるい分けて加飾材料にしたものである。乾漆粉の粒子も一定で均一に蒔かれ、肌目も良く技術的には、完成度の高い仕上がりとなっている。しかし、乾漆技術の特徴である、挽物や指物で形作れない微妙な曲面が表現できるところが活かされていないのが残念である。陶芸の作品でよく見る造形ではなく、津波さんオリジナルな琉球泡盛古酒入れの乾漆ゆしびんを制作してほしいと願う。
　浦添市長賞、受賞おめでとう。次回は、沖展賞受賞できるように頑張って下さい。

評－糸数　政次（会員）

うるま市長賞

菓子器　(H8×W25×D15)
與那嶺　勝正

うるま市長賞受賞おめでとう御座います。

梯梧と同様沖縄では、数少ない落葉樹である。枝を横に広げ日影を、齎す樹木として、墓庭公園、街路樹として広く目にするモモタマナ「方言名クワディサー、別名ンマーギー」を菓子器素材とした、薄い漆の拭漆作品です。塗膜を形成する技法。

杢目潰し、目止め作業、生漆摺り拭き研磨工程を数多く重ね、艶光沢を出すのが、特徴であり、化学塗料では表現できない漆の特性を使った素材杢目を生す制作技法です。作品審査時に漆工芸否木工芸かで意見が分かれており今後の課題です。私的ではありますが漆工芸漆器とする時、髹漆工程又は螺鈿、堆錦、漆絵、箔絵等加飾を部分的、あるいは一部施す事も重要だと思っております。

今後さらなる、漆芸漆器作品として出品受賞をめざす為にも一考を願いたいものであります。

デザイン造形拭漆木地呂色の良い作品を期待しております。

評－大見謝　恒雄（会員）

工芸部門（染色）

総評ー外間　修（会員）

第69回沖展工芸（染色）部門の作品審査は、会員6名による丁寧な講評を行いながら入選、選外、入賞作品を決定する手順で進行しました。例年通りに進行は私が務めて、染色部門最年長の城間栄順先生を中心に各会員が各々の意見を述べ合いながら着物、着尺、帯地、タペストリー及びパネル作品の順で1点1点を細かく染色作品として良い所や残念な点等を議論しながら見ていく方法を取りました。

今回の出展作品を見ると技術的な問題が有って落選する作品は殆どなく、型彫りや型置きの技術も良く出来ている作品が集まりました。しかし、毎年難しい所は極稀に染物として、又は伝統工芸として我々の審査の対象から外れる作品が出展される事があります。染色部門ではそれらを対象外として返却していますが、作品自体は表現としていけないという意味合いではなく、部門を改めて出品してもらう主旨で行っています。ご理解いただければと思います。

一般応募作品の出展内容は着物が3点、着尺が1点、帯地が4点、タペストリー 3点、パネル1点となっています。これらの入選作品の中から各賞候補を選び改めて受賞作品を決定します。その後に準会員の作品を審査して準会員賞を決定しました。今回奨励賞の宮城友紀さんは前回の浦添市長賞に続き2回目の受賞になりました。浦添市長賞の平良幸子さんは初出品での受賞となり、うるま市長賞の知念冬馬さんは2度目の出品での受賞となりました。準会員賞の迎里勝さんは今回初の受賞になります。細かい作品内容についての評は染色部門の会員が図録中にて書いていますので、ここでは控えさせていただくのですが受賞された方々及び入選の方々も含めて継続して出品を頑張っていただきたく思います。

最後になりましたが入選者、入賞者の皆さんおめでとうございます。来年は第70回の記念展となります。次回の出品作も今回以上のすばらしい作品を期待しています。

会員作品

琉球紅入藍型「願いの短冊」― 城　間　栄　市
琉球藍染帯「魚繋ぎ紋様」― 城　間　栄　順
紅型帯地「舞」――― 仲　松　　格
紅型帯「格子ざくろ」―― 外　間　　修
紅型帯「かたばみに
きつねのぼたん」――― 外　間　裕　子
藍型着物
「ふくふくシークヮーサー」― 宮　城　守　男

準会員賞

紅型着物「さこだうーる」― 迎　里　　勝

奨励賞

紅型着物「蜂花百景」―― 宮　城　友　紀

浦添市長賞

紅型帯「mine.」――― 平　良　幸　子

うるま市長賞

紅型帯「豊漁」――― 知　念　冬　馬

一般入選作品

紅型帯「琉彩華」――― 新　川　雅　俊
紅型着物「琉雅」――― 新　川　雅　俊
パネル「島満開」――― 池　間　真裕子
タペストリー「翔る」―― 田　中　紀　子
タペストリー「光彩」―― 當　山　雄　二
紅型着尺「潮風」――― 永　吉　剛　大
紅型帯「flower magic」― 浜　元　ゆかり
タペストリー
「ざわわ・・・ざわわ・・・」― 真境名　照　子
紅型訪問着
「ホウオウボクの樹の下で」―― 松　本　純　子

紅型帯「かたばみにきつねのぼたん」(500×35)
外間　裕子（会員）

紅型帯地「舞」(510×33)
仲松　格（会員）

藍型着物「ふくふくシークヮーサー」(175×140)
宮城　守男（会員）

準会員賞

紅型着物「さこだうーる」（176×140）
迎里　勝（準会員）

準会員賞、受賞おめでとうございます。
石垣島、さこだ浜の珊瑚礁の様子を流れる様な線のリズムで水辺の小さな生き物達の様子を自分なりに紅型の彩色を使ってうまく描かれ表現できていると思います。ふせ糊をして引き染めもしており、じっくりと時間をかけて制作する姿勢に関心がもたれます。奨励賞を4回も受賞した実績も素晴らしく、これからの活躍を応援しています。

評－外間　裕子（会員）

奨励賞

紅型着物「蜂花百景」（170×140）　**宮城　友紀**

前回の浦添市長賞に続き、着物での奨励賞受賞は大変素晴らしく思います。今回も身近な動植物をよく観察し、うまくまとめられた創作柄で、型・染ともに安定した作品になっています。背中心・わき縫い・おくみ付け等課題だった模様の繋がりがうまく出来ていて作者の努力が伺われます。

ただ全体的に模様をもう少し小さくする事で、より良い小紋の着物になると思いました。

次回の創作作品を期待しております。

評－仲松　格（会員）

浦添市長賞

紅型帯「mine.」（530×35）　**平良　幸子**

浦添市長賞おめでとうございます。

配色の鮮やかさと後差しの淡い色使いが高く評価された作品でした。柄のつなぎや隈取などもしっかりと丁寧に仕上げています。

これからも身近な題材をデザイン化し、紅型に活かすということを楽しみながら作品を作っていってください。

評－城間　栄市（会員）

うるま市長賞

紅型帯「豊漁」（510×35）　**知念　冬馬**

うるま市長賞おめでとうございます。
細い線や小さなあられを潰さずきれいに染めるのは難しいことですが、型彫りから地染めまで、全体的に安定した技術と、丁寧な仕事が評価されました。
図案はシンプルながらも、よく考えられた配色により、単調さを感じさせず、作者の努力がうかがえます。とくに背景を青の濃淡で染め分けたことが作品の完成度を高めました。
ただ、「豊漁」というには少しさみしい気がしました。もう少しモチーフを増やすと、より楽しく表情豊かな作品になると思います。
次回作も楽しみにしています。

評－宮城　守男（会員）

工芸部門（織物）

総評ー仲宗根　みちこ（会員）

織物一般応募20点のうち、入選・入賞19点、選外1点、学生応募はなかった。昨年より6点の増である。準会員賞1点、奨励賞3点、浦添市長賞・うるま市長賞が各1点ずつ選出された。準会員賞『蒼海』は前年、前々年の沖展賞に続き3年連続の快挙であり、計算された図柄の中に作者の豊かな感性を思わせる作品に仕上がっている。準会員7名中2名の出品は低調であるが、今回若手準会員受賞者は次世代を担う織物業界の星とも言えよう。更なる活躍を期待したい。

応募作品は丁寧に畳まれ、しわのつかぬよう配慮され送られて来る。制作者の作品に対する真摯な姿勢と愛情が感じられ、審査する側も気持ちが良い。今回選外になった作品は創作性に欠け、作品に対する配慮が感じられず大変残念な結果となった。布は数百本の経糸で形成され、1本の緯糸の積み重ねで布となる。時折人生に比喩されるが、織り手の人間性を映し出す鏡のような気がしてならない。

私事で恐縮であるが、応募する側から審査する立場になり今回2回目の審査である。各産地の素材に出会うのは、緊張感の中にあっても楽しい時間だ。奨励賞の3作品は芭蕉布・苧麻・久米島養蚕糸を使用し、三者三様の手技の美が光る作品に仕上がっている。

今回受賞に至らなかったものの、1937年頃生産が途絶えたとされる小禄（うるく）クンジーの出品もあり、沖縄織物の多様性を感じる審査であった。来年70回記念展となる沖展には、更なる多くの出品を期待したい。

会員作品

八重山上布絽織着尺――新垣幸子
八重山上布帯地「ツワブキ」―糸数江美子
琉球絣 藍染 ツタキー十字20玉―大城一夫
首里花織「満天」――祝嶺恭子
宮古上布着尺「宙」――新里玲子
芭蕉布　御殿柄琉装着物―平良敏子
花倉織帯地「白露」――多和田淑子
何時かの道――仲宗根みちこ
絣に花織――長嶺亨子
絣織着尺「律」――真栄城興茂
オーシャン2017――ルバース・ミヤヒラ吟子
花織着物「成長の祝い着」―和宇慶むつみ

準会員賞

蒼海――島袋知佳子

準会員作品

読谷山花織――新垣隆

奨励賞

八重山上布六通帯地
「うるずんぬ波」――崎原克友
芭蕉布着尺地
「トーニービーマー変りサイの目」―平良京子
久米島紬　十字絣５玉――桃原禎子

浦添市長賞

手花花織――玉城恵

うるま市長賞

紫陽花――野里愛子

一般入選作品

久米島紬　十字井絣３玉―新垣勝秀
手花織り――上原初子
小禄クンジー着尺「花」――上原八重子
首里花倉織着物「クローバー」―運天裕子
経浮絣織物――澤村佳世
首里道屯織九寸帯地
「綾波」――平良玲子
暮色の花――髙良智子
久米島紬――玉城英子
スミレグサ――眞喜志由香
花倉織ウッチャキー「たゆたう」-能勢玲子
一歩、一歩、円満――花城美香
ぶたぶた――普久原裕子
仮仕立 絵羽着物「淡雪栴檀」―古屋英子
唐草模様暖簾――宮良千加

琉球絣　藍染　ツタキー十字 20 玉（185×170）
大城　一夫（会員）

芭蕉布　御殿柄琉装着物（160×150）
平良　敏子（会員）

オーシャン 2017（1360×38）
ルバース・ミヤヒラ吟子（会員）

読谷山花織　（170×170）**新垣　隆**（準会員）

準会員賞

蒼海　（185×146）**島袋　知佳子**（準会員）

紺碧の海に打ち寄せる白波をイメージさせる裾模様の絵羽着物「蒼海」は、裾の淡いブルーから紺にいたるグラデーションが美しく、裾の経ずらし技法によるビーマ模様は、二本そろえの太い線と一本で引きずらした細い線が交互にからみあい呼応し、リズミカルな中にも静寂さを感じさせ、模様構成の巧みさが際だっている。ただ袖の色変りの効果は弱く、帯下など胴部分にも縞や絣のデザインが入ると、もっと華やかで美しさが一段と増すのではないかと思う。緯糸の細く均一に績まれた苧麻は清涼感を感じさせ、又植物繊維のもつ不揃いが平面的になりがちな無地部分に味わいのある変化を生じさせて独特な表情をみせている。これまでに培った技量で丁寧に織られており、作品の凛とした雰囲気が作者の人柄をも感じさせ魅力的である。

これからの活躍を期待したい。

評－多和田　淑子（会員）

奨励賞

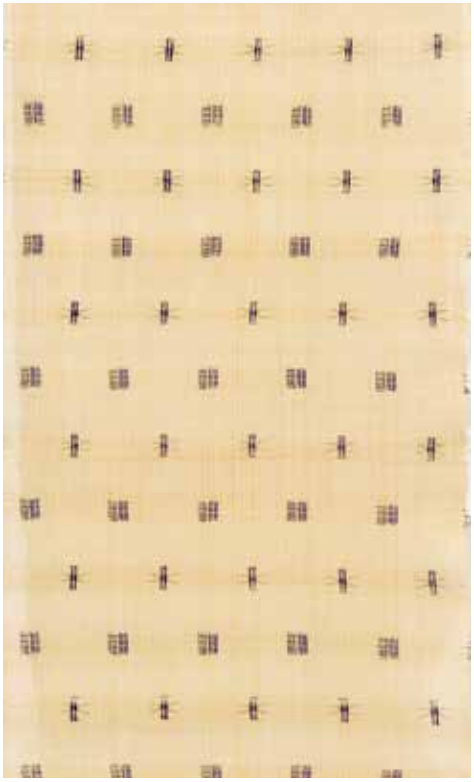
八重山上布六通帯地「うるずんぬ波」（530×36）
崎原　克友

奨励賞受賞おめでとう。経糸は苧麻を使い地括り技法で染色、括りを丁寧に地色うつりもなくくり返し、黄、緑、藍の経絣ずらし、絣の重なりの工夫でグラデーションの効果が出ている。緯糸は細い苧麻手績に縒がかかっており黄染めの経、緯絣が重なる事で全体を引き締めている。デザイン、染色、織りと確かな技量で沖縄の初夏「うるずん」が感じられる作品になっている。
今後さらに精進し良い作品を大いに期待している。

評－糸数　江美子（会員）

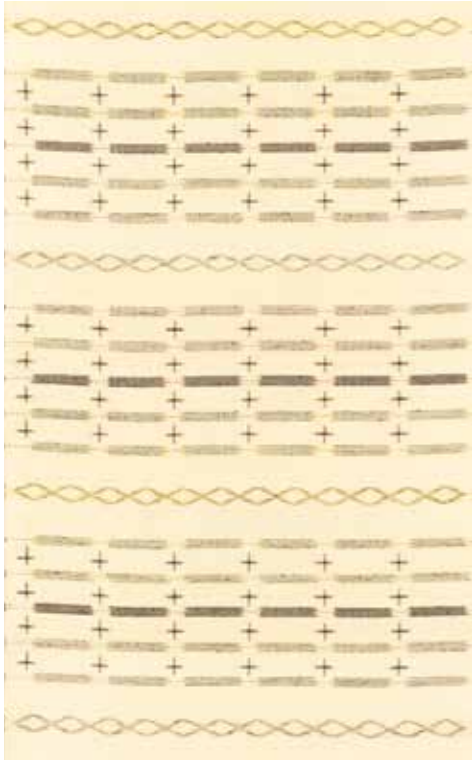
奨励賞

芭蕉布着尺地
「トーニービーマー変りサイの目」（1250×37）
平良　京子



この作品は今回の一般応募作品の中で一番評価が高かった。
作者の平良京子さんは沖展には初出品であるが、長年、芭蕉布の作品制作に取り組み、糸作りから染色、織りまでの全工程を一貫して作者自身で行っており、その力量は申し分のない方である。今回の受賞作は上質な芭蕉糸を数年かけて揃え、手間がかかり高い技術力を要する地括りでの絣糸を琉球藍で染め、丁寧に織りあげている。
絣柄のトーニービーマは清々しく、ヤシラミを思わせるサイの目の絣は良くデザインされていて全体を引き締めている。
このように確かな技術で素材を活かした作品を目の前にすると、あらためて工芸の美を思う。大変な労力の要る制作工程と承知しているが、次回の作品も期待したい。

評－真栄城　興茂（会員）



奨励賞

久米島紬　十字絣５玉　（1280×38.5）
桃原　禎子

早春のやわらかな日差しに映える乳白色の地色、久米島百年ソテツからうまれた色だときく。
シンプルな緯絣のみの文様ですが、かすかな陰影の絣足が表情を豊かにし、リズミカルな躍動感を奏かせる。
久米島産手紬き糸によるぬくもりを感じさせる独特の風合いの織物だ。素材作りから取り組む作者のエネルギーが伝わる作品です。

評－新里　玲子（会員）

浦添市長賞

手花花織　（500×36）**玉城　恵**

初出品での浦添市長賞、受賞おめでとう。細い線の地に手花織を中心に色合いよく丁寧に織られている。
大小のダイヤ型で総められた作品は作者の意気込みを感じる。
上下の横段の花織を含め、デザイン構成は帯を締めた時のことを考慮した方が良い。
次回は更に意欲的な作品を期待している。頑張ってほしい。

評－長嶺　亨子（会員）

うるま市長賞

紫陽花　（520×36）
野里　愛子

総ロートン織帯地の応募が珍しい事、そして大胆な市松模様が目を引く作品です。
経縞の多色使いは、寒色系・暖色系それぞれすっきりと配置されており、製織も大変丁寧で、“経浮き織”の特徴を上手くいかした美しい作品です。

評－和宇慶　むつみ（会員）

工芸部門（ガラス）

総評ー池宮城　善郎（会員）

今年のガラス部門は、出品者、出品数ともに前年を割り込んでおり、今後の出展増に向けての課題を抱えた中での審査開始となった。作品全体としては例年同様、質の高さ、技術の向上等、各作品それぞれに工夫が凝らしており、作者のもの作りに対する強い意欲が感じ取れる作品群であった。厳正な審査の結果、準会員賞、沖展賞ともに該当作は出なかったが、奨励賞に森上真さんのVOYAGER ～ GRAN BLUE ～、友利龍さんの光彩、野原智さんの皿セット、そして浦添市長賞に加藤周作さんの祝花、うるま市長賞に當山みどりさんの月夜のさがりばなが選出された。個々の評は各審査員の評に委ねるとして省略する。

総評として特記すべきは、独自の技法を駆使した秀作が多々あったのに対し、出展者の減少も懸念材料として残った点であろう。現在、個人工房が数多くあり、作品を作るにあたっては、設備や時間、あるいは環境等、厳しい条件下にある事は十分に理解できるが、過去に秀でた作品を出展してきた作家が埋もれてしまうのも寂しい限りである。

琉球ガラス業界の全体の発展の為には、品質の向上、技術の向上は常に追求すべき事であり、その為にもガラス工芸の身近な登竜門としての沖展に多くの作り手がチャレンジする事を切に望みたい。

最後に来年は第70回展という節目の沖展でもあります。今回出展された方々はもとより、次回は新人からベテランまで、より多くの意欲作が出てくる事を期待します。

会員作品

花灯かり――池宮城　善　郎
オーロラ花器――稲　嶺　盛一郎
土紋サンゴ足大皿――稲　嶺　盛　吉
紅サンゴ壷花器――稲　嶺　盛　吉
無題――大　城　尚　也

準会員作品

うみゆらぎ――比　嘉　裕　一

奨励賞

光彩――友　利　　龍
皿セット――野　原　　智
VOYAGER ～ GRAN BLUE ～
ボイジャー ～グランブルー～――森　上　　真

浦添市長賞

祝花――加　藤　周　作

うるま市長賞

月夜のさがりばな――當　山　みどり

一般入選作品

黙想の種
Seeds of contemplation（2個セット）――上　地　律　子
琉球花美皿セット――大　城　尚　之
中空鉢セット――兼　次　直　樹
一番櫻ボウルセット――柴　田　尚　実
twist square――島　津　幸　子
大和のゆはアメリカゆ！？――砂　川　泰　典
線巻き皿セット――玉　城　　晃
夏の終わりに――知　花　　信
桜舞水差しセット――中　野　幸　治
龍宮への憧憬（守）――野　村　伸　春
瑞泉の風織り――比　嘉　奈津子
春ノ波――宮　城　辰　喜
波の息吹――宮　城　友　紀
香水瓶　Recycle 「花」――村　石　信　茂

紅サンゴ壷花器　(H26×W29×D26)
稲嶺　盛吉（会員）

無題　(H50×W22×D22)
大城　尚也（会員）

花灯かり　(H80×W35×D35)
池宮城　善郎（会員）

オーロラ花器　(H23×W16×D12)**稲嶺　盛一郎**(会員)

うみゆらぎ　(H25×W71×D16)**比嘉　裕一**(準会員)

奨励賞

皿セット　（大 H4×W38.5×D38.5）（小 H3×W18×D18）
野原　智

野原智さんの作品「皿セット」は、器の表現がとても良く、器の使いやすさも評価された。
又、器全体にモールを入れる事で器の気品を高め、モールの隙間からこぼれる輝きが器の存在感を感じさせた。
器の一番大事な顔の部分にカレットのガラスを溶け込ます事で、食事を楽しんだ後に器で楽しむ事が出来る作品に仕上がっている。
次回の作品を楽しみにしています。

評－稲嶺　盛一郎（会員）

奨励賞

VOYAGER ～ GRAN BLUE ～ ボイジャー ～グランブルー～
（H28×W60×D23）**森上　真**

森上真君、奨励賞おめでとうございます。今回の作品の精度の高さには、魅了されました。しかし、台座の方にマイナス点があるのではとの事でしたが、数日後、作者本人から作品に対する思いを、聞く事が出来ました。
そこで一見では、わからなかった台座に込められた思いを知りました。
文章等で、作品に対する思いを審査する側に伝えられる形があれば、更に上の賞を得られたかと思います。今後の作品づくりに期待しております。
又、作者の制作に込められた思いが、付け加えられる方法があれば、審査員にも今まで以上に伝わり、より良いかと思います。

評－大城　尚也（会員）

奨励賞

光彩　（H30×W38.5×D9）
友利　龍

受賞作「光彩」は、今回の作品の中でも重厚な形と大らかな表現でとても存在感があった。
一見重たそうな形だが、手に取ってみると程良く、重くも無く、さらに程良い深さが「水盤」花器として安心感を与える作品に仕上がっている。
造形の面でラインをゆるやかにするのは難しい技法である。その技法を用いて出品した事は、作品に対する意欲がとても感じられるものとなった。
2013年浦添市長賞、2014年うるま市長賞、そして今回の奨励賞と年々力を付けている作家の一人である。
次回の意欲ある力強い作品を楽しみにしています。

評－稲嶺　盛一郎（会員）

浦添市長賞

祝花　（大 H6.5×W25×D25）（小 H3.5×W13×D13）
加藤　周作

加藤周作さんは前年に応募して入選、今回は2度目の挑戦での受賞である。作品のタイトルは「祝花」で大鉢と小鉢のセットである。吹きガラスによる製法で見込みには着せガラスで文様を描いたさわやかな作品である。
欲をいえば大鉢はもうひと回り大きく作ることでセット物としてのバランスが一段と良くなる。また、使う側からは見込みの花模様の赤が少しきつすぎる。もっと色をおさえるか、別の色に変えるかひと工夫すると更に良い作品になる。次回のチャレンジに期待する。

評－宮城　篤正（会員）

うるま市長賞

月夜のさがりばな
ネックレス（大）50㎝
ネックレス（小）46㎝
金具のブレスレット 17㎝　他
當山　みどり

　當山みどりさん、前回の浦添市長賞に引き続きうるま市長賞おめでとうございます。
　今回の作品について、月夜のさがりばなは、きれいな青の中に花模様がとてもすてきでした。
　今後も技術を進歩させて、次は上の賞を目指し精進してください。来年もさらによい作品を期待しています。

評－稲嶺　盛吉（会員）

工芸部門（木工芸）

総評ー戸眞伊　擴（会員）

木工芸部創設8年目の今回は、応募者数が年々減少している中ではあったが、応募者の技術レベルが向上している感がうかがえた。よって全作品が入選・入賞に選ばれた。

今回の応募者数は7名で、作品のレベルは確かな物が出品されている。それは木工芸に対する応募者全体の意識が向上しているものと思われ、大変うれしく思う。

しかし、今回の応募作品で指物的作品の中に少々精密さにかける所がうかがえる作品がみられた。例えば、指物技術師が常に心がけている作品の仕上げ作業へのこだわりである。引出し物を作る時は、引出しを出したり引いたりするため、特に空気の気圧を感じさせる様に物を作るという事に気をつけて物作りをする。これは箱物にも同じく言える事で、指物技術に対する「こだわり」だ。ただ、作品制作で大切なことは、思いのまま思いを込めた作品作りを心がけることであり、前述した「こだわり」に大きくとらわれることなく、今後も多くの皆様が木工芸に参加する事を望みたい。

さらに、造形にばかり意識をとがらせるのではなく、あくまでも自然体で木と立ち向かい、それに技を入れ、その技と木の良さを最大的にアピールし、木と人との絆の深さをアピールしてほしい。こうした木工芸作品がさらに増えていくよう、多くの関係者が意識し応募してほしい。

会員作品

島の月夜（石垣島）―― 戸眞伊　擴
島の月夜（西表島）―― 戸眞伊　擴

準会員賞

飛翔―― 奥間政仁
神代欅指物盛器―― 津波敏雄

準会員作品

欅隠し蟻組文机と
整理箱２点セット―― 津波敏雄

沖展賞

応接テーブル―― 與那嶺勝正

奨励賞

硯箱（温故知新）―― 漢那憲次
魂龍（さんしん）三線立て台― 佐久川正次

浦添市長賞

飾り棚～流～―― 小橋川剛右

うるま市長賞

木杯―― 野田洋

一般入選作品

祝い箸セット―― 大田浩之
祝いしゃもじセット―― 大田浩之
寿龍（さんしん）三線立て台- 佐久川正次
古酒会―― 野田洋
renge　～香台～―― 比嘉亮太
木目彫出し盆―― 與那嶺勝正

島の月夜（西表島）（H50×W33×D20）
戸眞伊　擴（会員）

準会員賞

飛翔　（H146×W57×D9）**奥間　政仁**（準会員）

氏の沖展木工芸受賞歴は63回展奨励賞、64回展浦添市長賞、66回展奨励賞、67回展うるま市長賞、68回展奨励賞で準会員に推挙される。これまでの活躍は目覚ましいものがある。

今回の作品「飛翔」は昨年に続き三枚開きの衝立を造った。木材はひのき、杉、カランタスで主な塗装はニス（ウレンタンつや消し）、で技法的には組子（角麻）、木彫、寄木である。三枚開きの衝立には竹模様を中央に配置し、両サイドには幾何学模様の透かし彫りが施されている。作品から受ける印象は清涼感と透明感があり夏場には、より一層存在感を発揮する衝立となった。敢えて難点を探すとするなら蝶番の金色である。白を中心にした衝立に目立ち過ぎたか。それにしても秀作です。次への展開に期待します。

評－富元　明雄（会員）

準会員賞

神代欅指物盛器　（H8×W35×D35）**津波　敏雄**（準会員）

神代欅指物盛器は、胴丸の四角の盛器であるが、中央の四ヶ所に凸面をつくり、八角形に見せている。世界で一番強い接着剤を米粉と漆を使っている。全体の形をまるっこくやさしい形に見せている。面は欅の美しい木目と摺漆を何回も行いしぶく美しい。「神代指物」とは「神が治めていたという時代」のことといわれている。それらを総合して云えるのは、漆の性質をすべて知っていることがうかがえる。

彼は数十年前から、漆芸の道に入り、今に至っている。内側も外側にも鎬（しのぎ）を作っているが、一般に作品を緊張させる鎬ではなく、この作品は逆に、やわらかい表情をかもしている。彼は紆余曲折を繰り返しながらも漆芸はわすれなかったと思う。これから精進を願っている。

評－前田　孝允（会員）

沖展賞

応接テーブル　（H34×W75×D45）**與那嶺　勝正**

67回展は奨励賞、昨年の68回展でうるま市長賞、そして今回の69回展で沖展賞と3年連続の入賞である。今回の沖展賞の作品は応接テーブルである。材料はケヤキ材を使い脚の作りも線も素晴らしくていねいに仕上げられていて大変美しい作りである。そして天板の縁取りは木材を使って作り、その中央部分には布を張り付けてあり、その布が色あいといい又、柄それぞれがお客様を接待するにふさわしい布が使われているのも作者の作品作りに対する心配りがうかがえる作品で、木工芸の基本である。材料そして加工技術、それに塗装と全体的によく仕上げられている。まさに木工芸にふさわしい良い作品である。こういうところが評価され沖展賞につながったと思う。

今後もますますの活躍を期待しているところである。

評－戸眞井　擴（会員）

奨励賞

魂龍（さんしん）三線立て台
（H75×W94×D30）
佐久川　正次

魂龍（さんしん）と題する作品であるが、審査員が評価出来るのは音なしの評価である。黒檀を自然の形に、一部切込みをいれ、演奏出来る様にしている。サンシンは、王朝時代から続く、きびしい形があるが、この作品は、新しいサンシンをめざしている。演奏で肩からかける布も上品で、気配りのやさしさとみうけられる。サンシンである以上、音が出ないとどうしようもない。しかも、サンドペーパーをかけカシュー仕上げである。この作品の良さは、黒檀にであったことが一番で素地とのであいがなければ、生れない。素地は心がなければ入手できない。日頃からの感性がものをいう。しかも、この作品はエレキトーンであるという。作品の説明の日は、自分が演奏するとのことであるから楽しみである。予定は3月19日11時となっている。是非その日は楽しみにして来て下さい。

評－前田　孝允（会員）

奨励賞

硯箱（温故知新）（H5.8×W20×D28）
漢那　憲次

「朴」という素材を用いた硯箱である。箱の造作も工夫されていて、簡素な印象を受けるのは「柿渋塗り」・「ワックス仕上げ」という風合いからきていると思われる。平たい箱の表（蓋）には蓮の浮彫りが施されており、その図柄の構図が見事な出来映えである。細かい横線を背景に配置された蓮の配置の浮彫りに部分的に象嵌技術を取り入れて表現効果を上げ見応えがあり、今後につながる技術が楽しみである。

評－西村　貞雄（会員）

浦添市長賞

飾り棚〜流〜　(H150×W100×D40)
小橋川　剛右

沖展での出品は木工芸部門と彫刻部門の両部門にチャレンジしている。彫刻部では板材を貼り合わせることによって、諸々の変化を造形化した作品が主であった。その木工作家としての実績は木工芸、彫刻両部門で高く評価されている。今回の木工芸部門受賞作「飾り棚〜流〜」は楠の古木とセンダンの共演が主題になっている。流れる木目の美しいセンダンの部材に、這い上がるような楠の組み合わせである。白っぽいセンダンに黒の楠が対比して力強い作品になっている。氏がこれまで彫刻部門と木工芸部門に出品してきた集大成のような作品である。今後の彫刻、木工芸部門での活躍を期待します。

評－富元　明雄（会員）

うるま市長賞

木杯　(H9×W14×D14)
野田　洋

馬上盃を思わせる高台の杯であるが、受皿とセットになっている。それぞれ深さがありデザイン的にも優れている。木杯と受皿は2セットあって、一作は、琉球松で造られ、もう一作は琉球松とイタジイとを組み合わせている。両作とも錐で薄く彫り込まれ技術の高さが伺える。木杯を持った感触もよく、手に馴染む形の良さがある。ウレタン塗装によって材質感が出ている逸品である。

評－西村　貞雄（会員）

物故会員　略歴

【陶芸】金城　敏男（1936～2016）

1936年に人間国宝・故金城次郎さんの長男として那覇市壺屋に生まれる。父親の下で修業を積み、72年の日本復帰と同時に読谷村座喜味に工房を移して作陶に励んだ。精緻かつ重厚な作品を生み出し、線彫の魚文や赤絵など壺屋焼を代表する作風で知られた。

（略歴）

1936年（昭和11年）那覇市生まれ
1957年（昭和32年）国展入選
1982年（昭和57年）沖展会員推挙
1986年（昭和61年）県優秀技能賞受賞
1992年（平成4年）　沖縄タイムス芸術選賞大賞
2001年（平成13年）伝統的工芸品振興功労者として沖縄総合事務局長賞を受賞
2016年（平成28年）7月17日没（享年81歳）

【写真】前原　基男（1939～2016）

沖縄写真連盟会長。1978年に沖展会員に推挙。2006年に第40回沖縄タイムス芸術選賞大賞を受賞。同賞の選考委員も務める。

中学生からカメラを手にし、50年代から写真家として活動。戦後の沖縄の様々なシーンをカメラに収める。昨年、創立50周年を迎えた沖縄写真連盟では、創立時より理事として尽力され、2005年に会長に就任し、県内の写真愛好家の技術向上に努めた。

（略歴）

1939年（昭和14年）八重山竹富町生まれ
1978年（昭和53年）沖展会員推挙
2003年（平成15年）第1回日本写真作家協会公募展金賞
2005年（平成17年）「ふるさとへの想い竹富島」写真集刊行・写真展開催
2005年（平成17年）沖縄写真連盟会長就任
2006年（平成18年）沖縄タイムス芸術選賞　大賞
2016年（平成28年）12月26日没（享年77歳）

沖　展　会　則

第一章　名　称

第1条　この会は「沖展」と称し、沖縄タイムス社がこれを主催する。

第二章　目的及び活動

第2条　この会は、「沖展」の展覧会活動を主軸として現代美術工芸の創造発展につとめる。この目的のために次のことを行なう。

①. 春季に公募「沖展」を開催する。

②. 優秀な新人の推奨につとめる。

③. この目的のために必要あるときは、他の団体、機関と協力する。

第三章　方　針

第3条　沖展は、その伝統と歴史的な歩みのうえに各自の作品傾向を尊重し、その進展を期して運営される。

第四章　構　成

第4条　沖展は、絵画・版画・彫刻・工芸（陶芸・漆芸・染色・織物・ガラス・木工芸）書芸・写真・グラフィックデザインの七部門で構成する。

第5条　会の運営を円滑にするため、「沖展運営委員会」とその中に「企画委員会」を設ける。

第五章　会員・準会員

第6条　会員・準会員を各部門におきその数については定めない。

第7条　会員は、準会員中より推挙することを原則とする。推挙は、沖展審査終了後会員の合議によって行われる。

第8条　準会員は一般出品者中より推挙される。推挙は、会員推挙と同時に会員の合議によって行なう。

第9条　会員・準会員は、準会員賞又は沖展賞を2回以上受賞した者を対象とし、その他の受賞及び特別の推挙も考慮することができる。

第10条　会員・準会員は未発表の主要作品を沖展に発表し、又この会の維持運営に協力する。

第11条　会員・準会員は、希望意見を企画委員会に具申することができる。

第12条　客員・会員死去のときは、沖展会場に主要遺作を陳列するのを原則とする。陳列の場合、展示法、点数はそのつど企画委員会が協議する。

第13条　沖展に連続2回に亘って不出品を続ける会員・準会員は、その理由を運営委員会に知らさなければならない。病気その他の理由による不出品以外は運営委員会で審議の結果、会員・準会員を失格することがある。

第14条　会員・準会員のうちに、会の名誉を損う不適当な行為のあったときは、運営委員会はこれを審議し、該当者に対し除名又は適宜の処置をとる。

第六章　沖展運営委員会

第15条　運営委員は沖展運営委員長が会員中から委嘱する。

第16条　沖展運営委員長は沖縄タイムス文化事業局長がこれにあたる。

第17条　沖展運営委員会は沖展の運営ならびに公募作品の審査にあたる。

第18条　運営委員はそれぞれの所属部門の運営にあたる。

第19条　沖展運営委員会は毎年沖展募集要項を審議決定する。

第七章　企画委員会

第20条　企画委員会は各部門の運営委員中より選出された委員によって組織され、沖展運営の企画とその推

進を担当し、又は各種の審議権を運営委員会から委託される。その決議事項は運営委員会の承認を得なければならない。

第21条　企画委員長は沖展運営委員長がこれを兼ね、必要に応じ企画委員会を招集する。

第22条　企画委員会は「沖展」を定例的に企画し、又はこの会の発展のための企画をたてる。その他「沖展」会期中に処理すべき事項にあたる。

第23条　企画委員会は、欠席の部門に関する事項の決議は行わない。又委員の出席数が委任状を含めて定数の過半数に至らないときは、協議の決定は行わない。

第24条　企画委員会は、会員・準会員の中から下の係りを若干名ずつ委嘱し、「沖展」運営の円滑をはかる。

① 搬入、搬出係（作品の保護管理の指導を担当する）
② 審　査　係（審査の進行、記録、入選通知、発表等を担当する）
③ プロ作成係（沖展プログラムの編集及びデザインを担当する）
④ 会場構成係（沖展会場内外及び周辺の構成を担当する）
⑤ 受　賞　係（賞状、賞品等の準備、作成を担当する）
⑥ 懇 親 会 係（贈呈式、懇親会の運営を担当する）
⑦ 推挙事務係（被推挙者の資料作成を担当する）
⑧ Ｐ　Ｒ　係（報道対策、沖展盛り上げ企画等を担当する）

第25条　企画委員の定数は、絵画3、版画2、彫刻2、工芸6、書芸3、グラフィックデザイン2、写真2名、計20名とする。

第26条　企画委員の任期は、2年とし、運営委員会において各部で選出する。その選出に当たっては委員の半数が交替することを原則とする。

第八章　審査及び陳列

第27条　公募作品は審査を行ない運営委員および運営委員長がその審査に当たる。

第28条　審査委員長は運営委員長がこれに当たる。

第29条　審査委員長は、運営委員会の協議による基本案をもとに審査方針をたて、審査を主導する。又審査を円滑に運ぶための決定権をもつ。

第30条　① 作品の陳列は、各部門から部門別の陳列委員長を選出して行なう。
② 陳列委員長は、各部審査会終了と同時に選出する。
③ 陳列は各部陳列委員長の下に、若干名の陳列委員をおいて行なう。陳列委員は、陳列委員長の意向を参酌の上、会員・準会員の中から、審査会の席上で決める。
④ 陳列は陳列委員長の責任において行なう。

第九章　顧問及び客員

第31条　本会に顧問及び客員をおく。
本会の維持と発展に功績のあった人を顧問又は客員としておくことができる。

第十章　賛助会員

第32条　本会に賛助会員を置く。

第33条　賛助会員は運営委員会によって推挙されたもので、沖展に招待出品することができる。

1. 本会則は1971年2月9日より実施する。
2. 1984年4月3日改正
3. 1986年12月2日改正（第4条、第25条）

2016 年 4 月 3 日　撮影

協賛企業

DRAFT BEER

STOP! 未成年者飲酒

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。**オリオンビール株式会社**

妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量に。

株式会社 沖縄教育出版は、

第69回「沖展」を応援いたします。

沖展開催おめでとうございます。開催を記念いたしまして
『沖縄の色・香り・感性を楽しもう！』企画実施中！

沖展開催期間限定
3/18(土)～
4/2(日)まで

沖縄の飲む玄米

玄米しるしる

先着100名様にプレゼント！

新発売！

5袋 定価 1,200円

玄米の香りをたのしみながら美味しく、手軽に生活に取り入れられるよう、玄米がお湯に溶かして飲むドリンクになりました。食欲がない時や消化が弱っている時の元気の素に、コンビニのお菓子ではなく健康的な小腹満たしに、スープやホットケーキに混ぜた一工夫でもっと美味しく楽しく玄米を。

沖縄県民の皆様は
玄米しるしる飲んでみて
どう感じるかしらっ？
お聞かせくださいね！

e-no
イメージキャラクター
魅川 憲一郎

プレゼントの応募はこちら！

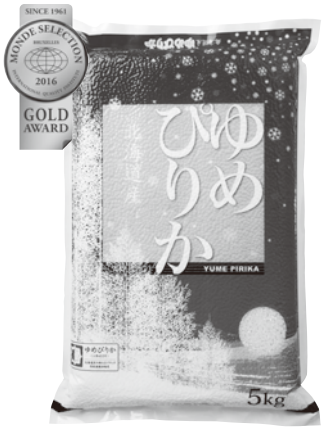
応募方法 メール、お電話、FAXでキーワードをお伝えください。
※キーワードは「沖展」

メール 氏名・ご住所・お電話番号を記載の上、下記メールにご応募ください。
e-mail : akiko@e-nolife.com

お電話/FAX e-no TEL 0120-430-961 受付 午前9:00～午後9:00 (日曜は休館)
FAX（24時間受付）:0120-430-962

沖縄教育出版
〒900-0013 沖縄県那覇市牧志 1-2-24
TEL：098-866-4779 FAX：098-867-6677

モンドセレクション受賞



金賞

金賞

金賞

銀賞

沖縄食糧株式会社 沖縄食糧 検索

おかげ様で創業55周年
株式会社 大川

大川家具グループ

家具とインテリアの大型専門店 THE GRACE

maxplus HOME FURNISHINGS STORE

アウトレット家具の TODAY O!K

もっと深くもっと広く 50th ANNIVERSARY この島の暮らしの中へ

KARIYUSHI HOTELS

http://www.kariyushi.co.jp/

7つのホテルでそれぞれの過ごし方…
かりゆしホテルズは、最高のおもてなしで皆様をお迎えします。

EXES

OKINAWA
URBAN RESORT NAHA
KARIYUSHI

OKINAWA
BEACH RESORT OCEAN SPA
KARIYUSHI

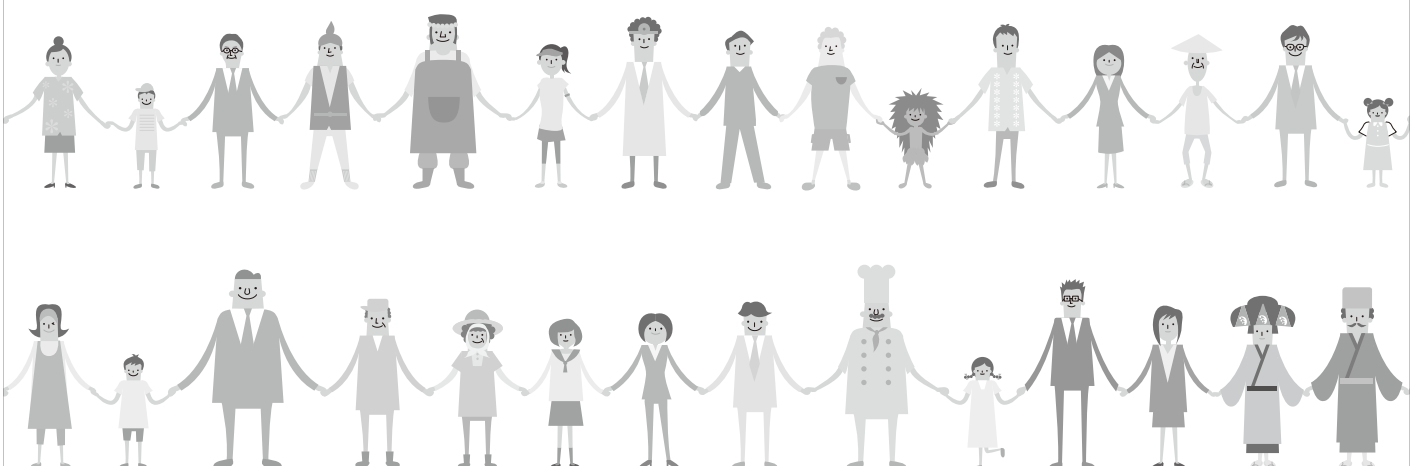
EXES
Ishigakijima
Okinawa

OKINAWA
KARIYUSHI LCH.
Izumizaki

OKINAWA
KARIYUSHI LCH.
2nd
Izumizaki

OKINAWA
KARIYUSHI LCH.
PREMIUM

人と人をつなぐ幸せを、　いつまでも。



KOBUNDO Communications
光文堂コミュニケーションズ株式会社
本社・南風原町字兼城577番地 TEL.098-889-1121
http://www.kobundo.net

広　　告

古美術 観宝堂

骨董品・美術品 誠実高価買入、無料鑑定も致します。
お気軽に御相談下さい。

本　店　沖縄県那覇市松山1-23-1（福州園正門前）
TEL（098）863-2643　FAX（098）863-0583

東京店　東京都港区南青山4-23-6（根津美術館横）
TEL（03）3499-5056　FAX（03）6778-8173

書道

峰雲書道院 豊平峰雲

沖縄県書作家協会木筆會会長

那覇市田原 1-10-4 ☎098-858-9155

一般の時間割			
火		13:30〜15:00	
水	10:30〜12:00	13:30〜15:00	19:00〜20:30
木	10:30〜12:00	13:30〜15:00	19:00〜20:30
金	10:30〜12:00	13:30〜15:00	

随時入会することができます。

安心・安全を提供して48年!

これからも提供し続けます
人とシステムでより確かな安心を

(株)琉球保安警備隊

代表取締役社長 宮里 和政

本社	沖縄県沖縄市与儀1丁目7番5号	☎098(983)8811
那覇営業所	沖縄県那覇市首里末吉町4-6-1	☎098(887)1818
浦添営業所	沖縄県浦添市牧港1-64-15	☎098(878)9065
うるま営業所	沖縄県うるま市字大田321	☎098(975)0105
北部営業所	沖縄県名護市字田井等652番地1	☎0980(58)3096
宮古営業所	沖縄県宮古島市平良字西里768-13	☎0980(73)4650

城間びんがた工房

代表 城間栄順

那覇市首里山川町 1-113
(ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城東側)

電話 (098)885-9761

芭蕉布織物工房

平良敏子

大宜味村字喜如嘉1103
☎(0980)44-3202 FAX(0980)44-3251

イベント会場設営・大型テント・レンタル

SST

砂辺松福テント(株)

代表取締役　砂辺昭伸

ハナノ　テントゥヤ

本社 877-1028

http://www.sunabe-tent.co.jp

額縁のことなら

MS 合資会社 前田額装商会

代表者 前田　茂

〒900-0014

那覇市松尾２丁目７番地29号（浮島通り）

TEL (098) 867－4811

FAX (098) 861－0367

写真・映像・音楽を創造する

モリヤマグループ

東町にてオープン

カメラ・プリント・写真撮影のことなら

カメラのモリヤマ

TEL 098-867-7368

出張写真・映像撮影、音楽収録のことなら

Okinawa Media Art Center oMac 沖縄メディア・アート・センター 音と光の工房

TEL 098-862-1554

音楽イベント企画・演奏のことなら

oMac oMac Entertainment

TEL 098-861-7322

那覇市東町19-22

カメラのモリヤマＡＲＴビル

http://www.e-okinawa.co.jp/mips

沖縄タイムスのご試読キャンペーンのご案内

沖縄タイムス が 7日間 0円

読んで試せる

無料お試しキャンペーン!!

本紙＋副読紙

ほ～むぷらざ（木曜日）
タイムス住宅新聞（金曜日）
ワラビー（日曜日）
らくら（偶数月第一日曜日）

ご試読された方には、ワラビーグッズをプレゼント!!

お問い合わせ・お申し込みは

FREE DIAL 0120-21-9674（平日9:00～18:00）

FAX:098-861-8661（24時間受け付け）

hanbai@okinawatimes.co.jp

シーサー各種

壺屋焼

湧田陶器

壺屋陶器事業協同組合会員

那覇市繁多川 5-23-25

Tel/098-853-5855

各種宴会、会議、研修、宿泊は

一般財団法人 **沖縄県青年会館**

レストラン **アレグリア**

〒900-0033 那覇市久米二丁目15番23号

TEL.098-864-1780

FAX.098-864-1783

沖縄県市町村職員互助会　沖縄県教職員共済会指定

那覇市職員厚生会　沖縄県市町村職員共済組合

出張パーティ承ります。ご予算に応じます。

オードブル・寿司盛り合わせ出前いたします。

琉球紅型

玉那覇紅型工房

工房案内

玉那覇　有　公

那覇市首里山川町1－66

☎ 884－1184

美術品・文化遺産の梱包輸送

～引越のことなら日通～

琉球物流

RYUKYU LOGISTICS

〒900-0001　沖縄県那覇市港町2-17-13

TEL(098)861-5151

FAX(098)861-5158

http://www.ryukyu-logi.com

筆・墨・硯・紙・書道専門書

裏打・表装・貸額

書道用品専門店

丸正

南風原町字新川 505-1

☎(098)851-3985　FAX(098)851-3986

オキジム

〔株〕東洋企画印刷
代表取締役　大 城　　孝

つながれば、
新しいカタチ発見！
新しい印刷のご提案

NICE ! IDEA

デザイン・編集／印刷物の企画・立案／出版・印刷物の電子メディア化・取材・撮影／ FM 高精細印刷／ラミネート加工・オンデマンド印刷／出版セールスプロモーション

園芸養土　生産販売　陶芸ねんど

㈲　緑　土　産　業

代表者　渡慶次　進

〒901-2316　沖縄県北中城村安谷屋617番地
TEL.098-935-4392　FAX.098-935-5242

●主　　催　沖縄タイムス社
●協　　力　浦添市・浦添市教育委員会
●協　　賛　オリオンビール(株)・(株)沖縄教育出版
沖縄食糧(株)・(株)大川・(株)かりゆし
光文堂コミュニケーションズ(株)
●後　　援　沖縄県・沖縄県教育委員会・琉球放送
琉球朝日放送・ＮＨＫ沖縄放送局
エフエム沖縄

第69回　沖展プログラム

定価　1,000円
（税込み）

■発行日：2017年３月
■印　刷：株式会社 東洋企画印刷

発行　沖縄タイムス社文化事業局

■表紙デザイン：小浜　晋
■沖展ロゴタイプデザイン：宮城 保武・我喜屋 明正
■写真撮影：LaLa Film´s（ララフィルム）

OKITEN 2017 EXHIBITION